

平成 30 年度 学位請求論文

保育者, 小学校教員養成課程におけるピアノ初学者へのピアノ指導  
— 効果的なピアノ学習のための新しい教材の開発 —

日本大学大学院 芸術学研究科  
博士後期課程芸術専攻

四家 昌博

## 目次

|   |     |
|---|-----|
| 第1章 序論  | 3   |
| 第1節 研究の背景, 目的                                     | 3   |
| 第2節 研究の方法   | 4   |
| 第2章 保育者, 小学校教員養成課程におけるピアノ教育の現状                    | 5   |
| 第1節 保育者, 小学校教員養成の現状                               | 5   |
| 第1項 保育者, 小学校教員養成校と保育者, 小学校教員数の推移                  | 5   |
| 第2項 養成校の新入生のピアノの能力                                | 8   |
| 第2節 保育所保育指針, 幼稚園教育要領, 小学校音楽科学習指導要領の改訂と養成課程のカリキュラム | 11  |
| 第3節 養成校のためのピアノ教材の比較                               | 22  |
| 第3章 保育・教育の現場が保育者, 小学校教員に求めるピアノ, 音楽に関する能力          | 25  |
| 第1節 保育士試験の実技試験                                    | 25  |
| 第2節 保育者へのアンケート調査から                                | 27  |
| 第3節 小学校教員へのインタビュー調査から                             | 56  |
| 第4章 初学者への効果的な指導法の考察                               | 68  |
| 第1節 養成校のピアノ教員への調査                                 | 68  |
| 第2節 養成校でのピアノ初学者が抱える問題と対応                          | 79  |
| 第5章 教材の作成と指導の実践                                   | 83  |
| 第1節 保育者, 小学校教員養成課程におけるピアノ教材の変遷                    | 83  |
| 第1項 日本におけるピアノ教育初期の教育                              | 83  |
| 第2項 メーソンと日本のピアノ教則本受容                              | 83  |
| 第3項 ピアノ教育初期の教則本                                   | 85  |
| (1) バイエルピアノ教則本                                    | 85  |
| (2) バイエルの原題と序文                                    | 88  |
| (3) リチャードソンのニューメソッド                               | 90  |
| (4) ウルバツハ教則本                                      | 92  |
| (5) ニューイングランド音楽院ピアノメソッド                           | 95  |
| (6) 4つのピアノ教則本の比較                                  | 102 |
| 第2節 フォルマシオン・ミュージカル                                | 105 |
| 第3節 初学者への効果的な指導に向けて                               | 108 |
| 第1項 ピアノ奏法の変遷の概要                                   | 108 |
| 第2項 初学者に対するピアノ奏法指導                                | 108 |
| 第3項 効果的な教材の作成に向けて                                 | 111 |

|                        |     |
|------------------------|-----|
| 第4節  新しい教材での授業実践と教材の評価 | 113 |
| 第6章  結論                | 128 |

## 参考文献

## 謝辞

## 付録 保育者 小学校教員養成課程で学ぶピアノ初学者のための 新しいピアノ学習教材

## 第1章 序論

### 第1節 研究の背景, 目的

筆者は、2008年度より、4年制大学の保育士、幼稚園教諭養成課程において、また2013年度からは両者に加え小学校教員養成課程におけるピアノ指導を行ってきた。養成校に入学してくる学生のうち、全くピアノの経験がない学生は、毎年一定数おり、また経験があっても忘れてしまっている学生や、ピアノの演奏と音楽理論の知識や、音楽的教養、音楽的表現が結びついていない学生も数多く見受けられる。

ピアノ演奏には様々な音楽的知識やテクニックが必要であるが、中でもピアノの弾き方、奏法については、ピアノを全く初めて弾くという段階から、学習者も指導者も、常に意識しながら学ぶことが重要である、と改めて考えるようになった。このことは、音楽を専門的に学び、ピアノを専攻する場合に非常に重要なことであるが、音楽やピアノを専門的に学ぶのではなく、保育の中での表現活動の1つとして音楽やピアノを学習する場合、また教育の現場で授業等にピアノを用いる場合にも、同様に重要なことと考える。

しかしながら、音楽を専門に学習する場合とは大きく異なり、保育者（保育士と幼稚園教諭の両者の総称）養成や小学校教員養成の場合、短期間に、また短い授業時間で、一定の演奏技法の習得が求められる。さらに、18歳という青年期に全く初めてピアノを学習する、という学習者の割合も少なくない。

大学、短期大学や専門学校等の高等教育機関における保育者や、小学校教諭の養成課程でのピアノの指導について、現在までに様々な研究がなされてきている。また、保育者、小学校教諭の養成校を対象としたピアノ教材、教則本が多数出版されている。

その中で、養成校用のさまざまなピアノ教材を見てきたが、大学や短期大学等で全く初めてピアノを弾く、というピアノの初学者に特化し、十分考慮されている教材は、あまり見当たらなかった。また、ピアノを始める年齢として、大学や短期大学等に入学する18歳という年齢は、一般的には遅いと言われており、養成校での2年間、3年間、4年間という修学期間は、ピアノという楽器の演奏技能を身に付けるには決して十分な期間とは言えない。

この18歳で全く初めてピアノを学習し始めるということ、また短期間に演奏技能を習得するということに焦点を当て、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭を目指すピアノの初学者が、大学などの教育機関において、効率良く学習を進めることができるピアノ教材を開発する、ということが本研究の最終的な目的である。

## 第2節 研究の方法

本研究の方法として、最終的な目的である保育士、幼稚園教諭、また小学校教諭の養成課程における初学者が効果的に学習することができる新しいピアノ教材を作成するために、まずは既存の養成校を対象としたピアノ教材の比較、分析を行う。

また、保育士、幼稚園教諭、保育教諭、小学校教諭への調査を行い、保育、教育の現場で必要とされるピアノ演奏や音楽に関する技能について、また保育、教育の現場でどのような歌が歌われているか、そのピアノ伴奏等に必要な技能等を明らかにする。

歴史的に、保育者、小学校教諭の養成機関において、これまでどのようなピアノ教材、教則本が使用されてきたか、その変遷をたどり教材の内容について考察する。

さらに、養成校でピアノを指導する教員を対象とした、初学者に対するピアノ指導についての調査を行う。

これらを総合し、習得の順序等も考慮しながら、初学者が効果的に学習することができる教材を作成する。

実際に、2018年4月からS女子大学人間学部人間発達学科の保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成課程における前期の1年生のピアノの授業の一部に教材を使用し、それまでの教材との差異を実験的に比較、分析し、評価、検証する。なお、授業を受けた学生らからは、授業に関するデータを研究目的で本論文に使用することについて説明を行い承諾を得ていることを書き添える。

数値の処理および検定は Microsoft Excel for Mac のデータ分析機能を用いて解析を行い、検定については、 $p < .05$  を有意水準とした。

## 第2章 保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ教育の現状

### 第1節 保育者、小学校教員養成の現状

#### 第1項 保育者、小学校教員養成校と保育者、小学校教員数の推移

現在の日本で保育士として保育施設で勤務するためには、全国保育士養成協議会が行っている保育士試験（国家資格）を受験し合格して保育士資格を取得するか、または厚生労働省の指定する指定保育士養成施設において定められた課程を修了し保育士資格を取得することが必要である。幼稚園教諭については、文部科学省の定める幼稚園教諭養成課程のある大学、短大等で学び幼稚園教諭免許状を得ることが必要であり、同様に小学校教諭についても、小学校教員養成課程のある大学、短期大学等で小学校教諭免許状を取得することが必須である。

平成29年度4月1日現在において、指定保育士養成施設は大学、短期大学、専門学校の昼間部、夜間部、また通信教育制を合わせ、全国に669の施設がある。<sup>1</sup> 幼稚園教諭養成課程のある大学、短期大学は通学課程、通信教育課程を合わせ566の養成校があり、<sup>2</sup> 小学校教員養成課程のある大学、短大は通学過程、通信教育課程を合わせ311の養成校が認められている。<sup>3</sup>

平成30年4月1日からは、指定保育士養成施設は15施設増加し<sup>4</sup>、幼稚園教諭免許が取得できる大学、短期大学が11校、小学校教諭免許が取れる大学が8校新設（短期大学から4年制大学へ改編したものも含む）された。<sup>5</sup>

また、保育士の数、幼稚園教諭、小学校教諭の人数の推移に着目すると、まず保育士については、厚生労働省の雇用均等・児童家庭局保育課で2015年（平成27年）11月より行われた「保育士等確保対策検討会」のうち、第3回（2015年（平成27年）12月4日開催）の資料<sup>6</sup>（表1）によ

<sup>1</sup> 厚生労働省ホームページより

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo\\_kosodate/hoiku/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.html)  
（2018年9月閲覧）

<sup>2</sup> 文部科学省ホームページより 「文部科学統計要覧（平成30年度版）」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287039.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287039.htm)（2018年9月閲覧）  
通学過程で一種免許状、二種免許状を取得できる大学、短期大学、また通信課程の大学、短期大学の数。専修免許状を取得できる大学院等については計上していない。

<sup>3</sup> 文部科学省ホームページより 「文部科学統計要覧（平成30年度版）」

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287044.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/daigaku/detail/1287044.htm)（2018年9月閲覧）  
通学過程で一種免許状、二種免許状を取得できる大学、短期大学、また通信課程の大学、短期大学の数。専修免許状を取得できる大学院等については計上していない。

<sup>4</sup> 厚生労働省ホームページより

<https://www.mhlw.go.jp/content/000345025.pdf>（2018年10月閲覧）

<sup>5</sup> 文部科学省ホームページより

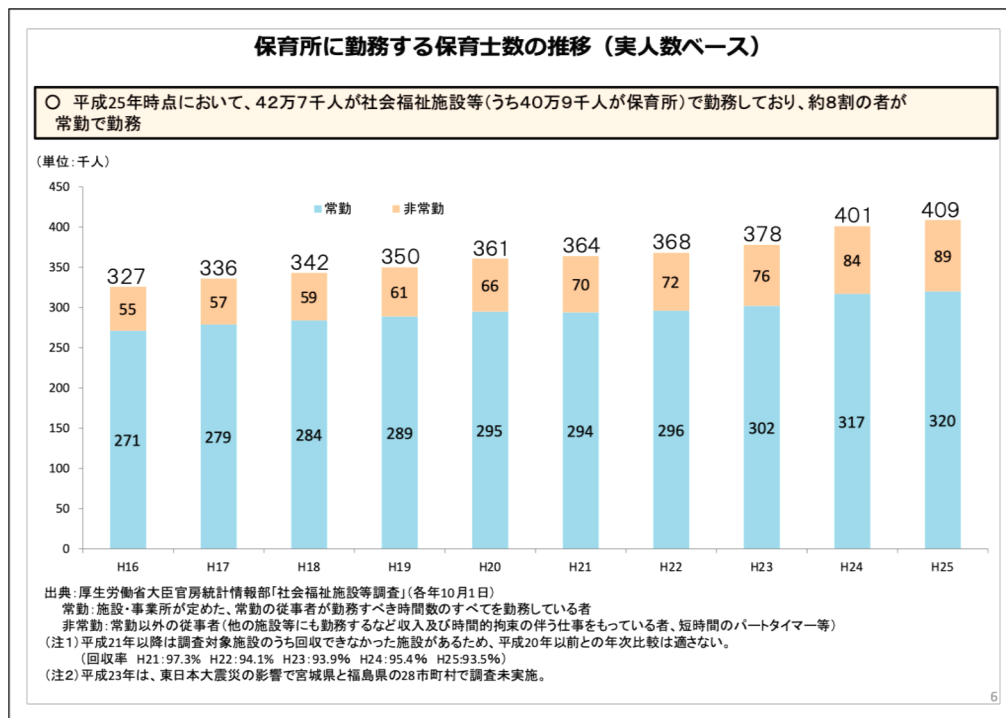
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/23/1286672\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/04/23/1286672_3.pdf)（2018年10月閲覧）

<sup>6</sup> 厚生労働省ホームページより

[https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/s.1\\_3.pdf](https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/s.1_3.pdf)  
（2018年10月閲覧）

れば、保育所(園)<sup>7</sup>に勤務する保育士の数は、平成16年から平成25年にかけて、32万7千人から40万9千人まで、毎年増加していることが分かる。

表1 保育所に勤務する保育士数の推移



(<sup>6</sup>厚生労働省「第3回保育士等確保対策検討会」参考資料1「保育士等に関する関係資料」p.6)

また幼稚園教諭、小学校教諭についても、近年その数は年ごとに増加傾向にある。文部科学省の「文部科学統計要覧(平成30年度)」<sup>8</sup>による、幼稚園教諭の教員数の推移について表2のとおり、また幼保連携型認定こども園<sup>9</sup>の教員数の推移を表3、小学校教諭の教員数の推移を表4に示す。

表2の幼稚園教諭の教員数の推移では、見かけでは2015年に減少しているように見えるが、これは文部科学省統計要覧に幼保連携型認定こども園の項目が追加され、これまで幼稚園の教員として計上されていた教員数が、幼稚園から幼保連携型認定こども園に移行した施設の教員数に含まれることによるものであり、実際には減少している訳ではない。

<sup>7</sup> 児童福祉法では「保育所」が正式名称である。公立、私立、また認可、認可外に関わらず、「保育所」、「保育園」の両方の名称が使用されている。本論では「保育所(園)」と統一し表記する。

<sup>8</sup> 文部科学省ホームページより [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/toukei/002/002b/1403130.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1403130.htm) (2018年10月閲覧)

<sup>9</sup> 改正認定こども園法により創設された幼稚園的機能と保育所的機能の両方を併せ持つ単一の施設。「保育教諭」が配置され、保育教諭は幼稚園教諭免許状と保育士資格の両方が必要となる、ただし、現在経過措置が講じられている。

表 2 幼稚園教諭の教員数の推移

| 教 員 数<br>Full-time Teachers by Type of Position |            |         |                 |              |                |  |
|---|------------|---------|-----------------|--------------|----------------|--|
| 区 分   | 計<br>Total | うち女     | 国 立<br>National | 公 立<br>Local | 私 立<br>Private | 女の割合<br>(%)<br>Percentage<br>of female |
|   |            | Female  |                 |              |                |  |
| 昭和30年('55)                                      | 24,983     | 22,894  | 91              | 6,832        | 18,060         | 91.6                                   |
| 35('60)   | 31,330     | 28,842  | 103             | 8,049        | 23,178         | 92.1                                   |
| 40('65)   | 45,193     | 41,948  | 125             | 10,328       | 34,740         | 92.8                                   |
| 45('70)   | 66,579     | 62,370  | 170             | 14,509       | 51,900         | 93.7                                   |
| 50('75)   | 85,680     | 80,673  | 237             | 22,393       | 63,050         | 94.2                                   |
| 55('80)   | 100,958    | 94,920  | 278             | 27,576       | 73,104         | 98.9                                   |
| 60('85)   | 98,455     | 92,313  | 273             | 26,400       | 71,782         | 93.8                                   |
| 平成 2('90)                                       | 100,932    | 94,614  | 278             | 25,234       | 75,420         | 93.7                                   |
| 7('95)  | 102,992    | 96,757  | 293             | 24,921       | 77,778         | 93.9                                   |
| 12('00)   | 106,067    | 99,785  | 313             | 25,310       | 80,444         | 94.1                                   |
| 17('05)   | 110,393    | 103,586 | 332             | 25,493       | 84,568         | 93.8                                   |
| 22('10)   | 110,580    | 103,330 | 340             | 24,170       | 86,070         | 93.4                                   |
| 25('13)   | 111,111    | 103,738 | 360             | 23,793       | 86,958         | 93.4                                   |
| 26('14)   | 111,059    | 103,648 | 344             | 23,360       | 87,355         | 93.3                                   |
| 27('15)   | 101,497    | 94,769  | 352             | 21,295       | 79,850         | 93.4                                   |
| 28('16)   | 99,957     | 93,450  | 341             | 20,675       | 78,941         | 93.5                                   |
| 29('17)   | 97,840     | 91,444  | 337             | 19,836       | 77,667         | 93.5                                   |
| 園 長 Principal                                   | 8,530      | 5,154   | 5               | 2,566        | 5,959          | 60.4                                   |
| 副 園 長 Vice-Principal                            | 3,085      | 2,437   | 38              | 471          | 2,576          | 79.0                                   |
| 教 頭 Vice-Principal                              | 1,596      | 1,488   | 12              | 616          | 968            | 93.2                                   |
| 主幹教諭 Senior teacher                             | 2,744      | 2,635   | 6               | 194          | 2,544          | 96.0                                   |
| 指導教諭 Advanced skill teacher                     | 1,050      | 998     | 1               | 32           | 1,017          | 95.0                                   |
| 教 諭 Teacher                                     | 74,750     | 72,858  | 226             | 12,160       | 62,364         | 97.5                                   |
| 助 教 諭 Assistant teacher                         | 1,446      | 1,399   | —               | 529          | 917            | 96.7                                   |
| 養護教員 Nursing teacher                            | 399        | 399     | 43              | 286          | 70             | 100.0                                  |
| 栄養教諭 Diet and nutrition teacher                 | 71         | 70      | —               | 4            | 67             | 98.6                                   |
| 講 師 Temporary instructor<br>(別掲)                | 4,169      | 4,006   | 6               | 2,978        | 1,185          | 96.1                                   |
| 兼 務 者 Part-time                                 | 20,255     | 17,588  | 214             | 4,289        | 15,752         | 86.8                                   |

(8 文部科学省「文部科学統計要覧(平成30年度)」2.幼稚園)

表 3 幼保連携型認定こども園の教員数の推移

| 教 員 数<br>Full-time Teachers by Type of Position                         |            |        |                 |              |                |  |
|---|------------|--------|-----------------|--------------|----------------|--|
| 区 分   | 計<br>Total | うち女    | 国 立<br>National | 公 立<br>Local | 私 立<br>Private | 女の割合<br>(%)<br>Percentag<br>e<br>of female |
|   |            | Female |                 |              |                |  |
| 27('15)   | 37,461     | 35,337 | —               | 5,644        | 31,817         | 94.3                                       |
| 28('16)   | 57,118     | 53,992 | —               | 7,014        | 50,104         | 94.5                                       |
| 29('17)   | 75,615     | 71,600 | —               | 8,948        | 66,667         | 94.7                                       |
| 園 長 Principal   | 3,517      | 2,139  | —               | 532          | 2,985          | 60.8                                       |
| 副 園 長 Vice-Principal  | 2,378      | 1,903  | —               | 415          | 1,963          | 80.0                                       |
| 教 頭 Vice-Principal  | 384        | 341    | —               | 30           | 354            | 88.8                                       |
| 主幹保育教諭<br>Senior teacher for early childhood education and care         | 4,866      | 4,732  | —               | 417          | 4,449          | 97.2                                       |
| 指導保育教諭<br>Advanced skill teacher for early childhood education and care | 1,655      | 1,595  | —               | 125          | 1,530          | 96.4                                       |
| 保育教諭<br>Teacher for early childhood education and care                  | 58,098     | 56,304 | —               | 5,743        | 52,355         | 96.9                                       |
| 助保育教諭<br>Assistant teacher for early childhood education and care       | 1,571      | 1,538  | —               | 403          | 1,168          | 97.9                                       |
| 養護教員 Nursing teacher  | 149        | 147    | —               | 29           | 120            | 98.7                                       |
| 栄養教諭 Diet and nutrition teacher   | 953        | 946    | —               | 16           | 937            | 99.3                                       |
| 講 師 Temporary instructor<br>(別掲)  | 2,044      | 1,955  | —               | 1,238        | 806            | 95.6                                       |
| 兼 務 者 Part-time   | 11,290     | 10,955 | —               | 1,297        | 9,993          | 97.0                                       |

(8 文部科学省「文部科学統計要覧(平成30年度)」3.幼保連携型認定こども園)



表 4 小学校の教員数の推移

| 教 員 数                                  |         |         |          |         |         |                      |
|--|---------|---------|----------|---------|---------|----------------------|
| Full-time Teachers by Type of Position |         |         |          |         |         |                      |
| 区 分                                    | 計       | うち女     | 国 立      | 公 立     | 私 立     | 女の割合 (%)             |
|  | Total   | Female  | National | Local   | Private | Percentage of female |
| 昭和30年('55)                             | 340,572 | 158,239 | 1,520    | 337,535 | 1,517   | 46.5                 |
| 35('60)                                | 360,660 | 163,438 | 1,542    | 357,154 | 1,964   | 45.3                 |
| 40('65)                                | 345,118 | 166,900 | 1,611    | 341,407 | 2,100   | 48.4                 |
| 45('70)                                | 367,941 | 187,322 | 1,767    | 363,794 | 2,380   | 50.9                 |
| 50('75)                                | 415,071 | 227,258 | 1,761    | 410,820 | 2,490   | 54.8                 |
| 55('80)                                | 467,953 | 264,932 | 1,719    | 463,565 | 2,669   | 56.6                 |
| 60('85)                                | 461,256 | 258,219 | 1,776    | 456,695 | 2,785   | 56.0                 |
| 平成 2('90)                              | 444,218 | 259,188 | 1,783    | 439,542 | 2,893   | 58.3                 |
| 7('95)                                 | 430,958 | 263,626 | 1,777    | 426,003 | 3,178   | 61.2                 |
| 12('00)                                | 407,598 | 253,946 | 1,783    | 402,579 | 3,236   | 62.3                 |
| 17('05)                                | 416,833 | 261,559 | 1,755    | 411,472 | 3,606   | 62.7                 |
| 22('10)                                | 419,776 | 263,746 | 1,858    | 413,473 | 4,445   | 62.8                 |
| 25('13)                                | 417,553 | 261,109 | 1,843    | 410,928 | 4,782   | 62.5                 |
| 26('14)                                | 416,475 | 259,875 | 1,833    | 409,753 | 4,889   | 62.4                 |
| 27('15)                                | 417,152 | 260,025 | 1,820    | 410,397 | 4,935   | 62.3                 |
| 28('16)                                | 416,973 | 259,639 | 1,833    | 410,116 | 5,024   | 62.3                 |
| 29('17)                                | 418,790 | 260,487 | 1,795    | 411,898 | 5,097   | 62.2                 |
| 校 長 Principal                          | 19,451  | 3,763   | 7        | 19,273  | 171     | 19.3                 |
| 副 校 長 Senior vice-principal            | 1,942   | 591     | 54       | 1,817   | 71      | 30.4                 |
| 教 頭 Vice-principal                     | 18,303  | 4,367   | 34       | 18,075  | 194     | 23.9                 |
| 主幹教諭 Senior teacher                    | 10,153  | 4,743   | 66       | 10,036  | 51      | 46.7                 |
| 指導教諭 Advanced skill teacher            | 1,097   | 677     | 9        | 1,079   | 9       | 61.7                 |
| 教 諭 Teacher                            | 312,131 | 200,862 | 1,478    | 306,813 | 3,840   | 64.4                 |
| 助 教 諭 Assistant teacher                | 2,055   | 1,220   | —        | 1,907   | 148     | 59.4                 |
| 養護教員 Nursing teacher                   | 21,446  | 21,427  | 76       | 21,170  | 200     | 99.9                 |
| 栄養教諭 Diet and nutrition teacher        | 4,343   | 4,231   | 55       | 4,285   | 3       | 97.4                 |
| 講 師 Temporary instructor<br>(別掲)       | 27,869  | 18,606  | 16       | 27,443  | 410     | 66.8                 |
| 兼 務 者 Part-time                        | 40,365  | 28,558  | 451      | 38,398  | 1,516   | 70.7                 |

(<sup>8</sup> 文部科学省「文部科学統計要覧(平成30年度)」4.小学校)

これらのことから、保育士、幼稚園教諭また小学校教諭は、その養成校も微増し、保育者、小学校教員の数も増加の傾向にあり、今後も引き続き社会的に需要が見込まれる。さらには、近年の待機児童の問題や、小学校における外国語教育の本格的な導入など、それぞれ人材の確保とともに質の向上も求められており、保育者、小学校教諭の養成の現場においても、卒業後の将来までを見通し、社会に出て保育、教育の現場で貢献できる人材の育成が求められている。

## 第2項 養成校の新入生のピアノの能力

保育者や小学校教諭の養成校におけるピアノ教育については、日本において養成が始まった当初から継続して行われており、ピアノの演奏技能は保育、教育において重要視されていると言える。このことについては、後の第5章第1節「保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ教材の変遷」において詳細を論じる。泉谷(2006)は、「ピアノの技術習得に寄せる現場からの期待は大きいと思われる」<sup>10</sup>と言及している。保育、教育の現場からの意見については、今回行った

<sup>10</sup> 泉谷千晶「初心者のためのピアノ・グループ指導の研究～保育者養成課程における実技のカリキュラムの工夫～ p.25

調査の内容を第3章で詳しく論じる。

しかしながら、中山(2008)は、「多くの養成校では、入学試験科目にピアノ実技を課していないため、ピアノ学習未経験の学生が入学している。」<sup>11</sup> という実情を指摘している。東北地方の保育、幼児教育、児童教育等を学ぶ27校の大学、短期大学の2017年度実施の入学試験について調査したところ、国立大学で小学校、中学校や高等学校の教員免許を取得する学科で、音楽系の専攻を選択し入学試験を受験する場合についての音楽に関する実技試験を除き、保育士、幼稚園教諭、また小学校教諭の資格、免許取得を主とした学科の場合は、入学試験で音楽に関する実技があったのは調査した27校のうち1校(リズム打ちの模倣や、スキップ等のステップなど、ピアノの実技試験ではないもの)のみであった。

養成校に入学した新生を対象とした、音楽経験、ピアノが弾けるかどうか等の、ピアノの能力に関する調査、研究については、多くの例が報告されている。中山(2008)は養成校に入学する前のピアノの学習経験について「入学者の約20%がピアノ学習未経験者である。」<sup>12</sup> と示し、金指(2009)は「毎年30～40%の学生が、ピアノのレッスンを受けた経験がなく入学してくる」<sup>13</sup> ことを指摘している。また高御堂(2011)は養成校の学生のうち「45%がピアノ未経験者」<sup>14</sup> であることを、小野(2012)は、2011年の調査で大学入学前のピアノレッスン経験の有無について45.2%の学生が経験がないこと<sup>15</sup> を示しており、また三沢(2016)によれば、保育者養成校において入学の前に「音楽の授業以外の音楽経験のある者は約3割」<sup>16</sup> と報告し、諸井(2016)は「ピアノの経験が「全くなし」と」<sup>17</sup> 答えた学生が38%であることを報告している。この報告は調査対象の養成校や、地域や性別(共学か女子大学か)が異なることや、対象の母数が多くはないことから、あくまでも推定ではあるが、2008年から現在まで、ピアノ未経験の入学生の数が緩やかに増加している傾向がうかがえる。

筆者が勤務しているS女子大学における2008年度から2017年度までの、入学生のピアノ経験の年数についての調査結果をグラフ1に示す。この結果からは年度によりピアノ未経験者が減少している部分も見受けられるが、2011年度からは僅かずつではあるが未経験者の割合が増加している現状が示される。なお、2018年度入学生のピアノ未経験者の割合は40.81%であり、

---

<sup>11</sup> 中山由里「ピアノ教育の導入期における授業についての一考察 -ピアノ学習初心者への講座を通して-」 p.67

<sup>12</sup> 同上 p.67

<sup>13</sup> 金指初恵「弾き歌いに関する一考察：教育実習事前指導の観点から」 p.199

<sup>14</sup> 高御堂愛子「保育者・小学校教諭を目指す学生の読譜力とリズム感について -東海学園大学人文学部発達教育学科第2期生の実態調査より-」 p.131

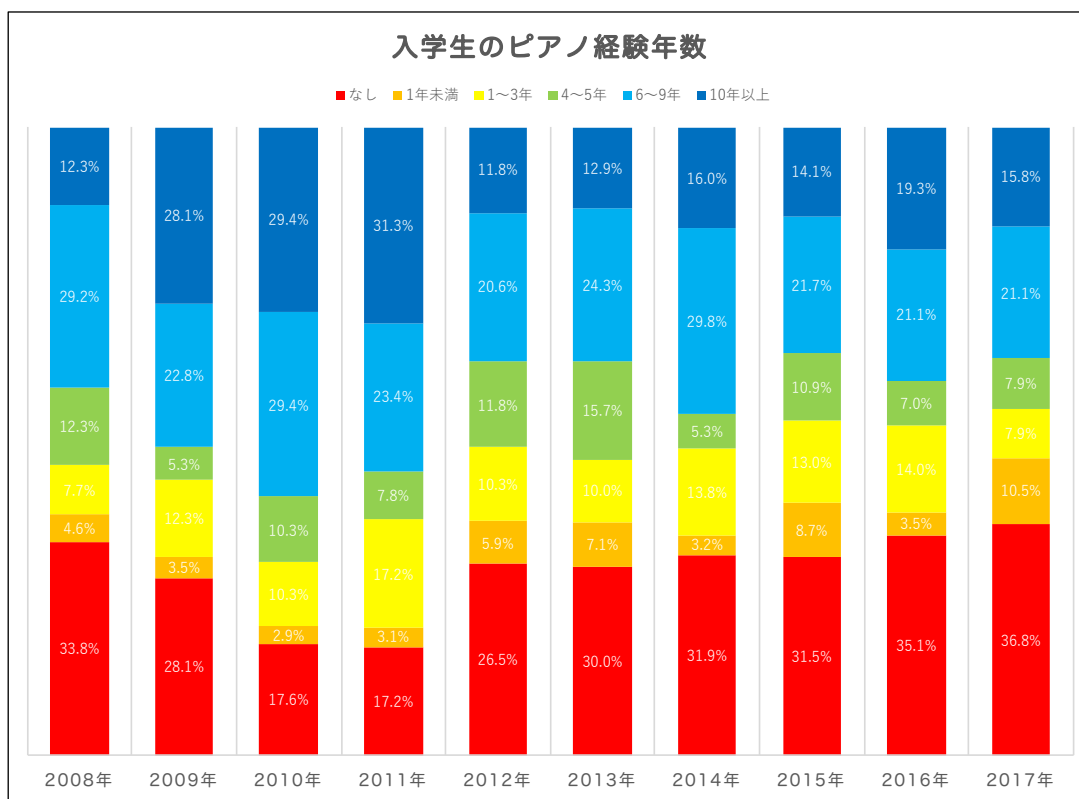
<sup>15</sup> 小野由恵「保育者・教育者養成におけるピアノ学習の実態調査に基づく学習支援の課題」 p.87

<sup>16</sup> 三沢大樹「保育者養成課程における学生の音楽能力と音楽リメディアル教育に関する報告」 p.2

<sup>17</sup> 諸井サチヨ「保育者養成校での『弾き歌い』指導に関する一考察～学生のピアノ技能に関する実態調査を中心に～」 p.82,83

2017年よりも増加している。

グラフ 1 S 女子大学における入学生のピアノ経験年数の比率の推移



これらのことから、保育者、小学校教員養成校においては、地域や性別等による差はあるが、毎年一定数のピアノ学習の未経験者が入学しており、またその割合は増加傾向にある可能性が示唆された。

## 第2節 保育所保育指針，幼稚園教育要領，小学校音楽科学習指導要領の改訂と養成課程のカリキュラム

2017年(平成29年)3月に、「保育所保育指針」，「幼稚園教育要領」，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が告示され改訂がなされた。2018年(平成30年)4月より適用されている。今回の改訂で，保育所(園)も，幼稚園も，幼保連携型認定こども園も全て「幼児教育施設」として位置づけられた。保育所(園)，幼稚園，幼保連携型認定こども園に共通する幼児教育のあり方が明確化され，乳幼児からの発達と学びの連続性，また小学校教育との接続のあり方が明示された。「保育所保育指針」，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」では，乳児保育と1歳以上3歳未満児の保育のねらい及び内容の記載の充実がなされた。

保育所(園)，幼稚園，幼保連携型認定こども園が幼児教育施設として位置づけられたことにより，それぞれの保育及び教育において，保育，教育の「ねらい及び内容」に基づく活動全体によって育むものとして「育みたい資質・能力」が以下のように明示された。この「資質・能力」は三つの柱とされ，小学校以上の教育との共通する力の育成をすることとなった。以下が幼児教育施設としての「育みたい資質・能力」である。

- (1) 豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かたり，できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- (2) 気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする「思考力，判断力，表現力等の基礎」
- (3) 心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力，人間性等」<sup>18</sup>

また今回の改訂では，幼稚園では3年間，保育所(園)や幼保連携型認定こども園では5年間の中で，小学校就学時の具体的な姿として，また幼児教育が最終的に向かう方向としての「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。10の項目があり，「10の姿」と呼ばれる。

「健康な心と体」，「自立心」，「協同性」，「道徳性・規範意識の芽生え」，「社会生活との関わり」，「思考力の芽生え」，「自然との関わり・生命尊重」，「数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚」，「言葉による伝え合い」，「豊かな感性と表現」の10項目である。

他に「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)の実践について，また「小学校教育との接続」についても示された。

資質・能力の三つの柱について，また，幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿については保育所(園)，幼稚園，幼保連携型認定こども園での活動全体に関わることであり，その活動は

---

<sup>18</sup> 『幼稚園教育要領(平成29年告示)』フレーベル館 p.6

「ねらい及び内容」に基づく。保育内容には心身の健康に関する領域「健康」、人との関わりに関する領域「人間関係」、身近な環境との関わりに関する領域「環境」、言葉の獲得に関する領域「言葉」、感性と表現に関する領域「表現」の、5つの領域があり、それぞれの「ねらい及び内容」が指針、教育要領に示されている。音楽分野が特に関わるのは「表現」の領域である。「表現」の「ねらい及び内容」を以下に示す。

「幼稚園教育要領」より

#### 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

##### 1 ねらい

- (1) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- (2) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- (3) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

##### 2 内容

- (1) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。
- (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- (3) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。
- (4) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。
- (5) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。
- (6) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。
- (7) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。<sup>19</sup>

「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」については、前述の通り、乳児保育と1歳以上3歳未満児の保育のねらい及び内容の記載が追加された。詳細については、それぞれを参照されたい。3歳以上児に対するねらい及び内容については、上記「幼稚園教育要

---

<sup>19</sup> 『幼稚園教育要領〈平成29年告示〉』フレーベル館 p.20, 21

領」のそれと同様である。

「表現」の内容のうち、(1)、(2)、(3)、(4)、(6)、(8)が特に「音楽」に関わる項目と言える。これらの領域「表現」のねらい、また内容に沿って、活動の中で子どもたちに保育、教育することができる音楽的な技能、技術、また音楽の表現力が保育士、幼稚園教諭、保育教諭には求められている。

小学校における新学習指導要領は2017年(平成29年)3月に公示され、小学校では2020年から完全実施される。改訂の注目すべき点として、「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」にもその前段階が示された、「資質・能力の三つの柱」があげられる。新学習指導要領では、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に基づき、各教科等の目標や内容について再整理が図られた。

また、今回の改訂では、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどのような力が身に付くのか、という教科等を学ぶ意義を明確にすることが求められている。「各教科等の特質に応じた、物事を捉える視点や考え方」である「見方・考え方」が重要な視点となっており、資質・能力の三つの柱に支えられ「見方・考え方」が生まれ、「見方・考え方」を働かせた学びによって各領域・分野の学習が深まり、資質・能力がより一層伸びていくことが期待されている。その重要な手立てとして、追記されたものが「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)である。こちらも「幼稚園教育要領」等と同様に追記された。各教科等の特質に応じた言語活動の充実についても今回の改訂によって示されている。また今回の改訂の特徴として生活や社会とのつながりが強調されていることがあげられる。改訂の基本方針の中の「社会に開かれた教育課程」という位置づけからも明らかである。「カリキュラム・マネジメント」についても新たに示された。

音楽科についても、上記の特徴に基づき改訂がなされた。音楽科の「目標」は、下記のように改定された、

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性

を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。<sup>20</sup>

各学年(低・中・高の2学年ずつ)の学年の目標についても資質・能力の三つの柱に沿って整理された。詳細については、「小学校学習指導要領解説音楽編」(文部科学省)を参照されたい。

音楽科の内容については、指導事項が資質・能力から「思考力、判断力、表現力等」と、「知識」、「技能」に整理された。内容の構成については従来どおり、「A表現」と「B鑑賞」の2つの領域と、[共通事項]から構成されており、「A表現」は(1)歌唱、(2)器楽、(3)音楽づくりの3つの分野に分けられている。各学年の歌唱共通教材については、以下のとおり、現行と同様の曲となっている。

- 第1学年 「うみ」、「かたつむり」、「日のまる」、「ひらいたひらいた」
- 第2学年 「かくれんぼ」、「春がきた」、「虫のこえ」、「夕やけこやけ」
- 第3学年 「うさぎ」、「茶つみ」、「春の小川」、「ふじ山」
- 第4学年 「さくらさくら」、「とんび」、「まきばの朝」、「もみじ」
- 第5学年 「こいのぼり」、「子もり歌」、「スキーの歌」、「冬げしき」
- 第6学年 「越天楽今様」、「おぼろ月夜」、「ふるさと」、「われは海の子」

今回の改訂で新たに付け加えられた事項として、「我が国の郷土の音楽の指導に当たって」の配慮事項として、「曲に合った歌い方や楽器の演奏の仕方などの指導方法を工夫すること」、また現行の学習指導要領では「和楽器」については高学年で取り上げる旋律楽器の例として示されていたが、「第3学年及び第4学年で取り上げる旋律楽器」の例示に「和楽器」が追加されたこと、知的財産の保護と活用に関する配慮事項として、「表現したり鑑賞したりする多くの曲について、それらを創作した作曲者がいることに気付き、学習した曲や自分たちのつくった曲を大切にす態度を養うようにするとともに、それらの著作者の創造性を尊重する意識をもてるようにすること。また、このことが、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることについて理解する素地となるよう配慮すること」が、現行の中学校及び高等学校の学習指導要領で示されていたものが小学校の学習指導要領でも示されたこと、などがある。

音楽科の各学年の目標や内容を踏まえ、音楽の授業を実践していくための音楽的技能、技術が小学校教諭に求められる。

保育士、幼稚園教諭、また小学校教諭の養成校における保育士養成課程、また教職課程におい

---

<sup>20</sup> 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編』(文部科学省)

でも、それぞれの指針や教育要領、学習指導要領の改訂に合わせカリキュラムの再編が求められている。

保育士養成課程のカリキュラムは、見直しが行われ、指定保育士養成施設においては2019年度入学生から見直しを踏まえたカリキュラムが適用されることになる。また保育士試験については、2020年度からの適用が適当であるとされた。<sup>21</sup> 保育士試験の実技試験については、現行のものと同様とすることも合わせて示された。

音楽が関わる必修科目としては、現行では系列「保育の内容・方法に関する科目」の科目「保育内容演習」の「表現」に関わる部分として、また系列「保育の表現技術」の科目「保育の表現技術」の音楽表現に関わる部分が、今回の見直しにより、系列「保育の表現技術」は系列「保育の内容・方法に関する科目」に統合され、合わせて科目名称が「保育の表現技術」から「保育内容の理解と方法」へと変更となった。見直し後は系列「保育の内容・方法に関する科目」の科目「保育内容演習」における領域「表現」について、また科目「保育内容の理解と方法」の音楽表現に関わる部分が、直接的に音楽の技能、技術が必要な分野である。

幼稚園教諭、小学校教諭の養成については、大学における教職課程の再課程認定が2017年度から申請が開始され「教職課程コアカリキュラム」が導入されることになった。また「領域に関する専門的事項」の科目については教職課程コアカリキュラムの対象とはされていないが、平成29年3月に一般社団法人保育教諭養成課程研究会によって、「幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究-幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える-」の調査研究の中で、5領域の教育内容の着実な実践と幼児教育の専門家としての幼稚園教諭の資質能力の育成に向け、モデルカリキュラムが開発され、提案されている。

また、一般社団法人全国保育士養成協議会が行う「保育士試験」の実技試験では、試験分野として、音楽表現に関する技術、造形表現に関する技術、言語表現に関する技術のうち2分野を選択するが、音楽表現に関する技術の試験では、幼児に歌って聞かせることを想定した、2曲の子どもの歌の課題曲を弾き歌いするが、楽器については、ピアノだけでなく、ギター、アコーディオンでの弾き歌いも認められている。保育士として必要な歌、伴奏の技術、リズムなど総合的に豊かな表現ができること、が求められている。

これらのことから、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭を目指し、養成課程で学ぶ学生にとって、一定のピアノ演奏技能の獲得は、重要な位置を占めているとすることができる。

---

<sup>21</sup> 厚生労働省保育士養成課程等検討会報告書「保育士養成課程等の見直しについて（検討の整理）」（2017年12月）厚生労働省HPより



保育者、小学校教諭の養成校においては、上述の、領域「表現」に関わる科目、保育内容の指導法に関する科目や、小学校音楽科の教科教育法、教科に関する科目等、資格取得、免許状取得のための必修科目が設定されているが、それに合わせて養成校では、授業数や単位数に多少の差はあるが、ピアノや歌、また音楽の基礎知識に関する授業が設定されているのが通例である。これまで保育所保育指針や幼稚園教育要領、小学校学習指導要領等の各法令の改訂や、それに合わせた養成課程のカリキュラム編成の変更に伴い、他の科目の変更や増減と同様に、音楽関連の科目についても、科目数やその名称、単位数などについて同様に変更され、また授業の実施方法等についても、授業科目や授業時数を増やさずに学生により良い学習内容、環境の提供を目指し、グループによるレッスンの実施や、ピアノ実技の授業と、他の声楽や器楽などの授業の抱き合わせで授業を実施するなどの、各養成校の創意、工夫が随時行われてきた。

その中で、ピアノ実技のレッスンの時間については、特に検討が重ねられてきている、と言える。前回(2010年(平成22年))の保育士養成課程のカリキュラムの変更では、それまで「基礎技能」という名称であった科目が「保育表現技術」という名称に改められた。「基礎技能」の目標は、もちろん「保育の内容を理解し」、「保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な」<sup>22</sup> 知識や技能の習得であり、内容には具体的に

#### 1. 音楽に関する基本的な知識や技能

(1) 楽譜を読むために必要な基本的な知識

(2) 歌い、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識や技能

(3) 様々な音楽活動を通しての楽しさや喜びの経験

(4) 子どもの歌、簡易楽器、ピアノなど器楽による伴奏法など保育実践において必要な知識や技能

(厚生労働省「第5回保育士養成課程等検討会」(平成22年2月)資料2「教科目の教授内容の改正案」p.21より引用)

とあった。

平成22年の改正で「基礎技能」から「保育の表現技術」への科目の名称や教授内容の改正は、

子どもの表現を広く捉え、子ども自らの経験や周囲の環境との関わりを様々な表現活動や遊びを通して展開していくことが重要であることを踏まえ、このような子どもの表現に係る保育士の保育技術を修得する教科として「保育表現技術」に名称を変更する。

---

<sup>22</sup> 厚生労働省「第5回保育士養成課程等検討会」(平成22年2月)資料2「教科目の教授内容の改正案」p.21

また、現行の「基礎技能」の内容にある音楽、造形、体育を、音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現とするが、これらに関する表現技術を保育との関連で修得できるようにすることが必要である。<sup>23</sup>

という理由、目的で行われた。科目の目標は「基礎技能」と同様の内容ではあるが、「知識や技能を習得させる」という言う表現が、「知識や技術を習得する」と変更になっており、教える側ではなく、学ぶ側が主体の表現になっている。また「技能」が「技術」に変更になっていることについて、村上ら(2017)は、「技能」については、「保育者養成校の学生を主体としているため、そこに付随する能力である「技能」に焦点が当てられた」<sup>24</sup>、そして「技術」に変更になったのは、「保育者が技能を身に付けているのは当然として、保育現場でその技術を活用することを目標とした」<sup>25</sup> ためである、と推測している。科目の内容についても、具体的な「歌」や「器楽」、「ピアノ」、「伴奏」といった語句の表現は無くなり、

#### 音楽表現に関する知識や技術

- (1) 子どもの発達と音楽表現に関する知識と技術
- (2) 身近な自然やものの音や音色、人の声や音楽等に親しむ経験と保育の環境
- (3) 子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開

(厚生労働省「第5回保育士養成課程等検討会」(平成22年2月)資料2「教科目の教授内容の改正案」p.21より引用)

という表現に改正された。改正後の養成校の問題として、村上ら(2017)は平成23年度の全国保育士養成協議会セミナーの第9分科会での、「音楽表現系科目の意義と授業実践」がテーマでの議論における意見を、「基礎技能」を踏襲する意見と、豊かな表現力を持った学生の養成を目指す意見に二分された<sup>26</sup> と紹介している。前者には、保育者からの「ピアノを基本として楽譜の読み方や子どもたちへの指導の際に必要な基本的技術」を求める意見や、「器楽、声楽という枠組みで鍵盤楽器の奏法の習得や演奏技術の習得を目指す」<sup>27</sup> という養成校側の意見があったと報告している。また後者の意見として、「子どもたちが音楽表現活動を通して心身ともに健やかに成長していく」ことや、「ピアノに拘らず様々な音を活用して音の楽しさを伝えていく発想の

---

<sup>23</sup> 「保育士養成課程等の改正について(中間まとめ)」(平成22年3月)厚生労働省保育士養成課程等検討会 資料

<sup>24</sup> 村上玲子・三島瑞穂「保育者養成校における教科目「保育表現技術」の捉え方と課題—音楽担当者の立場からの考察—」 p.23

<sup>25</sup> 同上 p.23

<sup>26</sup> 同上 p.24

<sup>27</sup> 同上 p.24

転換」<sup>28</sup> を求める声があったこと、また養成校の教員が「総合的な視点から音楽を捉え直す必要性や音楽を表現の一部として捉えていくことも大切である」<sup>29</sup> という意見があったことについて触れている。子どもたちへの保育、教育の活動の中で、技能を重視するか、表現を重視するか、という議論にもなっているが、両者のいずれにしても、実際には教育上の問題として、音程がとれなかったり、楽譜が読めなかったりという、「学生に基本的な表現の技術と知識を習得させる難しさが指摘され、学生の表現力をどう育てるか」<sup>30</sup> という問題が生じている、と指摘している。また、身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現の4つの分野の表現を担当する「教員間の連携」の必要性や、「学生がピアノ等の技能の習得で精一杯で余裕がない中で、表現の本質をどう学ぶか」が課題になっており、これは「表現の特性、形態も異なる身体、音楽、造形、言語の4つの表現分野で捉えることによる分断」<sup>31</sup> が原因になっているとも言っている。

このようなカリキュラム変更後も、保育や教育の現場からは、養成校には変わらずにピアノや音楽の技能が求められている。後の第3章にも示すが、保育所(園)や幼稚園の採用試験には、カリキュラム変更前と変わらずにピアノの実技試験が行われており、また保育実習や幼稚園教育実習でも弾き歌い等の技能がある程度求められている。小学校の教員採用試験においては、自治体の違いにより、実技試験が廃止されているところもあるが、現在も歌唱共通教材の弾き歌いなどの音楽の実技試験を実施しているところもある。ピアノという楽器は、演奏の技能があれば、1台でメロディーも伴奏も同時にしかも広範囲の音域で演奏することができ、独奏楽器としても、伴奏の楽器としても用いられ、また調律の必要はあるが、ある程度正しい音程を弦楽器や管楽器等と比較すると平易に出すことができるということから、保育、教育の現場では長らく活用されている。村上らが「表現の技術はピアノの技術、弾き歌いの技術の習得が重要視され、これらの技術を備えて初めて表現ができるようになるという前提がある」<sup>32</sup> と言っているように、保育者養成校ではこれまでの慣例的にも、ピアノを重視している傾向があると言え、「基礎技能」が「保育の表現技術」に変わってからも、科目が減少している養成校もあるが、カリキュラム編成等を工夫したり、グルーブレッスンを導入したりと、何とか音楽の技能が表現まで結びつくようにと取り組んでいるのが現状である。

参考として、村上らが平成25年度の全国大学音楽教育学会中・四国地区学会の中で6校の養成校に対して行った、保育表現技術(音楽分野)の科目名と授業の内容についての調査結果を表5に示す。

---

<sup>28</sup> 村上玲子・三島瑞穂「保育者養成校における教科目「保育表現技術」の捉え方と課題 -音楽担当者の立場からの考察-」 p.24

<sup>29</sup> 同上 p.24

<sup>30</sup> 同上 p.24

<sup>31</sup> 同上 p.25

<sup>32</sup> 同上 p.25

表 5 保育表現技術（音楽分野）の科目名と授業の内容について<sup>33</sup>

|   |
|---|
| A校：音楽基礎演習，音楽Ⅰ～Ⅳ，楽典，子どもの音楽的発達，発声法，ピアノ演奏技術，子どもの歌の弾き歌い |
| B校：基礎音楽A，楽典，子どもの歌の弾き歌い                              |
| C校：音楽Ⅰ・Ⅱ，基礎音楽Ⅰ・Ⅱ，器楽Ⅰ・Ⅱ，楽典，ピアノ演奏技術，発声法，歌唱技術          |
| D校：音楽Ⅰ～Ⅳ  |
| E校：基礎技能音楽A，音楽B                                      |
| F校：音楽Ⅰ～Ⅳ，楽典，ピアノ技術，声楽，弾き歌い，簡易打楽器の奏法，合奏，即興演奏          |

この調査では、改正の前と同様に、楽典、ソルフェージュや、発声法、歌唱法、ピアノ演奏技術や弾き歌いの内容が実施されていた。

筆者が勤務する S 女子大学では、2018 年現在においては、保育者、小学校教員養成課程における音楽が関連する科目の授業は、以下の表 6 のとおり実施されている。<sup>34</sup>

<sup>33</sup> 村上玲子・三島瑞穂「保育者養成校における教科目「保育表現技術」の捉え方と課題—音楽担当者の立場からの考察—」 p.25

<sup>34</sup> 現行のカリキュラムによる授業とその内容について示した。必修の後の(保)については保育士資格取得のための必修科目を，(幼)については幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目を，(小)については，小学校教諭一種免許状取得のための必修科目を，それぞれ示している。

表 6 2018 年度 S 女子大学の保育者、小学校教員養成課程における音楽関連の科目

|                                |       |   |   |
|--------------------------------|-------|---|---|
| 1年次                            | ピアノ以外 | 前期<br>・「音楽入門」(選択)<br>楽譜の読み方、リズム、歌、楽典などの音楽の基礎について学習する、   | 後期<br>なし  |
|                                | ピアノ   | 通年<br>・「ピアノ入門(グループレッスン)」(選択)<br>前期はグループでのレッスンをを行う。ピアノの弾き方の基礎、弾き歌いの基礎について学習する。   | ・「ピアノ入門(個人レッスン)」(選択)<br>後期は個人レッスンをを行う。各学生の能力に合わせた内容で、ピアノ独奏、弾き歌いの基礎について学習する。90分の授業のうち、レッスンは一人あたり15～20分で、その時間以外は、各自の課題の練習をする。   |
| 保育士資格、幼稚園教諭一種免許状を取得できるコース      |       |   |   |
| 2年次                            | ピアノ以外 | 前期<br>・「子どもと音楽」(必修)<br>楽典やコード奏法、弾き歌いや合奏など、実践に向けた音楽を学習する。手遊びやリズム遊び等についても学習する。  | 後期<br>・「保育内容(表現(音楽))」(必修)<br>保育内容の「表現」の音楽分野について学習する。歌唱の指導法や音楽劇など、また指導案の作成や模擬保育等の発展的な学習を行う。  |
|                                | ピアノ   | 通年<br>・「ピアノⅠ」(必修)<br>前期、後期ともに個人レッスンをを行う。90分の授業のうち、レッスンは一人あたり15～20分で、その時間以外は、各自の課題の練習をする。授業の内容は弾き歌いを中心に行う。前期は課題曲による弾き歌いの実技試験と、独奏曲の実技試験を行う。後期は、コード伴奏付けを伴う課題曲による弾き歌いの実技試験と、課題曲群から各自選択した曲の弾き歌いの実技試験を行う。           |   |
| 3年次                            | ピアノ以外 | 前期<br>・「保育表現技術」(必修(保))<br>音楽表現分野、造形表現分野、身体表現分野、言語表現分野等の表現活動について、知識や技術を習得する。教材の作成し、保育の展開を踏まえ、グループで発表等を行う。  | 後期<br>なし  |
|                                | ピアノ   | ・「ピアノⅡ」(選択)<br>個人レッスンをを行う。90分の授業のうち、レッスンは一人あたり15～20分で、その時間以外は、各自の課題の練習をする。授業の内容は弾き歌いを中心に行う。課題曲による弾き歌いの実技試験と、独奏曲の実技試験を行う。  | なし  |
| 小学校教諭一種免許状、幼稚園教諭一種免許状を取得できるコース |       |   |   |
| 2年次                            | ピアノ以外 | 前期<br>・「子どもと音楽」(必修)<br>楽典やコード奏法、弾き歌いや合奏など、実践に向けた音楽を学習する。小学校歌唱共通教材の弾き歌いや、リコーダー、和楽器等についても学習する。  | 後期<br>・「保育内容(表現(音楽))」(必修(幼))<br>保育内容の「表現」の音楽分野について学習する。歌唱の指導法や音楽劇など、また指導案の作成や模擬保育等の発展的な学習を行う。<br>・「初等教科教育法(音楽)」(必修(小))<br>歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の活動について指導案作成や模擬授業を通して、小学校音楽科の授業実践に向けた学習を行う。 |
|                                | ピアノ   | 通年<br>・「ピアノⅠ」(必修)<br>前期、後期ともに個人レッスンをを行う。90分の授業のうち、レッスンは一人あたり15～20分で、その時間以外は、各自の課題の練習をする。授業の内容は弾き歌いを中心に行う。前期は小学校歌唱共通教材の課題曲による弾き歌いの実技試験と、独奏曲の実技試験を行う。後期は、コード伴奏付けを伴う課題曲による弾き歌いの実技試験と、課題曲群から各自選択した曲の弾き歌いの実技試験を行う。 |   |
| 3年次                            | ピアノ   | 前期<br>・「ピアノⅡ」(選択)<br>個人レッスンをを行う。90分の授業のうち、レッスンは一人あたり15～20分で、その時間以外は、各自の課題の練習をする。授業の内容は弾き歌いを中心に行う。小学校歌唱共通教材の課題曲による弾き歌いの実技試験と、独奏曲の実技試験を行う。  | 後期<br>なし  |

この表で見ると、ピアノの科目が多いようにも見えるが、個人レッスンの授業では、1時間(90分)の授業のうち、学生が教員に直接指導を受けられるのは15分～20分と、短い時間である。90分のうち、直接指導の他の時間には、電子ピアノで予習、復習を行っている。また、2年次には「子どもと音楽」や、「保育内容演習」の科目である「保育内容(表現(音楽))」が開始され、それまでに表現できるための知識、技能が身に付いていなければならない。そう考えると、1年次の基礎科目である「音楽入門」や「ピアノ入門」での初学者への指導は、必然的に、短期間に知識と技能を合理的、効果的に身に付けられるようなものでなければならない。

2019年度からは、今回(平成29年度(2017年度))の見直しにより、「保育の表現技術」は系列「保育の内容・方法に関する科目」に統合され、科目名称が「保育の表現技術」から「保育内容の理解と方法」へと変更となる。科目の目標や内容は現行のものから継承される部分も見られるが、「表現」という文言がなくなり、より保育の中で子どもを中心とした実践的な能力が求められていると言える。音楽を子どもと一緒に楽しんだり、子どもたちに歌や楽器の指導を行ったり、子どもと一緒に音楽を鑑賞し良さを味わい気持ちを共有するためには、やはり基礎的な音楽の知識、技能や、ピアノ等の演奏の能力は重要であると考え。今後も養成校のカリキュラム編成については、継続して検討を重ねる必要がある。

### 第3節 養成校のためのピアノ教材の比較

保育者、小学校教員養成校を対象とした、ピアノ指導用のテキストが各出版社から出版されている。比較的容易に入手することができ、かつ現在も保育者、小学校教員養成校で使用されていると考えられる8つの教材について、それぞれの内容と特徴について比較し分析した。(表7-A, 7-B)

8つの教材のうち、5つが『バイエルピアノ教則本』を底本としている。『バイエルピアノ教則本』は、日本でのピアノ教育の初期から現在まで引き続き使用されている教材である。特に、保育者養成課程や教員養成課程においては、伝統的に使用され、現在でも多くの養成校で使用されている。しかしながら、近年は「バイエル」を使用するデメリットについても認識され始めている。例えば導入部分から右手も左手もト音記号(高音部譜表)での表記のため、左手のヘ音記号(低音部譜表)の読譜に混乱が生じたり、抵抗感を感じやすくなったりする、等のデメリットがある。これらについては、第5章第2節「保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ教材の変遷」の中で詳しく論じる。

ピアノを弾く姿勢、椅子の座り方、手や腕の使い方やフォーム等について、簡単な説明があるものはあったが、初学者に向けた詳しい説明や指示があるものは見当たらなかった。どの教材も、保育、教育の現場で活用できるよう考慮され、楽典の知識が学習できるようになっていたり、リズム表現についての教材が掲載されていたり、また保育者養成と同時に小学校教員養成課程でも活用できるよう、小学校歌唱共通教材が掲載されていたりと、養成校での授業と、保育、教育の現場での活用との両方の視点から作成されているものもあった。また、これらの教材は単独で使われる場合もあるかもしれないが、多くの養成校では子どもの歌が多数掲載されている弾き歌いの教材を併用するのが通例である。しかしながら、養成校に入学するまでに、音楽の学習経験が乏しく、全くのピアノ初学者が学習する、という観点からみると、初期の段階で急に両手でピアノ演奏の課題があったり、すぐに歌とピアノを同時に行う「弾き歌い」の課題があったりと、いずれの教材も初学者にとっては十分に考慮されているとは言えない。このことも初学者が学習することを前提としたピアノ学習の教材を作成しようと考えた1つの所以でもある。

表 7-A 既存の教材の比較

|       |  |  |  |  |
|-------|--|--|--|--|
| 教材名   | 『幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト 歌おう！弾こう！こどもとともに』  | 『ピアノへのアプローチ 4ステップ ス 幼稚園教諭・保育士をめざす人のためのテキスト』  | 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノテキスト - レッスン24とその応用- [改訂版]』  | 『保育士・幼稚園教諭 小学校教諭養成のための ピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』   |
| 出版社   | ヤマハミュージックメディア  | 音楽之友社  | ドレミ楽譜出版社   | カワイ出版<br>(全国大学音楽教育学会 九州地区学会編)  |
| 出版年   | 2006年10月 初版発行  | 2006年4月 初版発行   | 2008年2月初版発行<br>(改訂前は1996年出版)   | 2014年4月初版発行  |
| ページ数  | 全172ページ  | 全116ページ  | 全191ページ  | 全108ページ  |
| 内容の概略 | p. 8～25<br>楽典 (音符、音程、和音(コードネーム)、音階、コード伴奏)<br>p. 26～64<br>弾き歌い (季節と自然10曲、動物8曲、遊び7曲)<br>p. 67～140<br>リズム曲の弾き歌い<br>(歩く6曲、走る6曲、とぶ6曲、ゆれる6曲、その他8曲)<br>子どもの身体表現のために「動きのリズム」を捉える曲<br>p. 146～151<br>変奏 (効果音の工夫、メロディーや伴奏の変奏)<br>p. 156～172<br>保育士試験、採用試験のために (過去問題の掲載) | p. 5～10<br>導入 (簡単な楽典と指番号)<br>p. 10～52<br>バイエルから抜粋<br>p. 54～116<br>曲集 (クラシック、ブルクミュラー、邦人作品、マーチなど)  | p. 6～132<br>基礎学習のための「基礎曲」がレッスン1～レッスン24に分けて掲載されている<br>p. 135～166<br>応用のための「参考曲」が20曲<br>p. 168～191<br>応用のための「表現のための音楽」が、セリフや歌詞、物語などと一緒に掲載されている。即興演奏の例や、スケールとカデンツ、コードネームの一覧が巻末に記載されている。   | p. 6～26<br>楽典<br>p. 28～54<br>基礎教材<br>p. 55～71<br>小学校音楽科 歌唱共通教材<br>p. 74～89<br>身体表現教材 (基礎的な動き、自由表現教材)<br>p. 90～107<br>補充教材 (ピアノ、歌唱、身体表現)  |
| 特徴    | 楽典や、身体表現のリズミックな曲を学習できる工夫がされている。<br>ピアノ初学者に向けての手ほどき等はほぼ扱われていないので、初学者にとっては難しいと思われる。<br>奏法に関する記載が最初の1ページのみであり、姿勢や手の形、脱力に関する指示が文言表現でのみ表記されている。   | 簡単な楽典を、鍵盤や指番号と同時に学ぶことができ、初学者にも適している。<br>導入から曲集の最後まで、難易度順にステップⅠ～Ⅳに分けられている。<br>バイエルを抜粋している。「子どもの歌や伴奏に役立つ」と説明があるが、初めて両手で弾くステップⅠの課題は左手はへ音記号だが、その後ステップⅡではバイエルの前半からの抜粋になっているので、34曲は両手がト音記号になっており、初学者にとっては、バイエル後半になってからの混乱や抵抗感があると考えられる。<br>奏法に関する記載は2箇所あり、姿勢や手・指の形、弾き方に関する指示がある。 | 「基礎曲」、「参考曲」、「表現のための音楽」の3つの部門からできている。「基礎曲」は24のレッスンに分かれており、初学者が無理なく学べるレベルで、楽典や体の使い方、指使いなどが同時進行で学習できる内容になっている。邦人作品の作・編曲ものを中心に耳馴染みのある曲で編成され、バイエルなどの抜粋ではない。また連弾や1台4手、1台6手などのアンサンブルが取り入れられ、個人だけでなく集団でのレッスンにも配慮されている。応用の「参考曲」、「表現のための音楽」は保育、教育の現場での表現活動に活用できる音楽が掲載されている。クラシックの作曲家についても触れている。手や指のフォームについて、ボジションや指くぐり、指広げ等についてももう少し詳しい説明があるとお良いと思う。 | この教材の前身である「新しい表現を取り入れた保育者養成のためのピアノテキスト(1992年5月初版発行)」を一新し、小学校教諭養成課程においても活用できるよう編集したもの。以前のものに、楽典、小学校歌唱共通教材が加わり、その分連弾曲等が減っている。また、ピアノ教材や身体表現の教材も改善されている。ピアノ教材については、以前と同様バイエルを用いているが、両手ト音記号の曲は数曲のみ減っており、初学者の左手へ音記号への抵抗を考慮したものと思われる。歌唱共通教材は、メロディー譜にコードがついたものとなっている。ピアノ基礎教材のはじめには、ピアノを弾く手の写真が掲載され、正しい手の形、悪い手の形がそれぞれ示されている。文言表現はない。他に指番号と対応する鍵盤の説明が簡潔にされている。 |



表 7-B 既存の教材の比較

|       |   |   |   |  |
|-------|---|---|---|--|
| 教材名   | 『ピアノ教本 ムジカ』   | 『保育士・幼稚園・小学校教諭を目指す人のために この一冊でわかるピアノ実技と楽典 増補版』   | 『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門 東京福祉保育専門学校編』   | 『歌う、弾く、表現する保育者になろう 保育士・幼稚園教諭養成テキスト 全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会編著』  |
| 出版社   | 全音楽譜出版社   | 音楽之友社   | ドレミ楽譜出版社  | 音楽之友社  |
| 出版年   | 2000年3月初版発行   | 2007年5月初版発行   | 2009年5月初版発行   | 2006年4月初版発行  |
| ページ数  | 全93ページ  | 全94ページ  | 全118ページ   | 全141ページ  |
| 内容の概略 | p. 4～59<br>バイエル中心の編成<br>p. 60～85<br>耳馴染みのある曲（バイエル後半、ソナチネ、クラシックのピアノ用編曲、世界の民謡など）<br>p. 86～93<br>連弾  | p. 5～44<br>実践編 採用試験でのピアノ、バイエル、弾き歌いについて<br>p. 49～94<br>理論編 楽典、音程、コードについて   | p. 6～31<br>STEP 1 バイエル69番までの抜粋と子どもの歌<br>p. 33～72<br>STEP 2 バイエル96番までの抜粋と子どもの歌<br>p. 73～118<br>STEP 3 バイエル104番までの抜粋と子どもの歌、ブルクミュラーから数曲  | p. 6～34<br>第1章 歌唱 声楽、ソルフェージュ、2部合唱の作り方、いろいろな歌<br>p. 68～84<br>第2章 器楽 初めに右手、次に弾き歌いしながら右手がメロディー・左手はコード(ハ・ト・ヘの3つの長調)、続いて両手伴奏、動きを伴う曲<br>p. 92～106<br>第3章 表現 保育指針、幼稚園教育要領に沿った内容<br>p. 114～135<br>第4章 楽典 楽語、形式まで含んだ楽典の内容   |
| 特徴    | バイエルを中心に、子どもの歌、クラシックのピアノ用簡易編曲、世界各地の民謡などの曲を、調ごとにカデンツとスケールを交えながら編成してある。カデンツには和音記号とコードネームの両方が掲載されている。音階と、対応する鍵盤が記された紙鍵盤が付属されている。(子ども用のものと思われる。) 初学者向けのピアノの弾き方や、手や指の使い方に関する説明はなく、楽典的な内容も乏しいが、教材ごとに簡単な楽曲の解説がされている。 | 第1部実践編と第2部理論編に分かれる。実践編では、保育士資格試験や幼稚園、小学校の採用試験について、バイエルの演奏、弾き歌いの仕方について譜例を交えながらアドバイスをしている。曲集ではなく、誌上レッスンのような形式である。後半の理論編では筆記試験対策になり得る楽典の内容が分かりやすく示されている。 | 難易度順にSTEP 1～3まで分けられている。バイエルを中心として、間に子どもの歌やブルクミュラーが数曲、全て含め100曲で出来ている。最初に座り方、手の形の説明が図とともにある。指番号と五線、音価、拍子について説明があり実際に練習に入る。中間にコードネームについて簡易的な説明がある。最後に楽語の説明がある。バイエルの間に子どもの歌を入れたり、曲の順番を入れ替えたりと工夫が見られるが、最初の手ほどきでは、大譜表で右手がト音記号、左手がヘ音記号になっているのにもかかわらず、その後のバイエルでは両手がト音記号になっており、両者が混在しているので、初学者によっては混乱する可能性もある。 | 養成校で学ぶ音楽の内容を総合的に学ぶことができる教材となっている。歌唱、器楽、表現、楽典の4つの章からなる。学習のはじまりは歌唱からで、歌や歌唱表現に重点を置いているように思われる。ピアノの部分はバイエルなど既存の教本の抜粋ではなくオリジナルである。指番号と五線の確認の後、まずは右手のメロディーを弾きながら歌い、そのあとすぐに左手はコード伴奏付けの学習になっている。簡潔にまとめられているが、初学者には少々難しい印象がある。ピアノの授業に十分な個人レッスンの時間があることを想定して作られていると思う。 |

## 第3章 保育・教育の現場が保育者、小学校教員に求めるピアノ、音楽に関する能力

### 第1節 保育士試験の実技試験

前章でも触れているが、保育士試験では、「弾き歌い」が実技試験として実施されている。（筆記試験の合格者に対して行われる。実技試験は、音楽表現に関する技術、造形表現に関する技術、言語表現に関する技術のうち2分野を選択するものであり、音楽表現を選択しなければ、音楽の実技ができなくとも、保育士資格を取得することはできる。）ここには、2018年度後期実施の課題の内容を示す。

平成30年度の保育士試験「受験申請の手引き」より

試験分野

音楽表現に関する技術 幼児に歌って聴かせることを想定して、課題曲の両方を弾き歌いする。

求められる力:保育士として必要な歌、伴奏の技術、リズムなど、総合的に豊かな表現ができること。

1. 「おかあさん」（作詞 田中 ナナ ・ 作曲 中田 喜直）
2. 「アイ アイ」（作詞 相田 裕美 ・ 作曲 宇野 誠一郎）

- ピアノ、ギター、アコーディオンのいずれかで演奏すること。（楽譜の持ち込み可）
- ピアノの伴奏には市販の楽譜を用いるか、添付楽譜のコードネームを参照して編曲したものをを用いる。
- ギター、アコーディオンで伴奏する場合には、添付楽譜のコードネームを尊重して演奏すること。
- いずれの楽器とも、前奏・後奏を付けてもよい。歌詞は1番のみとする。移調してもよい。

注意 1:ピアノ以外の楽器は持参すること。

注意 2:ギターはアンプの使用を認めないのでアコースティックギターを用いること。

カポタストの使用は可。

注意 3:アコーディオンは独奏用を用いること。

（一般社団法人全国保育士養成協議会 平成30年度保育士試験「受験の手引き」より引用）

譜例 1 平成 30 年度(後期) 保育士試験 音楽表現に関する技術 実技試験<sup>35</sup>

**音楽試験課題曲**

※試験会場に楽譜は用意しますが、自分の楽譜を持ち込むことも可とします。

### おかあさん

田中ナナ 作詞  
中田喜直 作曲

お か あ さ ん    な    あ に    お か    あ さ ん    て い い    に お い

せんたくしていた    に お い で し ょ    しゃぼんのあわ    の    に お い で し ょ

### アイ アイ

相田裕美 作詞  
宇野誠一郎 作曲

ア-イアイ (ア-イアイ)    ア-イアイ (ア-イアイ)    お さ    る さ- ん だ    よ

ア-イアイ (ア-イアイ)    ア-イアイ (ア-イアイ)    み な    み の し ま-    の

アイアイ (アイアイ)    アイアイ (アイアイ)    し-っ ぽ の な    が    い

ア-イアイ (ア-イアイ)    ア-イアイ (ア-イアイ)    お さ    る さ- ん だ    よ

注：アイアイの（ ）の中は、歌っても、歌わなくてもよい。

過去の課題曲においても同様に、メロディーにコードが付されている楽譜で、子どもの歌の弾き歌いが2曲設定されてきた。歌、ピアノ(ギター、アコーディオンも可)、また弾きながら歌う「弾き歌い」の技術と、総合的な豊かな表現が求められている。「保育士試験」においても「弾き歌い」の技術が求められていることに注目する。

<sup>35</sup> 一般社団法人全国保育士養成協議会 平成 30 年度保育士試験「受験の手引き [後期用]」p.30

## 第2節 保育者へのアンケート調査から

2018年(平成30年)1月～3月にかけて、保育者への質問紙による調査を行った。宮城県仙台市を中心とし、東京都23区、名古屋市、大阪市、福岡市の公立、私立の保育所(園)、幼稚園、幼保連携型認定こども園(以下「認定こども園」と記す。)の中から、無作為に300の園を抽出し、郵送で質問紙を送付し調査を依頼した。質問紙はA4の用紙1枚に両面印刷したものを、各園に5部送付し、1つの園から最大5人分を返送してもらう形をとった。

返送により133の園から回収することができた。返送の回収率は44.3%である。各園から最少は1人分、最多で5人分の質問紙を返送してもらい、合計で571人分の有効回答を得ることができた。

本節では、質問紙調査から得られたデータの分析、考察を行う。

なお、質問紙については、資料として本章末に示す。

質問紙を回収できた、保育所(園)、幼稚園、認定こども園の種別ごとの人数と比率は、以下の表8のとおりである。

571名の保育者のうち、最も多かったのが幼稚園に勤務する保育者316人からの回答であり、続いて保育所(園)に勤務する保育者が211人、認定こども園に勤務する保育者が44人であった。

表8 種別ごとの人数と比率

| 種別     | 人数(人) | 比率(%)  |
|--------|-------|--------|
| 幼稚園    | 316   | 55.34% |
| 保育所(園) | 211   | 36.95% |
| 認定こども園 | 44    | 7.71%  |

以下、項目ごとに、質問紙での質問と集計結果を示す。

### 質問1 あなたの学生時代まで、また就職してからのご経験について、ご記入下さい。

質問1では、養成課程のある短期大学や大学等に入学する以前のことから、調査時までの経験について、対象者自身について質問した。

#### ・卒業した保育士、幼稚園教諭の養成校(専門学校、短大、大学など)の就学年数について

56.04%という半数以上の比率で、就学年数は2年であったことが分かった。また4年制大学や、短期大学のあとに専攻科に進学し4年間就学した人数は27.50%であった。今回の調査では、質問紙を回収できた571人の対象者うち、保育士試験を受験し保育者として勤務している人数

は4名(0.70%)であり、ほとんどの保育者が保育士養成校で学び、資格を取得したうえで保育者として勤務している形態であった。養成校の就学年数とその人数、比率を表9に示す。

表9 卒業した養成校の就学年数

| 就学年数(年)      | 人数(人) | 比率(%)  |
|--------------|-------|--------|
| 2年           | 320   | 56.04% |
| 4年(短大+専攻科含む) | 157   | 27.50% |
| 3年           | 80    | 14.01% |
| 保育士試験        | 4     | 0.70%  |
| 5年           | 1     | 0.18%  |
| 6年(短大+大学)    | 1     | 0.18%  |
| 回答なし         | 8     | 1.40%  |

・これまでに経験した職種について

回答を得た保育者が、これまでに経験した保育職の職種については、表10のような結果であった。幼稚園教諭が378件、次いで保育士が266件、認定こども園に勤務する保育教諭の件数は34件であった。

表10 経験した職種

| 経験のある職種 | 件数  |
|---------|-----|
| 幼稚園教諭   | 378 |
| 保育士     | 266 |
| 保育教諭    | 34  |

・現場経験の年数

保育者としての勤務年数については、今回の調査では最も長いもので45年、最も短いものは1年であった。(1年未満の数ヶ月の経験については、1年に含めてカウントした。)若手である1年～4年が比較的多く、勤務の経験年数が増えるに連れ、人数が少なくなっており、反比例の関係になっていることが分かった。経験年数とその人数、比率について表11に示す。

表 11 現場経験の年数と比率

| 勤務年数 (年) | 人数 (人) | 比率 (%) | 勤務年数 (年) | 人数 (人) | 比率 (%) |
|----------|--------|--------|----------|--------|--------|
| 45       | 1      | 0.18%  | 19       | 8      | 1.40%  |
| 39       | 1      | 0.18%  | 18       | 14     | 2.45%  |
| 38       | 1      | 0.18%  | 17       | 9      | 1.58%  |
| 36       | 1      | 0.18%  | 16       | 12     | 2.10%  |
| 35       | 1      | 0.18%  | 15       | 11     | 1.93%  |
| 34       | 6      | 1.05%  | 14       | 21     | 3.68%  |
| 33       | 1      | 0.18%  | 13       | 20     | 3.50%  |
| 32       | 2      | 0.35%  | 12       | 14     | 2.45%  |
| 30       | 6      | 1.05%  | 11       | 16     | 2.80%  |
| 29       | 5      | 0.88%  | 10       | 26     | 4.55%  |
| 28       | 4      | 0.70%  | 9        | 19     | 3.33%  |
| 27       | 1      | 0.18%  | 8        | 16     | 2.80%  |
| 26       | 3      | 0.53%  | 7        | 24     | 4.20%  |
| 25       | 11     | 1.93%  | 6        | 35     | 6.13%  |
| 24       | 4      | 0.70%  | 5        | 34     | 5.95%  |
| 23       | 7      | 1.23%  | 4        | 51     | 8.93%  |
| 22       | 6      | 1.05%  | 3        | 56     | 9.81%  |
| 21       | 9      | 1.58%  | 2        | 59     | 10.33% |
| 20       | 15     | 2.63%  | 1        | 38     | 6.65%  |
|          |        |        | 回答なし     | 3      | 0.53%  |
|          |        |        | 計        | 571    |        |

・役職，職名について

現在の役職について調査した。職場により役職名が異なり，様々な職名で勤務していることが分かった。表 12 に結果を示す。質問が選択ではなく，記述式であり，また「役職」のイメージが「園長」や「主任」等を表すものと捉える保育者が多かったのか，この項目は「回答なし」が多かった。質問の文章について，再考の余地がある。

表 12 職名

| 職名     | 人数  | 職名           | 人数  |
|--------|-----|--------------|-----|
| 教諭     | 118 | 預かり保育        | 2   |
| 保育士    | 115 | 教育支援コーディネーター | 2   |
| 担任     | 95  | 教務主任         | 2   |
| 主任     | 19  | 主任主事         | 2   |
| 保育教諭   | 15  | 保育主任         | 2   |
| 主任保育士  | 9   | 幼稚園教諭        | 2   |
| 学年主任   | 8   | リーダー保育士      | 2   |
| 副主任    | 7   | クラスリーダー      | 1   |
| 副担任    | 6   | 講師           | 1   |
| 副園長    | 5   | 施設長          | 1   |
| フリー    | 5   | 主幹教諭         | 1   |
| 主任教諭   | 4   | 主幹保育教諭       | 1   |
| フリー保育士 | 4   | 主任代理         | 1   |
| 園長     | 3   | 統括リーダー       | 1   |
| 教頭     | 3   | パート保育士       | 1   |
| 副主任保育士 | 3   | 副主幹          | 1   |
| フリー教諭  | 3   | 補助           | 1   |
|        |     | 幼稚園主任        | 1   |
|        |     | 回答なし         | 124 |
|        |     | 計            | 571 |

・実習生の指導担当の有無について

保育所(園), 幼稚園, 認定こども園における, 保育実習, 幼稚園教育実習の実習生を受け入れ, 指導を行ったことがあるかどうかについて質問した。表 13 がその結果である。今回調査に回答した保育者のうち, 76.36%の保育者が実習生を指導した経験があることが分かった。

表 13 実習指導の経験

| 実習指導経験 | 人数 (人) | 比率 (%) |
|--------|--------|--------|
| 経験あり   | 436    | 76.36% |
| 経験なし   | 121    | 21.19% |
| 回答なし   | 14     | 2.45%  |
|        | 計 571  |        |

・養成校に入学するまでのピアノの経験, 音楽経験の有無について

回答のうち, 明確にピアノを習った期間が分かるもの(456 件)について, 表 14-A にまとめた。また期間は分からなかったが, その他の楽器を習った経験があるもの, どの程度ピアノを弾くことができたか分かるものと, 回答がなかったもの(115 件)について表 14-B に示した。入学前までのピアノを習った経験が分かった 456 人のうち, 「全く経験がない」と答えた人数は 133 人で,

比率は 29.17%であった。約 3 割が未経験であり、この結果は、四家・菊地・岩淵(2013)の調査と同様の数値である。<sup>36</sup> また経験が 3 年以下の人数については、4 割以上となることが分かった。中には、10 年を超えてピアノの経験がある対象者もいたが、未経験者や経験が 3 年以下の対象者の割合については、これまでの先行研究と概ね同様の結果が得られた。

表 14-A

| 入学前のピアノ経験年数 | 人数(人) | 比率(%)  |
|-------------|-------|--------|
| なし          | 133   | 29.17% |
| 1ヶ月         | 2     | 0.44%  |
| 2ヶ月         | 1     | 0.22%  |
| 3ヶ月         | 3     | 0.66%  |
| 6ヶ月         | 2     | 0.44%  |
| 1年          | 6     | 1.32%  |
| 2年          | 19    | 4.17%  |
| 3年          | 23    | 5.04%  |
| 4年          | 11    | 2.41%  |
| 5年          | 13    | 2.85%  |
| 6年          | 43    | 9.43%  |
| 7年          | 23    | 5.04%  |
| 8年          | 21    | 4.61%  |
| 9年          | 26    | 5.70%  |
| 10年         | 33    | 7.24%  |
| 11年         | 16    | 3.51%  |
| 12年         | 31    | 6.80%  |
| 13年         | 10    | 2.19%  |
| 14年         | 19    | 4.17%  |
| 15年         | 19    | 4.17%  |
| 16年         | 1     | 0.22%  |
| 17年         | 1     | 0.22%  |
| 計           | 456   |        |

表 14-B

| 入学前のピアノ経験年数 | 人数(人) |
|-------------|-------|
| ソナチネ程度      | 23    |
| バイエル程度      | 17    |
| ブルクミュラー程度   | 11    |
| 経験あり        | 11    |
| ソナタ程度       | 10    |
| 少し          | 5     |
| エレクトーン      | 4     |
| 現在も習っている    | 2     |
| 中級          | 1     |
| ソルフェージュのみ   | 1     |
| ヴァイオリン 10年  | 1     |
| グレード5級      | 1     |
| 回答なし        | 28    |
| 計           | 115   |

質問 2 保育所(園)、幼稚園、こども園での保育・教育の中で、ピアノの活用について、ピアノを使用する頻度が多い順に並べてください。

質問 2 では、保育所(園)、幼稚園、認定こども園での保育・教育の活動の中で、どのような場面でピアノを活用することが多いか、を質問した。ピアノ演奏を伴った活動として考えられる、A～C の 3 つの場面と、その他を D とし、ピアノを用いる頻度が高い順に並べ替えの回答を求めた。回答の項目は以下の通りである。

<sup>36</sup> 四家・菊地・岩淵「本学の保育者養成課程におけるピアノ指導の課題と展望 -カリキュラムの見直しと学生のアンケートの結果から-」『仙台白百合女子大学紀要第 18 号』p109～110



A 子どもの歌の伴奏(朝や帰りの会の歌, 季節の歌, 発表会のための練習など)

B 歌の指導での活用(メロディーの音取りなど)

C ピアノ単独での演奏(活動の切り替えの音楽等も含む)

D その他

並べ替えられた順位に, 1位を4, 2位を3, 3位を2, 4位を1とし, また並べ替えの項目が4つに満たない場合には, 未回答の順位を0として得点化し, 順位データの分析を行った。

571人の対象者のうち, 8件は回答が無く, 有効な回答は563件であった。A~Dについて平均値と標準偏差の数値を表にしたものが表9である。また表8をグラフ化したものが, グラフ2である。また, A~Dのそれぞれの順位別の回答件数を集計したものが表15であり, 表15をグラフ化したものがグラフ2である。表16には選択肢A~Dの順位別回答件数を, 表16をグラフ化したものをグラフ3に示す。

表 15 選択肢A~Dの平均値と標準偏差

|      | A    | B    | C    | D    |
|------|------|------|------|------|
| 平均値  | 3.90 | 2.44 | 2.02 | 0.86 |
| 標準偏差 | 0.37 | 0.84 | 0.97 | 1.06 |

グラフ 2

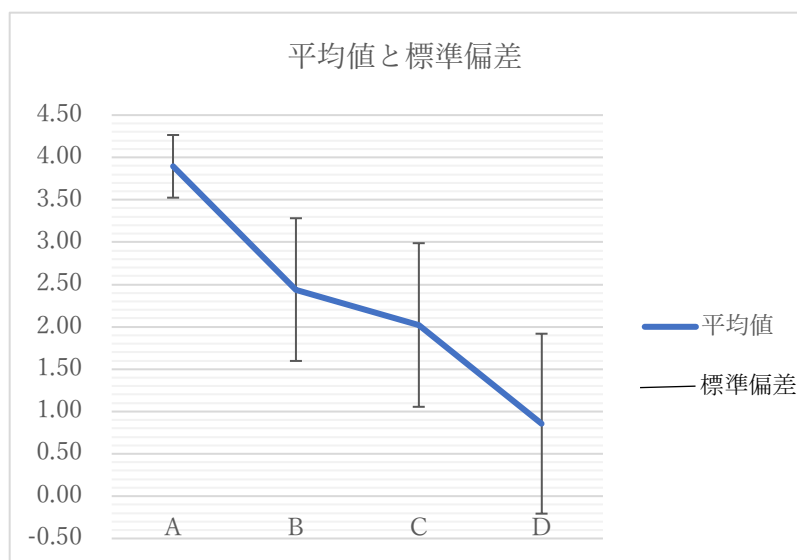
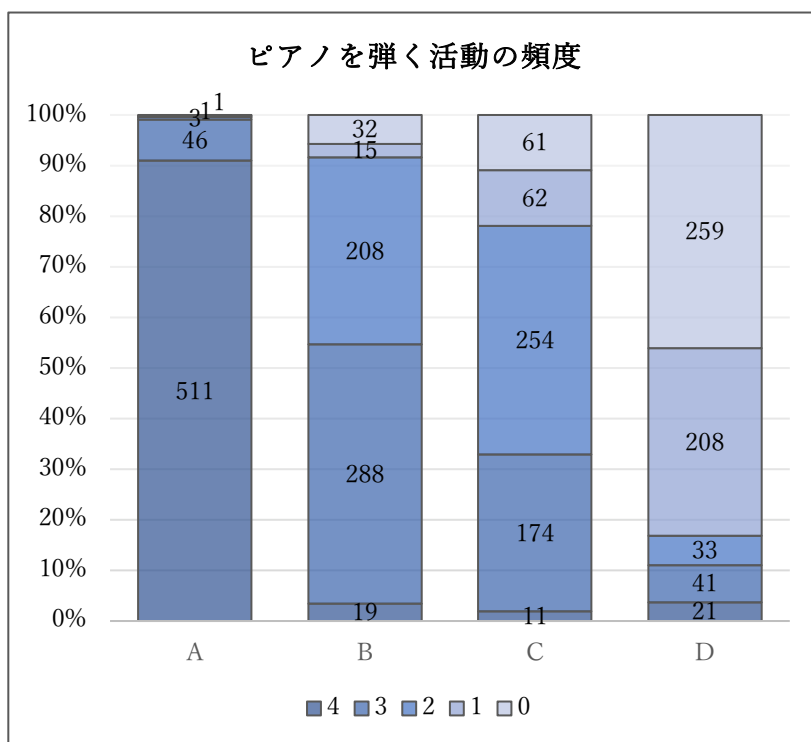


表 16 選択肢 A～D の順位別回答件数

|   | A   | B   | C   | D   |
|---|-----|-----|-----|-----|
| 4 | 511 | 19  | 11  | 21  |
| 3 | 46  | 288 | 174 | 41  |
| 2 | 3   | 208 | 254 | 33  |
| 1 | 1   | 15  | 62  | 208 |
| 0 | 1   | 32  | 61  | 259 |

グラフ 3



Dの「その他」を含め、A～Dの保育・教育の中でのピアノを活用の4つの項目のうち、平均値、回答順位ともに得点が最も高かったのがA「子どもの歌の伴奏」の場面であった。次いでB「歌の指導」、C「ピアノ単独での演奏」の順となった。Dの「その他」については、172人の対象者が自由記述で回答し、計224件の回答数が得られた。Dの回答の詳細を表17に示した。

表 17 D「その他」の内容

| 活動                     | 件数 | 比率(%) |
|------------------------|----|-------|
| リトミック, リズムあそび          | 84 | 37.5% |
| ゲーム等                   | 44 | 19.6% |
| 行事等                    | 32 | 14.3% |
| 礼拝, 奏楽                 | 13 | 5.8%  |
| 活動の切り替え, 合図            | 10 | 4.5%  |
| 表現あそび                  | 10 | 4.5%  |
| 劇やオペレッタ                | 9  | 4.0%  |
| 手遊び, 遊び歌等              | 4  | 1.8%  |
| 発表会, 音楽会の練習            | 4  | 1.8%  |
| 鍵盤ハーモニカ指導              | 4  | 1.8%  |
| パネルシアターや読み聞かせのBGM      | 3  | 1.3%  |
| クラスに音楽担当の専任教諭がいるので弾かない | 2  | 0.9%  |
| 子どものリクエスト              | 2  | 0.9%  |
| 研修等                    | 1  | 0.4%  |
| 職員のコンサート               | 1  | 0.4%  |
| 教師の弾き歌い                | 1  | 0.4%  |

D「その他」のうちで最も多くあがったのが「リトミック, リズムあそび」の活動であった。次いで「ゲーム等」の椅子取りゲームやストップゲーム等のゲームのBGMとしての活用があげられた。以下、「行事等」、「礼拝, 奏楽」と続く。中には、「クラスに音楽担当の専任教諭がいるので自分は弾かない」という回答もあった。

質問 3 保育士、幼稚園教諭、保育教諭として必要なピアノ演奏の技術についてお答えください。以下の①～⑧の項目について、とても重要だと思うものにはA、まあまあ重要だと思うものにはB、あまり重要ではないと思うものにはC、まったく重要ではないと思うものにはDを、それぞれ○で囲んでください。

質問 3 では、保育士、幼稚園教諭、保育教諭として必要な、ピアノ演奏の技術について質問した。保育、教育の現場で必要であると考えられる7つの項目のピアノと弾き歌いに関する技能について4択で回答を求めた。さらに、7つ以外にもあれば「その他」として自由記述式の回答を求めた。質問項目は、以下の通りである。

- ①ピアノ独奏の曲を弾くことができる
- ②子どもの歌を右手で旋律を弾きながら歌うことができる
- ③子どもが歌うのに合わせて伴奏をすることができる
- ④右手で旋律を弾き、左手でコードを弾くことができる

- ⑤両手でコード伴奏をすることができる
- ⑥伴奏を弾きながら歌う(弾き歌いする)ことができる
- ⑦伴奏を弾きながら先歌い(次の歌詞の頭出し)をすることができる
- ⑧その他

4 択の回答の各選択肢は、A「とても重要だと思う」、B「まあまあ重要だと思う」、C「あまり重要ではないと思う」、D「全く重要ではないと思う」とした。

①～⑦の回答を集計しまとめたものが表 18 である。

表 18 質問項目①～⑦の集計

| 質問3 保育士、幼稚園教諭、保育教諭として必要なピアノ演奏の技術について |        | A    | B    | C    | D   | 回答なし |
|--------------------------------------|--------|------|------|------|-----|------|
| ①ピアノ独奏の曲を弾くことができる                    | 回答数(人) | 69   | 234  | 209  | 44  | 15   |
|                                      | 割合(%)  | 12.1 | 41.0 | 36.6 | 7.7 | 2.6  |
| ②子どもの歌を右手で旋律を弾きながら歌うことができる           | 回答数(人) | 444  | 115  | 10   | 0   | 2    |
|                                      | 割合(%)  | 77.8 | 20.1 | 1.8  | 0.0 | 0.4  |
| ③子どもが歌うのに合わせて伴奏をすることができる             | 回答数(人) | 404  | 153  | 13   | 0   | 1    |
|                                      | 割合(%)  | 70.8 | 26.8 | 2.3  | 0.0 | 0.2  |
| ④右手で旋律を弾き、左手でコードを弾くことができる。           | 回答数(人) | 244  | 261  | 59   | 3   | 4    |
|                                      | 割合(%)  | 42.7 | 45.7 | 10.3 | 0.5 | 0.7  |
| ⑤両手でコード伴奏をすることができる                   | 回答数(人) | 74   | 253  | 210  | 29  | 5    |
|                                      | 割合(%)  | 13.0 | 44.3 | 36.8 | 5.1 | 0.9  |
| ⑥伴奏を弾きながら歌う(弾き歌いをする)ことができる           | 回答数(人) | 338  | 189  | 40   | 2   | 2    |
|                                      | 割合(%)  | 59.2 | 33.1 | 7.0  | 0.4 | 0.4  |
| ⑦伴奏を弾きながら先歌い(次の歌詞の頭出し)をすることができる      | 回答数(人) | 253  | 243  | 67   | 5   | 3    |
|                                      | 割合(%)  | 44.3 | 42.6 | 11.7 | 0.9 | 0.5  |

①の「ピアノ独奏の曲を弾くことができる」は、Aが12.1%、Bが41.0%であり、AB両者を合わせると、53.1%となり、半数以上の保育者がピアノ独奏の曲を弾くことができることを重要である、と捉えていることが分かった。同時に、Cが36.6%、またDが7.7%でCDの両者を合わせた44.3%の保育者があまり重要はでない、全く重要ではないと考えていることが分かった。「まあまあ重要である」と「あまり重要ではない」の割合がほぼ同程度であるのは、保育、教育の現場でピアノ独奏の曲を弾く場面はあっても、それよりも歌を伴った活動のほうがより頻度が高いことが理由として考えられる。

②の「子どもの歌を右手で旋律を弾きながら歌うことができる」は、Aが77.8%と約8割を占め、またBが20.1%であり、保育者の大多数が重要であると考えていることが判明した。Cの回答は1.8%、Dについては0件であった。

③の「子どもが歌うのに合わせて伴奏をすることができる」についても、②と同様に、重要で

あると考えている保育者がほとんどであった。Aは70.8%、Bは26.8%であり、両者合計で97.6%と高い数値を示している。Cが2.3%、Dについては②と同じく0件であった。

質問項目の中で、②、③については同程度に重要視されていることが判明した。右手で旋律を弾きながら歌うこと、また子どもが歌うのに合わせて伴奏を弾くことは、保育者のピアノ演奏における技能として、基礎的であり、また重要であると考えられていることが、この調査から読み取ることができる。

④の「右手で旋律を弾き、左手でコードを弾くことができる」は、Aが42.7%、Bが45.7%であり、88.4%の割合で重要であると考えられていることが分かった。Cが10.3%、Dは0.3%であった。

⑤の「両手でコード伴奏をすることができる」については、Aが13.0%と、①と同程度の割合で、②、③、④、⑤、⑥、⑦に比べてAの回答の割合が低いことが分かった。Bが44.3%、Cが36.8%、Dが5.1%であり、B、C、Dについても①の回答とほぼ同様であった。4割以上の保育者が「あまり重要ではない」、「まったく重要ではない」と回答し、他の質問と比較すると重要度が低いことが分かった。

⑥の「伴奏を弾きながら歌う(弾き歌いする)ことができる」では、Aが59.2%、Bが33.1%であり、9割以上の保育者が「とても重要だと思う」、「まあまあ重要だと思う」と回答した。

⑦の「伴奏を弾きながら先歌い(次の歌詞の頭出し)をすることができる」は、Aが44.3%、Bが42.6%であり、AB合わせて86.9%であり、こちらも重要度が高いといえることができる。

7つの質問項目のうち、もっとも必要とされ重要度が高いのが②「子どもの歌を右手で旋律を弾きながら歌うことができる」であり、次いで③「子どもが歌うのに合わせて伴奏をすることができる」、続いて⑥「伴奏を弾きながら歌う(弾き歌いする)ことができる」が必要とされていることが分かった。保育、教育の現場において必要と考えられているのが、「両手で伴奏をすること」よりも「右手で旋律を弾きながら歌うこと」であり、もちろん両手で演奏することも必要とされてはいるが、その必要性よりも「右手旋律と歌」を演奏するほうが必要性が高いことが、この質問の結果から分かった。また、①「ピアノ独奏の曲を弾くことができる」や⑤「両手でコード伴奏をすることができる」については、他の質問に比べ必要性、重要度が低いことが分かった。

この結果には、保育、教育現場でのピアノの活用について、「子どもの歌の伴奏をする場面」、「歌唱指導の場面」が多かったという質問2の結果との関連性も見られる。質問3で重要度が高かった、「右手で旋律を弾きながら歌うこと」、「子どもの歌に合わせて伴奏すること」、「弾き歌いをする」とは、質問2の結果である、活用の場面が多かった「子どもの歌の伴奏をする場面」、「歌唱指導の場面」で必要となる技能である。

⑧の「その他、ピアノや弾き歌いに関する技術で重要であると思うこと」については、以下の表19に記述をまとめた。⑧は対象者のうち116人から記述があり、計138件の意見があがった。

表 19 ⑧「その他」の記述（複数）

| 記述                    | 件数    | 比率 (%) |
|-----------------------|-------|--------|
| 子どもたちの様子を見ながらピアノを弾くこと | 23    | 16.67% |
| 間違えても止まらず続けること        | 21    | 15.22% |
| 保育者自身が楽しく歌うこと         | 12    | 8.70%  |
| 子どもたちの歌に合わせて弾くこと      | 11    | 7.97%  |
| 正しい音程、歌詞で歌うこと         | 9     | 6.52%  |
| 正しいリズムで弾けること          | 6     | 4.35%  |
| いろいろな曲想に合わせて弾くこと      | 6     | 4.35%  |
| 大きな声で元気に歌うこと          | 4     | 2.90%  |
| 初見で弾けること              | 4     | 2.90%  |
| コードでの伴奏ができること         | 4     | 2.90%  |
| 間違えずに最後まで弾けること        | 4     | 2.90%  |
| メロディーだけでも弾けること        | 4     | 2.90%  |
| 子どもの音域に合わせて移調できること    | 3     | 2.17%  |
| ピアノ、音楽が好きなこと          | 2     | 1.45%  |
| リトミックの伴奏、効果音など        | 2     | 1.45%  |
| 初めての歌の歌唱指導を工夫してできること  | 2     | 1.45%  |
| 難しい伴奏を簡単にアレンジできること    | 2     | 1.45%  |
| ピアノを用いずに歌を歌うこと        | 2     | 1.45%  |
| 未分類                   | 17    | 12.32% |
|                       | 計 138 |        |

意見が1件のみで、他に同様のものが無く、分類できなかった17件の意見は、以下の表20に示す。

表 20 ⑧「その他」のうち1件のみの記述

|  |
|--|
| 短期間で曲を弾きこなすこと。   |
| 弾く意識に集中して子どもたちを見ることができないよりは、右手だけを弾いて一緒に楽しめるほうが良い。        |
| 難しい曲を派手に弾く必要はない。主役は子ども。子どもたちが表現しやすいよう丁寧に温かい演奏を心掛け努力すること。 |
| 失敗しても最後まで弾こうとする姿。  |
| 苦手意識を持たないこと。   |
| 季節の歌や行事の歌などは弾けるとよい。                                      |
| 伴奏を弾きながら、子どもが歌いやすいかどうか判断できること。                           |
| 始めからだけでなく、曲の途中からでも弾けること。                                 |
| 歌詞を覚えていること。  |
| 歌い始めの「さん、はい」の声がけ。  |
| 暗譜で弾けること。  |
| その歌の面白いところを見つけ、気持ちよく歌いながら弾くこと。                           |
| 歌詞の内容や思いを理解し子どもに伝えること。教えてもらい、感じていく経験が重要。                 |
| 聴奏ができると活用できる。  |
| 幼稚園でピアノの実力が発揮できればとても楽しいということを皆さんに伝えて頂けると嬉しいです。           |
| 弾き歌いが出来ればよいが、歌うのに音程やリズムが分からない実習生が多い。リズムやテンポ、表現力が重要。      |
| 先歌い。   |

少数の意見の中にも、保育、教育の活動の中でのピアノや弾き歌いに関する技術について、重要な意見が複数あった。歌い出しの「さん、はい」などの声かけや、子どもたちが歌う直前に歌詞を先読みする「先歌い」<sup>37</sup>の技術、曲の途中から弾ける技術や、聴奏や暗譜など、ただ子どもたちと一緒に歌うだけでなく、歌唱指導の活動の中で活用することができ、また活動の幅が広がり重要な役割を担う技術、技能が見受けられた。また子どもたちが活動の中心であること、さらに表現のために楽曲を分析し理解すること等の、保育や教育の活動だけでなく、一般的に音楽を表現するうえでも重要である意見があげられている。

**質問4 保育所(園)、幼稚園、こども園で歌う機会が多い曲を、年齢別に3~5曲ほどお答えください。**

質問4では、保育所(園)、幼稚園、認定こども園で歌う機会が多い曲を、3歳児、4歳児、5歳児の年齢別に、それぞれ3~5曲を記述式で回答を求めた。保育所(園)や認定こども園では0~2歳の3歳未満の乳児、幼児も在籍しているが、3歳未満児と、3歳以上児のそれぞれの、ピアノの伴奏や弾き歌いの活動を伴った保育・教育の中での音楽的な活動を比べた場合、より多く、本格的になるのは3歳以上児の活動であると考えられるため、本調査では対象を3歳、4歳、5歳とした。

表21には、3歳児で歌うことが多い曲の集計結果を示した。表22には4歳児の結果を、表23には5歳児での結果を示した。3~5歳児全てを合わせた結果については、表24に示した。

集計の際、「季節の歌」や「聖歌」、「讃美歌」など、複数の曲を示しているものや、曲名を特定できないもの、また「園歌」など園や施設によって曲が異なるものについては、表の最後にセルを灰色にして表示した。また、「おはようのうた」や「朝のうた」、「帰りのうた」など、曲名が同じで歌詞や旋律が異なる別の曲が複数あるものを薄灰色で示している。

---

<sup>37</sup> 「頭出し」、「先読み」、「先歌い」等の名称が使われている。本論では「先歌い」とする。

表 21 3歳児 歌う機会が多い曲

| 曲名             | 数  | 比率 (%) | 曲名             | 数 | 比率 (%) | 曲名               | 数 | 比率 (%) | 曲名              | 数  | 比率 (%) |
|----------------|----|--------|----------------|---|--------|------------------|---|--------|-----------------|----|--------|
| さんぽ            | 93 | 6.43%  | はをみがきましよう      | 6 | 0.41%  | はる               | 2 | 0.14%  | 手あそび            | 1  | 0.07%  |
| ちゅうりつぷ         | 82 | 5.67%  | ゆきだるまのチャチャチャ   | 6 | 0.41%  | 春がきたんだ           | 2 | 0.14%  | まめまき            | 1  | 0.07%  |
| どんぐりころころ       | 55 | 3.80%  | ゆきのこぼりず        | 6 | 0.41%  | パレード             | 2 | 0.14%  | ドキドキドン！一年生      | 1  | 0.07%  |
| おもちゃのチャチャチャ    | 47 | 3.25%  | ゆげのあさ          | 6 | 0.41%  | ぼっほのおうち          | 2 | 0.14%  | どこでしょう          | 1  | 0.07%  |
| きのこ            | 33 | 2.28%  | そうだったらいいのにな    | 5 | 0.35%  | 南の島のハメハメハ大王      | 2 | 0.14%  | ともだちいいね         | 1  | 0.07%  |
| バスごっこ          | 31 | 2.14%  | たのしいね          | 5 | 0.35%  | もちつき             | 2 | 0.14%  | ドレミのまほう         | 1  | 0.07%  |
| いぬのおまわりさん      | 29 | 2.01%  | とんとんとんひげじいさん   | 5 | 0.35%  | ヤッホッポ！夏休み        | 2 | 0.14%  | チャニコノヨのてんきまほう   | 1  | 0.07%  |
| おべんとう          | 27 | 1.87%  | やぎさんゆうびん       | 5 | 0.35%  | 山の子              | 2 | 0.14%  | パイナップルのせんすいかん   | 1  | 0.07%  |
| こいのぼり          | 27 | 1.87%  | アンパンマンのマーチ     | 4 | 0.28%  | アイウエオーッ          | 1 | 0.07%  | ハッピーチルドレン       | 1  | 0.07%  |
| てをたたきましよう      | 26 | 1.80%  | うちゅうせんのうた      | 4 | 0.28%  | あさ、ひる、ゆうがた、よるのうた | 1 | 0.07%  | ハッピーフレンズ        | 1  | 0.07%  |
| ちようちよう         | 25 | 1.73%  | おはながわらった       | 4 | 0.28%  | あなたのお名前          | 1 | 0.07%  | バナナのおやこ         | 1  | 0.07%  |
| とんぼのめがね        | 24 | 1.66%  | かわいいかくれんぼ      | 4 | 0.28%  | あの昔い空のように        | 1 | 0.07%  | はみがき            | 1  | 0.07%  |
| むすんでひらいて       | 24 | 1.66%  | こどものせかい        | 4 | 0.28%  | 雨だれぼったん          | 1 | 0.07%  | 春の風             | 1  | 0.07%  |
| 朝のうた           | 22 | 1.52%  | 誕生会のうた         | 4 | 0.28%  | 聖歌あめのきさき         | 1 | 0.07%  | ひかりひかり          | 1  | 0.07%  |
| ぞうさん           | 21 | 1.45%  | はたらくるま         | 4 | 0.28%  | あめんぼチャチャチャ       | 1 | 0.07%  | ひなまつり           | 1  | 0.07%  |
| はるかき           | 20 | 1.38%  | はるがきた          | 4 | 0.28%  | いっぽんばし           | 1 | 0.07%  | ひらいたひらいた        | 1  | 0.07%  |
| 桶りのうた          | 20 | 1.38%  | ミッキーマウスマーチ     | 4 | 0.28%  | いとまきのうた          | 1 | 0.07%  | ぼくのクレヨン         | 1  | 0.07%  |
| あめふりくまのこ       | 19 | 1.31%  | あさやけタヤケ        | 3 | 0.21%  | いもほり             | 1 | 0.07%  | でふいもちゃんちびいもちゃん  | 1  | 0.07%  |
| おかえりのうた        | 19 | 1.31%  | ありがどうの花        | 3 | 0.21%  | ウキウキバスデー         | 1 | 0.07%  | きらきら星           | 1  | 0.07%  |
| 夢をかなくてドラえもん    | 19 | 1.31%  | ありさんのおはなし      | 3 | 0.21%  | うさぎさんがきてね        | 1 | 0.07%  | はたる             | 1  | 0.07%  |
| しあわせならてをたたこう   | 18 | 1.24%  | おかあさん          | 3 | 0.21%  | さんぽ              | 1 | 0.07%  | ホップステップジャンプくん   | 1  | 0.07%  |
| やまのおんがくか       | 18 | 1.24%  | 機関車のうた         | 3 | 0.21%  | うまれるまえから         | 1 | 0.07%  | ボンボンたぬき         | 1  | 0.07%  |
| かたつむり          | 17 | 1.18%  | グーチョキパーでなにつくろう | 3 | 0.21%  | うんどうかいのうた        | 1 | 0.07%  | まつか秋            | 1  | 0.07%  |
| まめまき           | 17 | 1.18%  | げんこつやまのたぬきさん   | 3 | 0.21%  | おおきなたいこ          | 1 | 0.07%  | みんながあつまつた       | 1  | 0.07%  |
| こりのうた          | 16 | 1.11%  | さよならのうた        | 3 | 0.21%  | 大きな古時計           | 1 | 0.07%  | みんなでおどろう        | 1  | 0.07%  |
| せんせいとおともだち     | 16 | 1.11%  | ジングルベル         | 3 | 0.21%  | おかたづけ            | 1 | 0.07%  | みんなでたんじょうび      | 1  | 0.07%  |
| にじ             | 16 | 1.11%  | 世界中のこどもたちが     | 3 | 0.21%  | おたんじょうかいのうた      | 1 | 0.07%  | みんなともだち         | 1  | 0.07%  |
| ゆき             | 16 | 1.11%  | 小さな世界          | 3 | 0.21%  | おちぼのきしゃぼっほ       | 1 | 0.07%  | むしのこえ           | 1  | 0.07%  |
| おおきなりのきのしたで    | 14 | 0.97%  | となりのトトロ        | 3 | 0.21%  | おどるボンボリン         | 1 | 0.07%  | めぐみのうた          | 1  | 0.07%  |
| たなぼたさま         | 14 | 0.97%  | とんでったバナナ       | 3 | 0.21%  | おなかのへるうた         | 1 | 0.07%  | メリーさんのひつじ       | 1  | 0.07%  |
| やきいもグーチョキパー    | 14 | 0.97%  | にんげんっていいな      | 3 | 0.21%  | おにのパンツ           | 1 | 0.07%  | 森のクリスマス         | 1  | 0.07%  |
| どんな色がすき        | 13 | 0.90%  | バンダ・うさぎ・コアラ    | 3 | 0.21%  | おはなしゆびさん         | 1 | 0.07%  | やさいのパーティーおおさわぎ  | 1  | 0.07%  |
| おんげなんてないさ      | 12 | 0.83%  | ピクニック          | 3 | 0.21%  | おはようございますのうた     | 1 | 0.07%  | やまのかんしゃさい       | 1  | 0.07%  |
| おはようのうた        | 12 | 0.83%  | ふしぎなポケット       | 3 | 0.21%  | おべんとうばこのうた       | 1 | 0.07%  | 山のワルツ           | 1  | 0.07%  |
| かえるのがっしょう      | 12 | 0.83%  | めだかのがっこう       | 3 | 0.21%  | おむねをはりましょ        | 1 | 0.07%  | やまびこごっこ         | 1  | 0.07%  |
| カレンダーマーチ       | 12 | 0.83%  | ゆきのべんきやさん      | 3 | 0.21%  | おやつのうた           | 1 | 0.07%  | ワイワイワールド        | 1  | 0.07%  |
| きらきら星          | 12 | 0.83%  | きらいこのあいさつ      | 3 | 0.21%  | かえる              | 1 | 0.07%  | 季節のうた           | 36 | 2.49%  |
| 森のくまさん         | 11 | 0.76%  | まがあげた          | 3 | 0.21%  | カエル大行進のうた        | 1 | 0.07%  | 園歌              | 11 | 0.76%  |
| アイアイ           | 10 | 0.69%  | アイスクリームのうた     | 2 | 0.14%  | 北風小僧の寒太郎         | 1 | 0.07%  | 聖歌              | 7  | 0.48%  |
| あわてんぼうのサンタクロース | 10 | 0.69%  | あかはなのトナカイ      | 2 | 0.14%  | くいしんぼおぼけ         | 1 | 0.07%  | 讃美歌             | 4  | 0.28%  |
| ドレミのうた         | 10 | 0.69%  | お正月            | 2 | 0.14%  | くつがる             | 1 | 0.07%  | 食前のお祈り          | 3  | 0.21%  |
| まつぼっくり         | 10 | 0.69%  | おひさまになりたい      | 2 | 0.14%  | こりとぶどう           | 1 | 0.07%  | お祈りのうた          | 2  | 0.14%  |
| うれしいひなまつり      | 8  | 0.55%  | おもいでアルバム       | 2 | 0.14%  | この木なんの木          | 1 | 0.07%  | オリジナル曲          | 2  | 0.14%  |
| きゅうしょくのうた      | 8  | 0.55%  | おんなはみんな        | 2 | 0.14%  | ゴリラのおんがくかい       | 1 | 0.07%  | 行事のうた           | 2  | 0.14%  |
| とけいのうた         | 8  | 0.55%  | ガンバリマンのうた      | 2 | 0.14%  | ごんべさんのあかちゃん      | 1 | 0.07%  | こども讃美歌          | 2  | 0.14%  |
| にじのむこうに        | 8  | 0.55%  | くだものれっしや       | 2 | 0.14%  | 三人の小人の仕事のうた      | 1 | 0.07%  | 生活のうた           | 2  | 0.14%  |
| ぼくのミックスジュース    | 8  | 0.55%  | こぎつね           | 2 | 0.14%  | さんたのおじさん         | 1 | 0.07%  | 朝の会のうた          | 1  | 0.07%  |
| 勇気100%         | 8  | 0.55%  | こぶたぬきつねこ       | 2 | 0.14%  | さんぽぼ             | 1 | 0.07%  | 朝や帰りのうた         | 1  | 0.07%  |
| あくしゅでこんにちわ     | 7  | 0.48%  | 聖歌マリアさまのこころ    | 2 | 0.14%  | 七五三              | 1 | 0.07%  | アンパンマン          | 1  | 0.07%  |
| うみ             | 7  | 0.48%  | せんろはつづくよどこまでも  | 2 | 0.14%  | すいかの名産地          | 1 | 0.07%  | アンパンマンのうた       | 1  | 0.07%  |
| くじらのとけい        | 7  | 0.48%  | たきび            | 2 | 0.14%  | すてきなパパ           | 1 | 0.07%  | しまじろう           | 1  | 0.07%  |
| コンコンジャンクのうた    | 7  | 0.48%  | たなばたまつり        | 2 | 0.14%  | すばらしいことば         | 1 | 0.07%  | 昼食のうた           | 1  | 0.07%  |
| 誕生日のうた         | 7  | 0.48%  | つくしがでたよ        | 2 | 0.14%  | せつけんさん           | 1 | 0.07%  | ディズニー、ジブリ、アニメの歌 | 1  | 0.07%  |
| ぶんぶんぶん         | 7  | 0.48%  | でのひらをたいように     | 2 | 0.14%  | ママ大好き            | 1 | 0.07%  | 童謡              | 1  | 0.07%  |
| ホ・ホ・ホ!         | 7  | 0.48%  | トマト            | 2 | 0.14%  | だからきょうはあめふり      | 1 | 0.07%  | 日常的に歌うもの        | 1  | 0.07%  |
| しゃぼんだま         | 6  | 0.41%  | ともだちになるために     | 2 | 0.14%  | 小さいおてて           | 1 | 0.07%  | 発表会             | 1  | 0.07%  |
| ずうじのうた         | 6  | 0.41%  | ドロップスのうた       | 2 | 0.14%  | チャンスは何度もやってくる    | 1 | 0.07%  | 幼児さんびか          | 1  | 0.07%  |
| チポリーノの冒険       | 6  | 0.41%  | ハッピーバスデー       | 2 | 0.14%  | つっぴんとびうお         | 1 | 0.07%  | 礼拝の歌            | 1  | 0.07%  |



表 22 4 歳児 歌う機会が多い曲

| 曲名            | 数  | 比率 (%) | 曲名               | 数 | 比率 (%) | 曲名            | 数 | 比率 (%) | 曲名                        | 数  | 比率 (%) |
|---------------|----|--------|------------------|---|--------|---------------|---|--------|---------------------------|----|--------|
| さんぽ           | 67 | 5.21%  | ドレミのまほう          | 4 | 0.31%  | 聖歌あめのきさき      | 1 | 0.08%  | でんでらりゅうぼ                  | 1  | 0.08%  |
| にじ            | 56 | 4.36%  | ニャニニョの天気予報       | 4 | 0.31%  | だから雨ふり        | 1 | 0.08%  | どうぶつのはな                   | 1  | 0.08%  |
| カレンダーマーチ      | 36 | 2.80%  | ね                | 4 | 0.31%  | ありがとうのうた      | 1 | 0.08%  | ドキドキド！一年生                 | 1  | 0.08%  |
| あめふりくまのこ      | 35 | 2.72%  | はたけのボルカ          | 4 | 0.31%  | 歩いてゆこう        | 1 | 0.08%  | ドコノキノコ                    | 1  | 0.08%  |
| きのこ           | 35 | 2.72%  | ピリープ             | 4 | 0.31%  | いどのなかのかえる     | 1 | 0.08%  | ともだちはいいもんだ                | 1  | 0.08%  |
| おぼけなんてないさ     | 30 | 2.33%  | まっかな秋            | 4 | 0.31%  | いとまきのうた       | 1 | 0.08%  | とんぼ                       | 1  | 0.08%  |
| ホ・ホ・ホ!        | 27 | 2.10%  | みんなともだち          | 4 | 0.31%  | ウキウキバスデー      | 1 | 0.08%  | ながぐつマーチ                   | 1  | 0.08%  |
| にじのむこうに       | 26 | 2.02%  | やぎさんゆうびん         | 4 | 0.31%  | うさぎ野原のクリスマス   | 1 | 0.08%  | なつだよプールだよ                 | 1  | 0.08%  |
| 夢をかなえてドラえもん   | 23 | 1.79%  | ゆうやけこやけ          | 4 | 0.31%  | うたリズムのうた      | 1 | 0.08%  | 七つの子                      | 1  | 0.08%  |
| 朝のうた          | 22 | 1.71%  | ゆきのべんきやさん        | 4 | 0.31%  | ドレミの歌         | 1 | 0.08%  | にじいろのバレード                 | 1  | 0.08%  |
| ドレミのうた        | 21 | 1.63%  | あさやけ夕やけ          | 3 | 0.23%  | うまれるまえから      | 1 | 0.08%  | 虹の天使                      | 1  | 0.08%  |
| にんげんっていいな     | 20 | 1.56%  | いもほりのうた          | 3 | 0.23%  | えがおでいこう       | 1 | 0.08%  | バイナッフルのせんすいかん             | 1  | 0.08%  |
| バスごっこ         | 20 | 1.56%  | おおい木             | 3 | 0.23%  | おかあさんのうた      | 1 | 0.08%  | ハイホー                      | 1  | 0.08%  |
| おかいりのうた       | 18 | 1.40%  | おどるボンボリン         | 3 | 0.23%  | おしょうがつ        | 1 | 0.08%  | バケツいっぱいのおやすみ              | 1  | 0.08%  |
| おべんとう         | 18 | 1.40%  | おはようクレヨン         | 3 | 0.23%  | おたんじょうかいのうた   | 1 | 0.08%  | はしるのだいすき                  | 1  | 0.08%  |
| 世界中のこどもたちが    | 18 | 1.40%  | くじらのとけい          | 3 | 0.23%  | おなかのへるうた      | 1 | 0.08%  | はずむよはずむよ                  | 1  | 0.08%  |
| たのしいね         | 17 | 1.32%  | こりのうた            | 3 | 0.23%  | 鬼のパンツ         | 1 | 0.08%  | ハッピーハムハムバスデー              | 1  | 0.08%  |
| ぼくのミックスジュース   | 17 | 1.32%  | コンコンクシヤンのうた      | 3 | 0.23%  | おはながわらった      | 1 | 0.08%  | ハッピーフレンズ                  | 1  | 0.08%  |
| やまのおんがくか      | 17 | 1.32%  | せんせいとおともだち       | 3 | 0.23%  | おむねをはりましょ     | 1 | 0.08%  | バナナのおやこ                   | 1  | 0.08%  |
| 踊りのうた         | 16 | 1.25%  | ちゅうりっぷ           | 3 | 0.23%  | おもちゃのマーチ      | 1 | 0.08%  | ぼよよん行進曲                   | 1  | 0.08%  |
| てのひらをたいまゆに    | 15 | 1.17%  | ハッピーチルドレン        | 3 | 0.23%  | おやつのうた        | 1 | 0.08%  | はみがきのうた                   | 1  | 0.08%  |
| やきいもグーチーパー    | 15 | 1.17%  | ふしぎなポケット         | 3 | 0.23%  | およげたいやきくん     | 1 | 0.08%  | パワフルパワー                   | 1  | 0.08%  |
| そうだったらいいのにな   | 14 | 1.09%  | まつぼっくり           | 3 | 0.23%  | おんまはみんな       | 1 | 0.08%  | はをみがきましよう                 | 1  | 0.08%  |
| とんぼのめがね       | 14 | 1.09%  | ミッキーマウスマーチ       | 3 | 0.23%  | かえりやうのうた      | 1 | 0.08%  | パンダってなんだ                  | 1  | 0.08%  |
| 勇気100%        | 14 | 1.09%  | めだかのがっこう         | 3 | 0.23%  | かえるのがつしょう     | 1 | 0.08%  | ピクニックマーチ                  | 1  | 0.08%  |
| あわてぼうのサンタクロース | 13 | 1.01%  | 山のワルツ            | 3 | 0.23%  | がけのうえのポニョ     | 1 | 0.08%  | ひらいたひらいた                  | 1  | 0.08%  |
| おもちゃのチャチャチャ   | 13 | 1.01%  | あおいそらにえをかこう      | 2 | 0.16%  | かたつむり         | 1 | 0.08%  | ペンギンさん                    | 1  | 0.08%  |
| どんぐりころころ      | 12 | 0.93%  | 秋の空              | 2 | 0.16%  | カレーライス        | 1 | 0.08%  | ぼかぼかてくてく                  | 1  | 0.08%  |
| うたえパンパン       | 11 | 0.86%  | 明日ははれる           | 2 | 0.16%  | きみともだちになったなら  | 1 | 0.08%  | ぼくのクレヨン                   | 1  | 0.08%  |
| とけいのうた        | 11 | 0.86%  | あしたともだち          | 2 | 0.16%  | きみのこえ         | 1 | 0.08%  | ほしぞらカーニバル                 | 1  | 0.08%  |
| おはようのうた       | 10 | 0.78%  | アブラハムの子          | 2 | 0.16%  | くじらのバス        | 1 | 0.08%  | ホップステップジャンプ               | 1  | 0.08%  |
| 北風小僧の寒太郎      | 10 | 0.78%  | うみ               | 2 | 0.16%  | くだものやさんマンボ    | 1 | 0.08%  | ボンボンポンとはるがきた              | 1  | 0.08%  |
| せんちほつづくよこごまでも | 10 | 0.78%  | 大きなうた            | 2 | 0.16%  | くだものれっしや      | 1 | 0.08%  | マラソンゆきだるま                 | 1  | 0.08%  |
| 南の島のハメハメハ大王   | 10 | 0.78%  | おかあさん            | 2 | 0.16%  | クラリネットにおしやっつた | 1 | 0.08%  | みんなでたんじょうび                | 1  | 0.08%  |
| ゆき            | 10 | 0.78%  | おさるのレストラン        | 2 | 0.16%  | 元気でいてね        | 1 | 0.08%  | みんなの広場                    | 1  | 0.08%  |
| ありがとうの花       | 9  | 0.70%  | おつかいありさん         | 2 | 0.16%  | げんこつ山のたぬきさん   | 1 | 0.08%  | もちつき                      | 1  | 0.08%  |
| しあわせならてをたたこう  | 9  | 0.70%  | かめのえんそく          | 2 | 0.16%  | 公園にいきましょう     | 1 | 0.08%  | 森から森へ                     | 1  | 0.08%  |
| どんないろがすき      | 9  | 0.70%  | きみとぼくのラララ        | 2 | 0.16%  | こぎつね          | 1 | 0.08%  | 森のクリスマス                   | 1  | 0.08%  |
| 森のくまさん        | 9  | 0.70%  | さよならのうた          | 2 | 0.16%  | 白くまさんの宅配便     | 1 | 0.08%  | 森のかじや                     | 1  | 0.08%  |
| こどものせかい       | 8  | 0.62%  | ジグザグおさんぽ         | 2 | 0.16%  | こどもがいっぱいわらってる | 1 | 0.08%  | 森のファミリーレストラン              | 1  | 0.08%  |
| 小さな世界         | 8  | 0.62%  | 聖歌マリアさまのこころ      | 2 | 0.16%  | この木なんの木       | 1 | 0.08%  | 森は生きている                   | 1  | 0.08%  |
| とんでったバナナ      | 8  | 0.62%  | 世界が一つになるまで       | 2 | 0.16%  | こぶたぬきつねこ      | 1 | 0.08%  | ゆげのあや                     | 1  | 0.08%  |
| うちゅうせんのうた     | 7  | 0.54%  | だから雨ふり           | 2 | 0.16%  | アブラハムの子       | 1 | 0.08%  | ゆりかごのうた                   | 1  | 0.08%  |
| きゅうしよのうた      | 7  | 0.54%  | 誕生会のうた           | 2 | 0.16%  | こんなこいるかな      | 1 | 0.08%  | よがあけた                     | 1  | 0.08%  |
| たきび           | 7  | 0.54%  | ちびすけうさぎのカルロスロザノ  | 2 | 0.16%  | きつねちゃん        | 1 | 0.08%  | じゃんけん列車                   | 1  | 0.08%  |
| ドロップスのうた      | 7  | 0.54%  | チボーノの冒険          | 2 | 0.16%  | ともだち賛歌        | 1 | 0.08%  | 季節のうた                     | 34 | 2.65%  |
| バレード          | 7  | 0.54%  | となりのトトロ          | 2 | 0.16%  | サンタは今ごろ       | 1 | 0.08%  | 園歌                        | 13 | 1.01%  |
| いぬのおまわりさん     | 6  | 0.47%  | はじめの一步           | 2 | 0.16%  | さんぽぽ          | 1 | 0.08%  | 聖歌                        | 5  | 0.39%  |
| すてきなパパ        | 6  | 0.47%  | ハッピーバスデー         | 2 | 0.16%  | しあわせつころう      | 1 | 0.08%  | 讃美歌                       | 3  | 0.23%  |
| たなばたさま        | 6  | 0.47%  | はるがきた            | 2 | 0.16%  | しままぐルグル       | 1 | 0.08%  | お祈りのうた                    | 2  | 0.16%  |
| てをたたきましよう     | 6  | 0.47%  | パンダのうた           | 2 | 0.16%  | 十二支のうた        | 1 | 0.08%  | オリジナル曲                    | 2  | 0.16%  |
| ともだちになるために    | 6  | 0.47%  | ひなまつり            | 2 | 0.16%  | ジングルバル        | 1 | 0.08%  | 行事のうた                     | 2  | 0.16%  |
| ピクニック         | 6  | 0.47%  | ぼっぼのおうち          | 2 | 0.16%  | すいかのめいさんち     | 1 | 0.08%  | 生活のうた                     | 2  | 0.16%  |
| アイスクリームのうた    | 5  | 0.39%  | むすんでひらいて         | 2 | 0.16%  | オサめがサンバ       | 1 | 0.08%  | 昼食のうた                     | 2  | 0.16%  |
| おおきなくりのきのしたで  | 5  | 0.39%  | ヤッホッホ！夏休み        | 2 | 0.16%  | セブンスステップ      | 1 | 0.08%  | 「おかあさんといっしょ」のうた           | 1  | 0.08%  |
| 思い出のアルバム      | 5  | 0.39%  | やまびこごっこ          | 2 | 0.16%  | ぞうさん          | 1 | 0.08%  | 朝の会のうた                    | 1  | 0.08%  |
| ケンカのあとは       | 5  | 0.39%  | ヤンチャリカ           | 2 | 0.16%  | ぞうさんのぼうし      | 1 | 0.08%  | 朝や帰りのうた                   | 1  | 0.08%  |
| こいのぼり         | 5  | 0.39%  | よいこのあいさつ         | 2 | 0.16%  | そらにらくがきかきたいな  | 1 | 0.08%  | クリスマス関連のうた                | 1  | 0.08%  |
| しゃぼんだま        | 5  | 0.39%  | ろうそくいっぼん         | 2 | 0.16%  | だいだいだいぼうけん    | 1 | 0.08%  | こども讃美歌                    | 1  | 0.08%  |
| 誕生日のうた        | 5  | 0.39%  | 365日の紙飛行機        | 1 | 0.08%  | だんごむしのうた      | 1 | 0.08%  | 食前のお祈り                    | 1  | 0.08%  |
| はたらくるま        | 5  | 0.39%  | Let's go いいことあるさ | 1 | 0.08%  | たんじょうび        | 1 | 0.08%  | ちびまるこちゃん                  | 1  | 0.08%  |
| まめまき          | 5  | 0.39%  | アイアイ             | 1 | 0.08%  | 小さいおてて        | 1 | 0.08%  | ダンスミュージック、ジブリ、アニメの歌       | 1  | 0.08%  |
| むしのこえ         | 5  | 0.39%  | 赤鬼と青鬼のタンゴ        | 1 | 0.08%  | 小さな木の実        | 1 | 0.08%  | 童謡                        | 1  | 0.08%  |
| うれしいひなまつり     | 4  | 0.31%  | 赤鼻のトナカイ          | 1 | 0.08%  | 小さなハンス        | 1 | 0.08%  | 「トトロ、ドラえもん、おかあさんといっしょ」のうた | 1  | 0.08%  |
| 大きな古時計        | 4  | 0.31%  | あくしゅでこんにちば       | 1 | 0.08%  | チキチキパンパン      | 1 | 0.08%  | 日常的に歌うもの                  | 1  | 0.08%  |
| おひさまになりたい     | 4  | 0.31%  | あさいちはんはやいの       | 1 | 0.08%  | チャッスは何度もやってくる | 1 | 0.08%  | 発表会                       | 1  | 0.08%  |
| ガンバリマンのうた     | 4  | 0.31%  | あそび虫のうた          | 1 | 0.08%  | ちょうちょう        | 1 | 0.08%  | 仏教行事のうた                   | 1  | 0.08%  |
| ううじのうた        | 4  | 0.31%  | あぶくたつた           | 1 | 0.08%  | つくしがでたよ       | 1 | 0.08%  | 幼児さんびか                    | 1  | 0.08%  |
| ともだちさんか       | 4  | 0.31%  | あまがえるのうた         | 1 | 0.08%  | てをたたこう        | 1 | 0.08%  | 礼拝の歌                      | 1  | 0.08%  |
|               |    |        |                  |   |        |               |   |        | わらべうた                     | 1  | 0.08%  |

表 23 5歳児 歌う機会が多い曲

| 曲名               | 数  | 比率 (%) | 曲名             | 数 | 比率 (%) | 曲名             | 数 | 比率 (%) | 曲名                | 数  | 比率 (%) |
|------------------|----|--------|----------------|---|--------|----------------|---|--------|-------------------|----|--------|
| にじ               | 88 | 6.74%  | 大切ないのち         | 3 | 0.23%  | 上を向いてあるこう      | 1 | 0.08%  | どうぶつのはな           | 1  | 0.08%  |
| 世界中の子もたちが        | 46 | 3.52%  | たなばたさま         | 3 | 0.23%  | ウキウキバスデー       | 1 | 0.08%  | トゥモロー             | 1  | 0.08%  |
| カレンダーマーチ         | 40 | 3.06%  | たのしいね          | 3 | 0.23%  | ともだちの歌         | 1 | 0.08%  | とびだせ地球            | 1  | 0.08%  |
| 思い出のアルバム         | 39 | 2.99%  | チボーノの冒険        | 3 | 0.23%  | グリーングリーン       | 1 | 0.08%  | ともだち・おひさま・やさしいこころ | 1  | 0.08%  |
| にじのむこうに          | 34 | 2.60%  | 翼をください         | 3 | 0.23%  | スイカのむこうに宇宙がみえた | 1 | 0.08%  | ともだちになりたい         | 1  | 0.08%  |
| Believe          | 33 | 2.53%  | トレロカモミロ        | 3 | 0.23%  | うちゅうせんのうた      | 1 | 0.08%  | どんぐりころころ          | 1  | 0.08%  |
| うたえパンパン          | 24 | 1.84%  | ニヤニヤのてんきまほう    | 3 | 0.23%  | うまれるまえから       | 1 | 0.08%  | とんでったバナナ          | 1  | 0.08%  |
| さんぽ              | 24 | 1.84%  | むしばのこどものたんじょうび | 3 | 0.23%  | うみ             | 1 | 0.08%  | どんないろがすき          | 1  | 0.08%  |
| 勇気100%           | 23 | 1.76%  | 森のくまさん         | 3 | 0.23%  | うんどうかい         | 1 | 0.08%  | とんぼのめがね           | 1  | 0.08%  |
| あしたは晴れる          | 22 | 1.68%  | あそびむし          | 2 | 0.15%  | お正月            | 1 | 0.08%  | なにか               | 1  | 0.08%  |
| ありがとうの花          | 22 | 1.68%  | 歩いてゆこう         | 2 | 0.15%  | おつかいありさん       | 1 | 0.08%  | 南極にいこう            | 1  | 0.08%  |
| 朝のうた             | 21 | 1.61%  | うさぎ野原のクリスマス    | 2 | 0.15%  | おはながわらった       | 1 | 0.08%  | 365日の紙飛行機         | 1  | 0.08%  |
| ドキドキドン！一年生       | 21 | 1.61%  | おおきなうた         | 2 | 0.15%  | おはながわらった       | 1 | 0.08%  | バケツ100ぱいのなつやすみ    | 1  | 0.08%  |
| 大きな古時計           | 20 | 1.53%  | おおお母はみどり       | 2 | 0.15%  | おはようクレヨン       | 1 | 0.08%  | はずむはずむよ           | 1  | 0.08%  |
| ともだちになるために       | 19 | 1.45%  | おおあさん          | 2 | 0.15%  | おむねをはりましょ      | 1 | 0.08%  | はたらくるま            | 1  | 0.08%  |
| ぼくのミックスジュース      | 19 | 1.45%  | おひさまになりたい      | 2 | 0.15%  | おやつのうた         | 1 | 0.08%  | ハッピープレゼン          | 1  | 0.08%  |
| ともだちさんか          | 18 | 1.38%  | おべんとうぼんざい      | 2 | 0.15%  | おんまはみんな        | 1 | 0.08%  | ありがとうの花           | 1  | 0.08%  |
| てのひらをたいように       | 17 | 1.30%  | かえるのがつしょう      | 2 | 0.15%  | かたつむり          | 1 | 0.08%  | はみがき              | 1  | 0.08%  |
| あおいそらにえをかこう      | 16 | 1.23%  | 風も雪もともだちだ      | 2 | 0.15%  | かまきりじいさん       | 1 | 0.08%  | はらぺこあおむし          | 1  | 0.08%  |
| おかえりのうた          | 16 | 1.23%  | きつとできる         | 2 | 0.15%  | 紙ひこうき          | 1 | 0.08%  | 春がきた              | 1  | 0.08%  |
| はじめての一步          | 16 | 1.23%  | きみたち今日からともだちだ  | 2 | 0.15%  | がんが            | 1 | 0.08%  | パワフルパワー           | 1  | 0.08%  |
| 夢をかかえてドラえもん      | 16 | 1.23%  | げんこつ山のたぬきさん    | 2 | 0.15%  | 黄色いゆりかご        | 1 | 0.08%  | パンダってなんだ          | 1  | 0.08%  |
| パレード             | 15 | 1.15%  | 恋するニワトク        | 2 | 0.15%  | 気球にのってどこまでも    | 1 | 0.08%  | ピクニックマーチ          | 1  | 0.08%  |
| おおきい木            | 14 | 1.07%  | こぎつね           | 2 | 0.15%  | 切手のないおくりもの     | 1 | 0.08%  | ひなまつり             | 1  | 0.08%  |
| アイスクリームのうた       | 13 | 1.00%  | ともだち賛歌         | 2 | 0.15%  | ちびうさぎのカルロスちゃん  | 1 | 0.08%  | ひまわりのやくそく         | 1  | 0.08%  |
| あめふりくまのこ         | 13 | 1.00%  | さんぽぼ           | 2 | 0.15%  | くまはなせ冬ねむる      | 1 | 0.08%  | ふしぎなポケット          | 1  | 0.08%  |
| おべんとう            | 13 | 1.00%  | しあわせならてをたたこう   | 2 | 0.15%  | きみとぼくのあいだに     | 1 | 0.08%  | くまはなせ冬ねむる         | 1  | 0.08%  |
| 帰りのうた            | 13 | 1.00%  | しょうじょうのたぬきやし   | 2 | 0.15%  | 君の名前           | 1 | 0.08%  | ぼくのクレヨン           | 1  | 0.08%  |
| あわてんぼうのサンタクロース   | 12 | 0.92%  | ジャングルベル        | 2 | 0.15%  | キャンプソング        | 1 | 0.08%  | はしがルンラン           | 1  | 0.08%  |
| にんげんっていいな        | 11 | 0.84%  | 聖歌あめのさきさき      | 3 | 0.23%  | 今日の日ほさようなら     | 1 | 0.08%  | ホップステップジャンプくん     | 1  | 0.08%  |
| そうだったらいいのにな      | 10 | 0.77%  | 聖歌マリアさまのこころ    | 2 | 0.15%  | きよこのよる         | 1 | 0.08%  | ボンボンボンと春が来た       | 1  | 0.08%  |
| ホ・ホ・ホ!           | 10 | 0.77%  | せかいいつしゅう       | 2 | 0.15%  | キラキラがいっぱい      | 1 | 0.08%  | また会える日まで          | 1  | 0.08%  |
| みんなともだち          | 10 | 0.77%  | 空より高く          | 2 | 0.15%  | 十二月のうた         | 1 | 0.08%  | まつぼっくり            | 1  | 0.08%  |
| 北風小僧の寒太郎         | 9  | 0.69%  | たきび            | 2 | 0.15%  | クラリネットのおしり     | 1 | 0.08%  | まほうのとびら           | 1  | 0.08%  |
| きのこ              | 9  | 0.69%  | 小さい秋みつけた       | 2 | 0.15%  | こどりのうた         | 1 | 0.08%  | みずあそび             | 1  | 0.08%  |
| 一年生になったら         | 8  | 0.61%  | てをたたきましよう      | 2 | 0.15%  | この木なんの木        | 1 | 0.08%  | みのりのあき            | 1  | 0.08%  |
| おはようのうた          | 8  | 0.61%  | 動物島へ行こう        | 2 | 0.15%  | コンコンクシャンのうた    | 1 | 0.08%  | みんな色の世界           | 1  | 0.08%  |
| ともだちはいいもんだ       | 8  | 0.61%  | とおすみとんぼ        | 2 | 0.15%  | さくら            | 1 | 0.08%  | みんなでたんじょうび        | 1  | 0.08%  |
| おぼけなんてないさ        | 7  | 0.54%  | となりのトトロ        | 2 | 0.15%  | さくらさくら         | 1 | 0.08%  | みんなみんなともだち        | 1  | 0.08%  |
| 誕生日のうた           | 7  | 0.54%  | 夏の樹            | 2 | 0.15%  | さよならあんころもち     | 1 | 0.08%  | 虫歯建設株式会社          | 1  | 0.08%  |
| 小さな世界            | 7  | 0.54%  | はじめの一步         | 2 | 0.15%  | サタが街にやってくる     | 1 | 0.08%  | メロンにきいてもわからない     | 1  | 0.08%  |
| きまのこえ            | 6  | 0.46%  | バスごっこ          | 2 | 0.15%  | ジグザグお散歩        | 1 | 0.08%  | もしも季節がいちどきたら      | 1  | 0.08%  |
| キャンプだホイ          | 6  | 0.46%  | はたけのボルカ        | 2 | 0.15%  | 静かなクリスマス       | 1 | 0.08%  | 森はいきている           | 1  | 0.08%  |
| 給食のうた            | 6  | 0.46%  | ハッピーバスデー       | 2 | 0.15%  | 渋柿とカラス         | 1 | 0.08%  | リンゴの森の子猫たち        | 1  | 0.08%  |
| ドレミのうた           | 6  | 0.46%  | パンダのうた         | 2 | 0.15%  | しままぐるぐる        | 1 | 0.08%  | ゆきのペンキやさん         | 1  | 0.08%  |
| ね                | 6  | 0.46%  | ふるさと           | 2 | 0.15%  | しゃべんだま         | 1 | 0.08%  | ゆるしてママ            | 1  | 0.08%  |
| まっかな秋            | 6  | 0.46%  | ぼっぼのおうち        | 2 | 0.15%  | じゃんけんれっしや      | 1 | 0.08%  | 季節のうた             | 29 | 2.22%  |
| ゆうやけこやけ          | 6  | 0.46%  | まめまき           | 2 | 0.15%  | ジャンプ           | 1 | 0.08%  | 園歌                | 18 | 1.38%  |
| 赤鼻のトナカイ          | 5  | 0.38%  | まっかな秋          | 2 | 0.15%  | 十二支のうた         | 1 | 0.08%  | 讚美歌               | 6  | 0.46%  |
| ドロップスのうた         | 5  | 0.38%  | 虫のこえ           | 2 | 0.15%  | すいゆのめいさんち      | 1 | 0.08%  | 聖歌                | 5  | 0.38%  |
| ヤッホッホ！夏休み        | 5  | 0.38%  | むすんでひらいて       | 2 | 0.15%  | ずいずいずっころばし     | 1 | 0.08%  | 卒園のうた             | 3  | 0.23%  |
| ヤンチャリカ           | 5  | 0.38%  | もちつき           | 2 | 0.15%  | すうじのうた         | 1 | 0.08%  | お祈りのうた            | 2  | 0.15%  |
| Let's go いいことあるさ | 4  | 0.31%  | やまのおんがく        | 2 | 0.15%  | すばらしいことば       | 1 | 0.08%  | オリジナル曲            | 2  | 0.15%  |
| おもちやのチャチャチャ      | 4  | 0.31%  | よいこのあいさつ       | 2 | 0.15%  | スマイル           | 1 | 0.08%  | 行事の歌              | 2  | 0.15%  |
| こいのぼり            | 4  | 0.31%  | よがあげた          | 2 | 0.15%  | スマイルアゲイン       | 1 | 0.08%  | 朝の会のうた            | 1  | 0.08%  |
| こどものせかい          | 4  | 0.31%  | ロックンロール        | 2 | 0.15%  | 世界にひとつだけの花     | 1 | 0.08%  | 朝や帰りの歌            | 1  | 0.08%  |
| きよなるのうた          | 4  | 0.31%  | 森はいきている        | 1 | 0.08%  | せんにくとともだち      | 1 | 0.08%  | おおきい木の曲集のうた       | 1  | 0.08%  |
| せんろはつづくよどこまでも    | 4  | 0.31%  | 1,2,3のごあいさつ    | 1 | 0.08%  | そらでえんそくしてみたい   | 1 | 0.08%  | お星のうた             | 1  | 0.08%  |
| たいせつなともだち        | 4  | 0.31%  | Tomorrow       | 1 | 0.08%  | そらにらぐがきかきたくない  | 1 | 0.08%  | こども讚美歌            | 1  | 0.08%  |
| 誕生会のうた           | 4  | 0.31%  | あおげば尊し         | 1 | 0.08%  | そんな街を          | 1 | 0.08%  | 食前のお祈り            | 1  | 0.08%  |
| ドレミのまほう          | 4  | 0.31%  | 赤い花白い花         | 1 | 0.08%  | そんな街を          | 1 | 0.08%  | 新訳としひこさんのシリーズ     | 1  | 0.08%  |
| ピクニック            | 4  | 0.31%  | あかおにとおおおにのタンゴ  | 1 | 0.08%  | すばるなたからもの      | 1 | 0.08%  | 生活のうた             | 1  | 0.08%  |
| ぼくらはみらいのたんけんたい   | 4  | 0.31%  | まっかな秋          | 1 | 0.08%  | 旅立ちの日に         | 1 | 0.08%  | 卒園の曲              | 1  | 0.08%  |
| よきもグーチャーパー       | 4  | 0.31%  | 秋の空            | 1 | 0.08%  | やさしさの玉手箱       | 1 | 0.08%  | ディズニー、ジブリ、アニメの歌   | 1  | 0.08%  |
| ゆき               | 4  | 0.31%  | アニメ、ドラマの主題歌    | 1 | 0.08%  | だれかが星をみている     | 1 | 0.08%  | 昼食時の曲             | 1  | 0.08%  |
| あさやけ夕やけ          | 3  | 0.23%  | アニメソング         | 1 | 0.08%  | 小さいおてて         | 1 | 0.08%  | 昼食のうた             | 1  | 0.08%  |
| うれしひなまつり         | 3  | 0.23%  | あの青い空のように      | 1 | 0.08%  | 小さなハンズ         | 1 | 0.08%  | 童謡                | 1  | 0.08%  |
| 風はともだち           | 3  | 0.23%  | ありがとうこころをこめて   | 1 | 0.08%  | チーチョチャチャはおまじない | 1 | 0.08%  | 日常的に歌うもの          | 1  | 0.08%  |
| 風よふけふけ           | 3  | 0.23%  | ありがとうさようなら     | 1 | 0.08%  | チンヌは何度もやってくる   | 1 | 0.08%  | 発表会               | 1  | 0.08%  |
| こころのねっこ          | 3  | 0.23%  | アルプス一万尺        | 1 | 0.08%  | ちゅうりつぷ         | 1 | 0.08%  | 仏教行事のうた           | 1  | 0.08%  |
| 世界がひとつになるまで      | 3  | 0.23%  | 一瞬の今を          | 1 | 0.08%  | つくしがでたよ        | 1 | 0.08%  | 仏教賛歌              | 1  | 0.08%  |
|                  |    |        | いもほりのうた        | 1 | 0.08%  | つばめになって        | 1 | 0.08%  | 幼児さんびか            | 1  | 0.08%  |
|                  |    |        | いろいろなどうぶつのはな   | 1 | 0.08%  | 天使のパンツ         | 1 | 0.08%  | 礼拝の歌              | 1  | 0.08%  |
|                  |    |        |                |   |        | どうぶつえんにいこうよ    | 1 | 0.08%  |                   |    |        |



3歳児では、曲名として232曲、件数は1,446件の回答があった。件数が最も多かったのが、アニメーション映画『となりのトトロ』のオープニングテーマ曲である《さんぼ》であった。1988年の上映から30年が経過しているが、現在での保育所(園)、幼稚園、認定こども園での歌唱の定番曲になっている。《ちゅうりっぷ》、《どんぐりころころ》、《おもちゃのチャチャチャ》、《こいのぼり》、《てをたたきましょう》、《ちょうちょう》、《とんぼのめがね》、《むすんでひらいて》などの、曲の長さが比較的短く、旋律が複雑ではなく単純で、3歳児の発達段階に即した曲が上位に順位付けられている。《おべんとう》や、《朝のうた》、《帰りのうた》、《おかえりのうた》などの挨拶や食事時に歌う歌も件数が多かった。

4歳児では、277曲、1,285件の回答が得られた。3歳児での結果と同様に、《さんぼ》が最も件数が多かった。上位に順位付けられた曲は、明らかに3歳児のそれよりも、曲が長く、また旋律やリズムが複雑になっていることが分かる。挨拶や食事の歌についても3歳児と同じく件数が多かった。《夢をかなえてドラえもん》や《勇気100%》などの、テレビアニメーション番組の主題歌もあげられた。

5歳児では、295曲、1,306件の回答があった。最も件数が多かったのが《にじ》であった。《にじ》は4歳児でも《さんぼ》に次いで多かった曲である。《にじ》は新沢としひこ(1963～)作詞、中川ひろたか(1954～)作曲の曲である。新沢、中川は両者とも保育者の経験がありシンガーソングライターや、絵本作家等として子どもたちに向けた活動をしている。子どもたち向けの曲を多数作詞、作曲しており、現代の保育・教育現場において数多くの歌が歌われている。《にじ》に次いで件数が多かった《世界中のこどもたちが》は小学校の音楽の教科書にも採用されている。《ともだちになるために》や《はじめの一步》、《さよならぼくたちのようちえん(ほいくえん)》、《パレード》など、今回の調査でも、多くの曲が回答された。また5歳児の結果では、《カレンダーマーチ》や《思い出のアルバム》、《ビリーブ(Believe)》、《ありがとうの花》などの卒園に向けた歌や、《ドキドキドン!1年生》、《1年生になったら》など小学校入学に向けて歌われる歌も数多くあげられた。《にじのむこうに》や《ありがとうの花》など、NHK教育テレビ(NHK Eテレ)で放送されている教育・音楽番組である「おかあさんといっしょ」から生まれた名曲も上位に順位付けられた。

3～5歳児全ての回答を合わせると、曲名が458曲、件数は4,037件の回答が得られた。《さんぼ》が最上位で、《にじ》が2番目に件数が多かった。「おかあさんといっしょ」や「みんなのうた」、「いないいないばあっ!」などのテレビ番組の音楽を担当し、数多くの子どもの歌を作曲した福田和禾子(1941～2008)の作品である《カレンダーマーチ》が3番目に多い結果となった。昔から歌い継がれている子どもの歌や童謡、唱歌や、福田和禾子の作品、新沢としひこ、中川ひろたかが作詞・作曲した作品、また《あめふりくまのこ》や《バスごっこ》、《おはながわらった》などの曲の作曲家で、合唱曲や、子ども向けのピアノ曲集が広く知られている湯山昭(1932～)の

子どもの歌の作品も多くあげられた。《おべんとう》や《給食のうた》（《おべんとう》の歌詞の「おべんと」の部分を「きゅうしょく」に替えた歌）、また《朝のうた》、《おかえりのうた》、《帰りのうた》、《おはようのうた》、《誕生日のうた》などの、園生活や行事に関わる歌も多く集めた。調査結果の全体を通して見ると、数多くの曲名があげられ、それぞれの施設によって、また年齢によって保育、教育の中で多くの異なった歌が歌われていること、また歌われる歌は概して園生活や行事、季節に合わせた歌も多く歌われていることが分かった。

#### 質問5 保育所(園)、幼稚園、こども園で活用している、歌の楽譜、本、曲集をお答えください。

質問5では、保育所(園)、幼稚園、認定こども園で活用されている歌の楽譜、曲集について調査した。保育、教育の中で活用されている楽譜や曲集のタイトルと出版社を質問した。表25が調査の集計結果である。楽譜、曲集の名称については、質問紙に記入されている通りに表記し、出版社については、回答が無いものについては「回答なし」と表記した。また、複数のシリーズが出版されており、どの曲集か特定できないものや、名称から楽譜、曲集や曲が特定できないものについては、表の最後に薄灰色で表記した。

上位の3つがチャイルド本社出版の『こどものうた』シリーズであった。『こどものうた100』が最も多く、22,59%を占めた。次いで『こどものうた200』が20,79%、さらに『続こどものうた200』が7,53%となった。この3冊のシリーズを合わせると、311件となり、全体の50,90%を占める比率となる。この『こどものうた』シリーズのどの曲集か特定できなかったものも16件(2,62%)あり、今回の調査では回答を得たうちの半数以上の非常に高い割合で、『こどものうた』シリーズが保育、教育の現場で活用されている、という結果になった。

『こどものうた12ヶ月』（ひかりのくに）や、『どれみファンタジーランド』（エー・ティー・エヌ）、『おおきい木』（ドレミ楽譜出版社）などの保育、教育現場で歌われることを前提とした子どもの歌、童謡の曲集、子ども向けに作曲された歌曲集が上位に順位付けられた。またキリスト教や仏教の保育所(園)、幼稚園で歌われる曲集や、大学や専門学校が独自に作成した曲集も見受けられた。

表 25 活用している歌の楽譜、曲集

| 曲集の名称                           | 出版社             | 件数  | 比率 (%) | 曲集の名称                        | 出版社          | 件数 | 比率 (%) |
|---------------------------------|-----------------|-----|--------|------------------------------|--------------|----|--------|
| こどものうた100                       | チャイルド本社         | 138 | 22.59% | こどものうた I                     | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| こどものうた200                       | チャイルド本社         | 127 | 20.79% | こどものうた II                    | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 続こどものうた200                      | チャイルド本社         | 46  | 7.53%  | こどものうた III                   | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| こどもさんびか                         | 日本キリスト教団出版局     | 11  | 1.80%  | こどものうた大集合                    | リットーミュージック   | 1  | 0.16%  |
| こどものうた12ヶ月                      | ひかりのくに          | 11  | 1.80%  | 子どものうた大集合210曲                | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| どれみファンタジーランド                    | エー・ティー・エヌ       | 11  | 1.80%  | こどものうた大百科                    | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| おおきい木                           | ドレミ楽譜出版社        | 10  | 1.64%  | こどもの歌とピアノ曲集                  | ドレミ楽譜出版社     | 1  | 0.16%  |
| NHKみんなのうた                       | NHK出版           | 9   | 1.47%  | こどものうたピアノ伴奏集                 | 京都音楽センター     | 1  | 0.16%  |
| 保育のうた155                        | ひかりのくに          | 8   | 1.31%  | こどもの歌名曲アルバム                  | ドレミ楽譜出版社     | 1  | 0.16%  |
| やさしく弾けるピアノ伴奏のうた12ヶ月             | 新星出版社           | 8   | 1.31%  | こどもの歌曲200選                   | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| ピアノ伴奏こどものうた131                  | 成美堂出版           | 7   | 1.15%  | こどものポップス大集合                  | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 幼児のうたとあそび                       | 名古屋文化学園幼児音楽研究所  | 7   | 1.15%  | さくらさくららぼリズム体操                | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| さくらさくららぼリズムとうた                  | 群羊社             | 6   | 0.98%  | 実践子どものうた簡単に弾ける144選           | 教育芸術社        | 1  | 0.16%  |
| 保育のピアノ伴奏                        | 日本文芸社           | 6   | 0.98%  | 実用こどものうた大全集                  | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 誰でもスグ弾ける保育のうた・こどものうた120         | シンコーミュージック      | 5   | 0.82%  | ジブリ                          | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 幼児さんびか                          | キリスト教教育連盟       | 5   | 0.82%  | リズム表現曲集 I                    | 音楽教育の会常任委員会編 | 1  | 0.16%  |
| NEWうたってひこう                      | 音楽之友社           | 4   | 0.65%  | ソング・ソング                      | スズキ出版        | 1  | 0.16%  |
| こどものうた伴奏大全集                     | 自由現代社           | 4   | 0.65%  | 新沢としひこ&中川ひろたかソング             | ドレミ楽譜出版社     | 1  | 0.16%  |
| たのしいこどものうた大全集202                | 永岡書店            | 4   | 0.65%  | 新沢としひこのあそびうた大好き              | 鈴木出版         | 1  | 0.16%  |
| 初めてでも弾ける保育ソング101                | 世界文化社           | 4   | 0.65%  | 新幼児の音楽教育                     | 朝日出版社        | 1  | 0.16%  |
| 保育のカンタンピアノ伴奏130曲                | ひかりのくに          | 4   | 0.65%  | 新子どものうた大全集                   | デプロ          | 1  | 0.16%  |
| 保育のピアノ伴奏～子どもの大好きなうた150曲～        | 日本文芸社           | 4   | 0.65%  | 精選日本の歌120選                   | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 幼児とともに                          | 聖徳大学出版部         | 4   | 0.65%  | 卒園ソングベスト31                   | ナツメ社         | 1  | 0.16%  |
| かがやく歌                           | 音楽教育の会編 子どもの未来社 | 3   | 0.49%  | 卒園のための感動ソング                  | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| うたってひこう                         | 音楽之友社           | 3   | 0.49%  | ソングブック (新沢としひこシリーズ)          | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| せんせいピアノひいて                      | 京都音楽センター        | 3   | 0.49%  | 大好き！こどもの定番ソング&777            | シンコーミュージック   | 1  | 0.16%  |
| こどものうた                          | ひかりのくに          | 3   | 0.49%  | だれでも弾ける子どものうた                | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| こどものうた154                       | ひかりのくに          | 3   | 0.49%  | ピアノに強くなる曲集                   | ひかりのくに       | 1  | 0.16%  |
| おかあさんといっしょ                      | NHK出版           | 3   | 0.49%  | 童謡100曲選                      | 春秋社          | 1  | 0.16%  |
| 幼児の音楽教育                         | 音楽教育研究協会        | 3   | 0.49%  | 童謡カレンダー                      | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 絵本ソングブック シリーズ                   | クレヨンハウス         | 2   | 0.33%  | トラヤ帽子店のもの                    | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| うたってつくってあそぼう                    | 音楽之友社           | 2   | 0.33%  | とんぼ、ピーマンのカレンダーマーチ            | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| ポケットいっぱいのおうた                    | 教育芸術社           | 2   | 0.33%  | 日本のうた                        | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 子どものうた大全集                       | kmp             | 2   | 0.33%  | 人気曲ベスト200                    | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| こどものうたピアノ伴奏集ベスト100              | 民衆社             | 2   | 0.33%  | 年齢別こどものうた12ヶ月                | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| こどもの歌ベストテン                      | ドレミ楽譜出版社        | 2   | 0.33%  | ピアノ伴奏                        | ナツメ社         | 1  | 0.16%  |
| これなら弾ける！保育のうたピアノ伴奏160           | ナツメ社            | 2   | 0.33%  | リズム表現曲集1                     | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 楽しい歌とあそび                        | 音楽之友社           | 2   | 0.33%  | 保育ソング                        | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 母とおさなごの歌                        | 全音楽譜出版社         | 2   | 0.33%  | 保育の四季歌のカレンダー                 | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| ピアノに強くなる曲集                      | チャイルド社          | 2   | 0.33%  | 保育のために「こどものうた140選」           | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 保育の歌12ヶ月                        | 世界文化社           | 2   | 0.33%  | 保育名歌200選                     | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 保育のピアノ伴奏12ヶ月                    | 西東社             | 2   | 0.33%  | トラヤ帽子店SONGBOOK               | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| やさしく弾ける保育のピアノ伴奏                 | 新星出版社           | 2   | 0.33%  | ほっこりほろりこどものいい曲あつめました         | KMP          | 1  | 0.16%  |
| 幼児の四季 (春夏の歌/秋冬の歌)               | 回答なし            | 2   | 0.33%  | まっちゃんをつながりあそびうたシリーズ          | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 天野式幼児リトミック                      | チャイルド社          | 1   | 0.16%  | 丸山亜季歌集シリーズ                   | 一ツ橋書房刊       | 1  | 0.16%  |
| 忙しい保育士のための楽譜集                   | 回答なし            | 1   | 0.16%  | みんなだいすき子どものうた                | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| いちばんやさしいピアノ伴奏こどものうた131          | 回答なし            | 1   | 0.16%  | 名歌曲200選                      | 東京音楽書院       | 1  | 0.16%  |
| 歌と遊び                            | チャイルド本社         | 1   | 0.16%  | やさしい弾き歌い75                   | 音楽之友社        | 1  | 0.16%  |
| うたのリズム館                         | 回答なし            | 1   | 0.16%  | やさしくひける幼児のうた                 | チャイルド本社      | 1  | 0.16%  |
| トント歌の本「あおぞらをすいこんで」              | 中央アート出版         | 1   | 0.16%  | ゆずりん歌のひろば                    | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 大阪市立幼稚園歌曲集                      | -               | 1   | 0.16%  | 幼児歌曲集                        | 回答なし         | 1  | 0.16%  |
| 音楽広場特別編集                        | クレヨンハウス         | 1   | 0.16%  | 幼児教育法シリーズ音楽リズム               | 東京書籍         | 1  | 0.16%  |
| ポケットいっぱいメロディー                   | 権歌書房            | 1   | 0.16%  | 幼児のうた100選                    | 全国社会福祉協議会    | 1  | 0.16%  |
| 学生のためのこどものうた50曲集                | 回答なし            | 1   | 0.16%  | 幼児の歌12ヶ月180曲選                | エー・ティー・エヌ    | 1  | 0.16%  |
| 学生のためのこどものうた51曲集                | 回答なし            | 1   | 0.16%  | 幼児のうた130選                    | 全国社会福祉協議会    | 1  | 0.16%  |
| あたらしいこどものうた                     | ドレミ楽譜出版社        | 1   | 0.16%  | 幼児のための音楽教育                   | 教育芸術社        | 1  | 0.16%  |
| こどものうた                          | ドレミ楽譜出版社        | 1   | 0.16%  | 幼児の歌12ヶ月                     | エー・ティー・エヌ    | 1  | 0.16%  |
| こどものうた                          | ドレミ楽譜出版社        | 1   | 0.16%  | 幼児保育のための楽しい歌とあそび             | 音楽之友社        | 1  | 0.16%  |
| リズム楽曲集                          | 回答なし            | 1   | 0.16%  | 幼稚園歌曲集 II                    | 大阪市立幼稚園教育研究会 | 1  | 0.16%  |
| ひかりのくに、フレーズ、チャイルド等の目録表に掲載している楽譜 | 1               | 1   | 0.16%  | ラク弾き！保育ピアノ伴奏集                | 自由現代社        | 1  | 0.16%  |
| せんせいといっしょにうたおう                  | 京都音楽センター        | 1   | 0.16%  | リトミック百科                      | ひかりのくに       | 1  | 0.16%  |
| こどものうた100曲集                     | DEPROMP         | 1   | 0.16%  | こどものうた (100、200などの区別がなかったもの) | チャイルド社       | 16 | 2.62%  |
| クレーン音楽広場                        | 回答なし            | 1   | 0.16%  | 讃美歌集                         | 回答なし         | 4  | 0.65%  |
| 月刊～音楽広場～                        | クレヨンハウス         | 1   | 0.16%  | 新沢としひこさんの曲集                  | 回答なし         | 4  | 0.65%  |
| 現代こどもの歌1000曲シリーズ                | エー・ティー・エヌ       | 1   | 0.16%  | 園で受け継がれている楽譜                 | -            | 2  | 0.33%  |
| 現代こどものうた名曲全集                    | 音楽之友社           | 1   | 0.16%  | 学生のときに使用したもの                 | -            | 2  | 0.33%  |
| 心を育む子どものうた                      | 教育芸術社           | 1   | 0.16%  | 小宮路敏作曲の楽譜                    | -            | 2  | 0.33%  |
| 子どもの歌140選                       | ドレミ楽譜出版社        | 1   | 0.16%  | ブリブリなどの雑話の曲                  | -            | 1  | 0.16%  |
| こどものうた280選                      | ドレミ楽譜出版社        | 1   | 0.16%  | 流行のうた                        | ぷりんと楽譜       | 1  | 0.16%  |
| こどものうた300選                      | ドレミ楽譜出版社        | 1   | 0.16%  |                              |              |    |        |

計 611

質問6 あなたが勤務している保育所(園)、幼稚園、こども園で、採用試験に音楽やピアノに関する試験を行っている場合、試験課題の内容を、支障のない範囲でお答えください。

質問6では、現在勤務している保育所(園)、幼稚園、認定こども園の採用試験のうち、音楽やピアノに関する試験の内容を質問した。調査対象の571人のうち、265人から回答を得られた。回答率は46,40%である。「回答がない」ものと、「実施自体をしていない」もの、「実施はしているが内容は分からない」ものなど、回答がなかった数が試験を実施していない数と一致していないため、この数値が、音楽やピアノに関する試験を実施している園の正確な割合とは言えないが、今回の調査の範囲では、約半数の園では音楽やピアノに関する試験を実施している、ということが分かった。

265件の回答のうち、試験課題が2種類以上のものが102件、1種類のものが163件であった。試験課題が2種類以上のものを表26-A、1種類のものを表26-Bに示す。

表 26-A 試験課題(2種類以上)

| 試験課題 1       | 試験課題 2        | 件数    |
|--------------|---------------|-------|
| 初見           | 自由曲           | 24    |
| 課題曲          | 自由曲           | 10    |
| 課題曲          | 初見            | 4     |
| 園歌           | 自由曲           | 3     |
| おべんとうのうた     | 自由曲           | 3     |
| 自由曲          | マーチ           | 3     |
| 自由曲          | 初見(弾き歌い)      | 3     |
| バイエル         | 自由曲           | 3     |
| 課題曲          | 讃美歌           | 2     |
| 課題曲(弾き歌い)    | 自由曲           | 2     |
| 課題(初見)       | 自由曲           | 2     |
| 自由曲(弾き歌い)    | 初見            | 2     |
| 初見           | 弾き歌い、自由曲      | 2     |
| 新曲視唱         | 自由曲           | 2     |
| 童謡           | 自由曲           | 2     |
| 弾き歌い         | 初見            | 2     |
| 課題曲          | どんぐりころころ      | 1     |
| 課題曲(弾き歌い)    | 初見 弾き歌い       | 1     |
| 課題曲(ブルグミュラー) | 行進曲、初見        | 1     |
| 課題曲(初見弾き歌い)  | 自由曲           | 1     |
| 課題(初見、聖歌)    | 自由曲           | 1     |
| 課題曲(初見)      | 自由曲           | 1     |
| 季節の歌の弾き歌い    | クラシック         | 1     |
| 季節の歌の弾き歌い    | マーチ           | 1     |
| こどもさんびかの弾き歌い | リトミック         | 1     |
| さんびか伴奏       | 自由曲           | 1     |
| 課題曲          | 視唱            | 1     |
| 自由曲          | バイエル          | 1     |
| 自由曲          | 初見、ソルフェージュ、聴音 | 1     |
| 自由曲          | 弾き歌い          | 1     |
| 自由曲          | 聖歌            | 1     |
| 自由曲、初見       | 簡単な弾き歌い       | 1     |
| 自由曲(ピアノソロ)   | 童謡            | 1     |
| 自由曲(弾き歌い)    | マーチ           | 1     |
| 自由曲3曲        | 園歌            | 1     |
| 自由曲弾き歌い      | 初見(弾き歌い)      | 1     |
| 初見           | 弾き歌い          | 1     |
| 初見           | 自由曲、リズム書き取り   | 1     |
| 初見 3曲から1曲選択  | 自由曲           | 1     |
| ソナチネ程度の自由曲   | 童謡の初見         | 1     |
| 童謡の弾き歌い      | 初見            | 1     |
| 童謡の初見        | 自由曲           | 1     |
| 童謡の初見        | 自由曲、リズムの聴き分け  | 1     |
| ピアノ曲         | 初見、弾き歌い       | 1     |
| ピアノ曲(自由曲)    | 弾き歌い(自由曲)     | 1     |
| 弾き歌い         | 和音調音          | 1     |
| 弾き歌い         | 自由曲           | 1     |
| 弾き歌い2曲       | 初見1曲          | 1     |
| 弾き歌い         | 独奏(自由曲)       | 1     |
|              |               | 計 102 |

表 26-B 試験課題(1種類)

| 試験課題           | 件数 |       |
|----------------|----|-------|
| 自由曲            | 55 |       |
| 課題曲            | 20 |       |
| 初見             | 13 |       |
| 弾き歌い           | 12 |       |
| 自由曲(弾き歌い)      | 10 |       |
| 課題曲 弾き歌い       | 8  |       |
| 初見 弾き歌い        | 4  |       |
| 初見(童謡)         | 3  |       |
| バイエル           | 3  |       |
| 自由曲2曲          | 2  |       |
| 弾き歌い2曲         | 2  |       |
| 園歌             | 1  |       |
| 任意のこどものうたの弾き歌い | 1  |       |
| おべんとうのうた       | 1  |       |
| 課題曲 童謡         | 1  |       |
| 課題曲(選択)        | 1  |       |
| 課題曲2曲          | 1  |       |
| 季節の歌           | 1  |       |
| 子ども達の前で2曲弾く    | 1  |       |
| 讃美歌            | 1  |       |
| 自由曲(ピアノ)       | 1  |       |
| 自由曲1曲          | 1  |       |
| 自由曲3曲          | 1  |       |
| 初見 3曲から1曲選択    | 1  |       |
| 初見ピアノ          | 1  |       |
| 年齢に合わせた子どもの歌   | 1  |       |
| バイエル100番       | 1  |       |
| ピアノ実技          | 1  |       |
| 弾き歌い 2,3曲      | 1  |       |
| 本園のお帰りのうた      | 1  |       |
| なし             | 12 |       |
|                |    | 計 163 |

採用試験のうち、課題の内容として最も多くあがったものが「自由曲」であった。ついで「課題曲」や「初見」もあげられた。「課題曲」については、そのほとんどが子どもの歌や童謡である。また、この場合の「初見」とは、音楽大学の授業や試験等で行われるようなピアノ演奏の上での「初見」視奏のような「初見」ではなく、その大半が子どもの歌、童謡を試験当日に楽譜が渡され視奏、もしくは弾き歌いする、という課題であると考えられる。平成25年度(2013年度)のS女子大学の幼稚園の採用試験を受けた学生への事後調査では、ピアノ実技試験の課題の内容の記述のうち、課題の内容に「初見」の表記があったものがのべ10件あり、そのうち初見の内容の詳細について記述があったものが7件、内容は不明のものが3件であった。詳細の記述があ



った7件のうち、5件が子どもの歌や童謡の弾き歌いであり、残り2件のうち1件は「讃美歌の伴奏」、もう1件は「歌なしのピアノのみの初見演奏」であった。<sup>38</sup> 参考までに内容を表27に示す。このことから、保育所(園)や幼稚園の採用試験でのピアノ実技内容の「初見」は、大半が子どもの歌や童謡の弾き歌い、または伴奏を当日指定で演奏する試験である、と考えられる。

採用試験の内容は、各保育所(園)、幼稚園、認定こども園によって様々な課題が提示された。「自由曲」が最も多かったことから、採用試験受験者へのある程度の幅の広い選択肢が用意されていることが分かった。同時に、「弾き歌い」や「課題曲」、「初見」という語句も多く散見されることから、受験者のピアノの演奏技能を確認すると同時に、弾き歌いをする事、歌唱の技能、また読譜の能力や、その場で与えられた課題への対応力など、総合的な能力を審査されていることが分かった。

表 27 幼稚園の採用試験のピアノ実技課題

| 採用試験のピアノ実技課題 (平成25年度 幼稚園 採用試験)  |
|---|
| <p><b>課題の内容</b></p> <p>自由曲(弾き歌いでも、クラシックの曲のどちらでも可)<br/>           自由曲1曲 ピアノ歴、選曲について、子どもに向けてどのように歌いたいかの質問<br/>           自由曲、初見 初見は賛美歌 ピアノ歴、選曲についての質問<br/>           自由曲<br/>           初見、(ふしぎなポケット、15分練習あり)、自由曲<br/>           自由曲、弾き歌い、初見<br/>           初見(どんぐりころころ、とんぼのめがね2曲から1曲選ぶ、練習あり)<br/>           初見2曲(1曲は歌なし、5曲から1曲選ぶ、もう1曲は弾き歌いで歌集から1曲)<br/>           練習時間あり<br/>           課題曲(「こどものうた100」から自分で選び1曲を弾き歌い)<br/>           課題曲(「こどものうた100」から自分で選び1曲を弾き歌い)、選曲理由、ピアノ歴に関する質問あり<br/>           初見演奏1曲、自由曲1曲<br/>           課題曲(10曲の中から3曲を選び弾き歌い)、初見1曲<br/>           自由曲1曲、課題曲1曲(どんぐりころころ)<br/>           初見演奏(5曲から1曲選ぶ、5分練習あり)<br/>           自由曲1曲、初見(こどものうた)3曲</p> |

(<sup>17</sup> 四家(2016)「保育者、小学校教員養成課程における効果的なピアノ指導について-技術的な視点から-」平成28年度全国大学音楽教育学会東北地区学会研究発表 発表資料より)

<sup>38</sup> 四家昌博(2016)「保育者、小学校教員養成課程における効果的なピアノ指導について-技術的な視点から-」平成28年度全国大学音楽教育学会東北地区学会研究発表

質問7 保育士、幼稚園教諭の養成校に望む、養成校で学んでいる間に身に付けてほしいと思うピアノや音楽に関する技能をご記入ください。

質問7では、保育士、幼稚園教諭の養成校に望む、養成校で学んでいる間に身に付けてほしいと思うピアノや音楽に関する技能について質問した。総回答数571のうち、450人の回答者から、複数回答も含め588件の回答があった。同様の回答を回答数の多い順に並べまとめたものが表28である。

今回の調査では、保育、教育の現場で働く保育者が考える、養成校で学んでいる間に身に付けてほしいと思うピアノや音楽に関する技能で最も上位に位置づけられたのが「弾き歌い」であった。全体の回答のうち、38.27%の回答者が「弾き歌い」と回答している。「弾き歌い」の他の技能の比率は10%以下であることから、現場で「弾き歌い」が非常に重要視されていることが明らかになった。次いで回答が多い順に「コード奏法」、「読譜」、「楽しむ気持ち」、「右手メロディー」と続く。ピアノや音楽を「楽しむ気持ち」を養成校で学ぶ間に身に付けてほしい、という回答が39件(6.63%)と比較的多いことに注目したい。「子どもたちに楽しさを伝えるためには、まず保育者自身が楽しむこと」、「ピアノが苦手な場合は、上手に弾くことよりも、簡単でもいいので楽しそうに弾けると良い」といった回答が多く寄せられた。

表 28 養成校で身に付けてほしい技能

| 内容                          | 件数    | 比率 (%) |
|-----------------------------|-------|--------|
| 弾き歌い                        | 225   | 38.27% |
| コード奏法                       | 49    | 8.33%  |
| 読譜                          | 46    | 7.82%  |
| 楽しむ気持ち                      | 39    | 6.63%  |
| 右手メロディー                     | 34    | 5.78%  |
| 歌唱指導                        | 22    | 3.74%  |
| 鍵盤を見ず子どもを見ながら               | 20    | 3.40%  |
| 先歌い                         | 17    | 2.89%  |
| しっかりと歌う                     | 15    | 2.55%  |
| 間違えず正しく弾く                   | 14    | 2.38%  |
| 間違えても止まらない                  | 11    | 1.87%  |
| 合奏指導                        | 10    | 1.70%  |
| とにかく練習する                    | 10    | 1.70%  |
| 正しいリズム                      | 10    | 1.70%  |
| 子どもの歌に合わせて弾く                | 7     | 1.19%  |
| リズム遊び, リトミック                | 6     | 1.02%  |
| 発達や状況に合わせて弾く                | 6     | 1.02%  |
| ピアノの他の楽器での弾き歌い              | 6     | 1.02%  |
| 初見                          | 5     | 0.85%  |
| 簡単にアレンジする能力                 | 5     | 0.85%  |
| ハノンなどの基礎                    | 5     | 0.85%  |
| 手遊び                         | 4     | 0.68%  |
| 苦手意識を持たない                   | 4     | 0.68%  |
| バイエル程度                      | 3     | 0.51%  |
| わらべうた                       | 3     | 0.51%  |
| 曲想の表現                       | 3     | 0.51%  |
| 即興演奏                        | 2     | 0.34%  |
| ブルグミュラー程度                   | 1     | 0.17%  |
| 移調                          | 1     | 0.17%  |
| ソナチネ程度                      | 1     | 0.17%  |
| 練習の仕方                       | 1     | 0.17%  |
| マーチの曲                       | 1     | 0.17%  |
| 歌、楽譜、リズム遊びなど様々な音楽環境が提供できる技能 | 1     | 0.17%  |
| 前奏がない曲に前奏をつける               | 1     | 0.17%  |
|                             | 計 588 |        |

質問 8 保育実習生や幼稚園教育実習生を指導して、実習生に不足していると感じるピアノや音楽の技能があれば、点(・)を○で囲みお答えください。複数回答可。他にあれば、その他の欄にご記入ください。

質問 8 は、保育実習生や幼稚園教育実習生を指導して、実習生に不足していると感じるピアノや音楽の技能について質問した。「歌を歌うこと」、「指導経験なし」、「ピアノを両手で演奏すること」、「ピアノを弾きながら歌を歌うこと」、「ピアノで子どもの歌の伴奏をすること」、「ピアノを使用して、子どもに歌の指導をすること」の 6 つから、不足していると感じるものを選択してもらった。また 6 つ以外に不足していると感じていることがある場合には、「その他」の欄に自由に記述してもらった。総回答数 571 のうち、回答なしが 99 件あり、回答を得た 472 件を集計したものが表 29 である。「その他」には 66 件の回答があった。66 件のうち、複数回答

があったものを表 30-A にまとめ、回答が 1 件のみであったものについて表 30-B に示す。

表 29 実習生に不足していると感じるピアノや音楽の技能

| 項目                     | 件数  | 比率 (%) |
|------------------------|-----|--------|
| 歌を歌うこと                 | 149 | 31.57% |
| 指導経験なし                 | 102 | 21.61% |
| ピアノを両手で演奏すること          | 113 | 23.94% |
| ピアノを弾きながら歌を歌うこと        | 213 | 45.13% |
| ピアノで子どもの歌の伴奏をすること      | 126 | 26.69% |
| ピアノを使用して、子どもに歌の指導をすること | 69  | 14.62% |

表 30-A その他(複数意見)

| 「その他」の回答                    | 件数 |
|-----------------------------|----|
| 実習の際、ピアノや歌を実習で行う学生が少ない。     | 10 |
| 子どもと歌を楽しむこと                 | 7  |
| 実習生には弾かせていない。               | 6  |
| 実習の事前に渡された楽譜は実習までに練習しておくこと。 | 3  |
| たくさんの童謡に触れておくとよい。           | 3  |
| ピアノが弾けない人が増えている。            | 3  |
| 特に不足は感じない。                  | 2  |
| 右手でメロディーだけでも弾けるようになってきて欲しい。 | 2  |
| 間違えても次に進むように。               | 2  |
| 1件のみの意見                     | 28 |

表 30-B その他(1件のみ)

|  |
|--|
| 多くの実習生が積極性に欠け、子どもが歌ったり踊ったりしているのを見ているだけの人が多い。積極的に参加してほしい。     |
| ギターが弾けると子どもと音楽が楽しめる。ピアノが弾ける学生が少なくなり、就職してから熱心に練習している。         |
| 技能があるに越したことはないが、無理せず他の分野で得意なものを発揮できるとよい。                     |
| 子どもの前で恥ずかしがらずに歌うこと。  |
| 子どもを見て合わせて弾くこと。  |
| コード伴奏。   |
| 先歌いをすること。子どもたちの表情を見ること。                                      |
| 事前に楽譜を渡すと練習してきてくれる学生が多い。                                     |
| 実習時に、1、2曲は自信を持って弾ける曲を準備しておくとうい。                              |
| 実習生の音楽技能は、個人差が大きいと感じる。                                       |
| 実習中は自ら申し出る学生のみ弾かせた。  |
| 実習を行ううえで、自分が弾ける曲、歌いたい曲を複数提示できるとよい。                           |
| 失敗を恐れず、実習だからこそチャレンジしてほしい。                                    |
| 市販の楽譜にカタカナでドレミが書き込まれているものがあり驚いた。書き込まないと弾けない先生が多いのも残念。        |
| 知らない歌でも楽譜を見て歌えること。   |
| 体操や踊りなど恥ずかしい気持ちがあるかもしれないが、保育士の真似でもいいので一緒に楽新してほしい。子どもは良く見ている。 |
| 小さい頃から続けている人と、養成校に入ってから始めた人とは、差は明らかに違う。                      |
| できないこと、不得意なことに挑戦、練習する意欲がみられない。練習しようとする姿勢を身につけてほしい。           |
| 苦手でも、練習をしっかりと学生は努力が伝わる。子どもに教えたいと思う歌は頑張って練習してほしい。             |
| できないことを恥じずに今できる最高を子どもに届けるように。                                |
| 恥ずかしがらずに大きな声ではっきりと堂々と歌ってほしい。そのためには練習が必要。                     |
| ピアノが苦手でも設定に歌を入れてほしい。   |
| ピアノを用いての導入のしかた。  |
| 人前で弾くことの慣れ。  |
| 全くピアノを弾くことができないと困る。  |
| よく頑張っていると思う。   |
| 練習不足。  |
| 練習量の確保。  |

6つの質問項目に対する回答の中で、回答件数が最も多かったものが、「ピアノを弾きながら歌を歌うこと」であった。「弾き歌い」の技能については、質問2、質問3、質問7でも多くの回答があり、保育、教育活動の中の重要性を示している。今回の調査では、現場では「弾き歌い」ができることが求められているが、45.13%の保育者が、実習生にはその「弾き歌い」の能力が不足している、と感じていることが分かった。次いで回答件数が多かったのが31.57%の「歌を歌うこと」であった。ピアノだけでなく、歌うこと自体の重要性が示唆された。3番目に回答数が多い26.69%の回答があったのが「ピアノで子どもの歌を伴奏すること」であった。回答数が多い上位3つは、全てピアノ単独の活動ではなく、弾き歌いやピアノ伴奏に関わることであった。また、その他の記述の回答からは、「ピアノが弾ける学生が少なくなった」、「実習生に積極性が足りない」と感じている意見や、「練習が不足している」、苦手でも実習の設定保育等に取り入れる「チャレンジしてほしい」という意見もあげられた。

質問 9 現在のご自身のピアノや弾き歌いの能力について、A～D から 1 つ選び○で囲みお答えください。

質問 9 では、保育者自身に、現在の自分のピアノや弾き歌いの能力についての満足度を調査した。A～D の 4 択での回答とし、A は「満足している」、B は「やや満足している」、C は「やや不満である」、D は「不満である」とした。結果を表 31 に示す。

表 31 自身のピアノや弾き歌いの能力の満足度

| 選択肢  | 件数  | 比率 (%) |
|------|-----|--------|
| A    | 40  | 7.01%  |
| B    | 154 | 26.97% |
| C    | 229 | 40.11% |
| D    | 133 | 23.29% |
| 回答なし | 15  | 2.63%  |
|      | 571 |        |

C と D を合わせると、63.40%となり、今回調査した結果では 6 割以上の保育者が現状の自身のピアノや弾き歌いの能力に何らかの不満を感じていることが分かった。これまでの調査結果で、現場では、ピアノや弾き歌いの必要性や重要性が高いことが分かったが、保育者自身にとっては、現場に出てからもピアノや弾き歌いに関する研修や自己研鑽の必要があること、またピアノや弾き歌いに関するリカレント教育の必要性にもつながる結果となった。

質問 10 ピアノや音楽に関することで、保育者養成校に伝えたい事があれば、以下に自由にご記入ください。

質問 10 では、ピアノや音楽に関することで、保育者養成校に伝えたいことについて、記述式の質問を行った。571 人の回答数のうち、記述があったのは 146 人分で、複数回答を含めると回答の件数は 184 件であった。2 件以上の複数の同様の意見があったものと、1 件のみの意見を「その他」とし、表 32-A にまとめた。また 1 件のみの意見を表 32-B に示す。

表 32-A ピアノや音楽に関することで保育者養成校に伝えたいこと(複数意見)

| 記述の内容                        | 件数    |
|------------------------------|-------|
| 曲数を多く弾いて欲しい                  | 18    |
| ピアノや音楽を楽しんで欲しい               | 14    |
| 科目や時間を増やして欲しい                | 12    |
| ピアノが弾けなくても歌は歌うこと             | 11    |
| 多くの歌を知ること                    | 10    |
| あきらめず取り組むこと                  | 8     |
| コード奏法を身につけると良い               | 7     |
| 実習前に渡されたものは弾けるようにして欲しい       | 7     |
| オルガンやギターなど色々な楽器に取り組んでほしい     | 6     |
| 弾く時間を増やす                     | 6     |
| メロディーだけでも良いので弾けるように          | 6     |
| チャレンジする精神、自覚を持つ              | 5     |
| ピアノができないから諦めるという先入観を持たないで欲しい | 5     |
| 子どもの歌を聞き、合わせる                | 4     |
| 恥ずかしがらず楽しむこと                 | 4     |
| 働きながらも勉強を続けている               | 4     |
| 弾く機会を増やす                     | 3     |
| 弾けない人が年々増えている                | 3     |
| 「保育園だからピアノはいらない」と考えないで欲しい    | 3     |
| もっと練習しておけばよかったと思う            | 3     |
| 簡単にアレンジできるように                | 2     |
| 器楽合奏の指導法を学ばせて欲しい             | 2     |
| 先歌いができると良い                   | 2     |
| 実践で活用できるようにして欲しい             | 2     |
| 上手に弾くよりどう弾くかが大事              | 2     |
| 手遊び、リズム遊びの充実                 | 2     |
| その他                          | 33    |
|                              | 計 184 |

表 32-B ピアノや音楽に関することで保育者養成校に伝えたいこと(1件のみ)

|  |
|--|
| 「こんな歌を子どもたちと歌いたいな～」という気持ちがあると良い。   |
| 遊びやゲームで使える曲を学んで欲しい。  |
| 大きな声で歌うこと。   |
| 音楽は幼児教育に大変重要。幼児に楽しく伝えるために、教師は最低限の技術や指導法を学ぶ事が重要である。   |
| ピアノの技術があるに越したことはないが、子どもたちと楽しく歌いたい、という気持ちが大切。   |
| ピアノがなくてもやわらかな声で歌えるようになってくると良い。乳児の保育にはやわらかな歌声が欠かせないと思う。   |
| 子どもたちは身体で音楽を感じるので、ピアノや音楽の技術を習得することは、保育の現場で子どもたちの素敵な感性に触れることができる。   |
| 子どもに初めて教える歌の指導法を学んでおくと良い。  |
| 作曲者について、歌詞の意味など理解したうえで歌唱指導して欲しい。   |
| 授業の中で、合わせる経験をするためにペアになるなど、伴奏を行えるとよい。   |
| 上手に弾けなくても、子どもたちは保育士が指1本でも一生懸命弾いていけば、一緒に楽しんでくれる。学生のうちに人前で歌ったり弾いたりすることを楽しんでもらえたら、と思う。                        |
| 初心者でも少しずつ自信が持てる指導をお願いしたい。苦手だからと志す若者が減らないように。   |
| 力任せに鍵盤を押すのが上手いと思っている方が多いと思う。ペダルに頼らず、丁寧に弾ける人が少ないのが残念。   |
| 通信制や社会人養成校のピアノ指導の充実。学生数にあったピアノの確保。   |
| できれば自分自身もっとピアノがひけるようになりたい。   |
| どうしてもピアノが苦手なら、ギターやウクレレなど代わりになるものをしっかり身に付けると良い。その場合メロディーを正しい音程でうたえるように。保護者で気になる方は、ピアノやリズム、音程について注文をつける方もいる。 |
| 得意な曲をレパートリーにすると良い。   |
| 苦手意識を持つのではなく、自分のレベルに合った楽譜等を活用し、好きになる気持ちを育ててほしい。  |
| ピアノ以外の楽器の経験がある学生さんが、実習や現場などで活かせる可能性を知り、自信を持って音楽の楽しさを伝えられると良い。  |
| ピアノが得意な担任のクラスの子どもたちは、経験の回数も多くなり、歌が好きになるだけでなく、歌詞も早く覚え、歌う方も身につく、顔の表情も明るい。                                    |
| ピアノ等の技能ではなく、子どもに音楽や歌をどう感じ、どう伝えたいかが大切。  |
| ピアノにこだわらず音楽を楽しんでほしい。子どもたちに表現の豊かさをつたえられるようにしてほしい。   |
| ピアノの経験がないと、現場に出てから、他の仕事の合間に練習しなければならないので負担になることがある。  |
| ピアノや歌だけでなく、歌詞を楽しく伝えるための方法も学んでおくと良い。  |
| ピアノを上手に弾く職員をうらやましいと思うこともあるが、子どもと一緒に歌うことは大好きなのでピアノができなくても自分の声で子どもたちと歌うことを楽しんでいる。                            |
| ピアノを弾きこなせる事は大切だが、幼稚園教諭としてもっと大切な事もあると思う。その先生の個性、得意な事を見つけ自信を持てるように指導して欲しい。                                   |
| 弾きながら子どもに目を向けられるように。   |
| 日頃から親しめるような環境づくりや、小学校、それ以降の生活につながる保育を考えていけるとよい。  |
| 左手のコード伴奏を、単音でも良いので付けられるように。  |
| 保育所ではピアノを弾かなくて良い、苦手だからなるべく弾きたくないと言っている学生がいる。CD等にたよらず、生の声やピアノが子どもたちには大切だと思う。                                |
| 間違えても良いので止まらないこと。  |
| 難しい曲を弾くよりも、ペーパーサートやパネルシアターなど楽しくうたえるような工夫をして欲しい。  |
| 養成校により、方針や音楽のレベルがまったく違う。   |

保育者からの養成校への意見の中で最も多かったものが「多くの曲数を弾いてほしい」という意見であった。今回の調査の他の質問に対する回答と同様に、次いで多かった意見が「ピアノや音楽を楽しんでほしい」という意見であった。「科目や時間を増やしてほしい」という、養成校で学ぶ学生への意見ではなく、養成校のピアノや音楽に関する授業のカリキュラムに関する要望の意見もあった。また今回の調査はピアノや弾き歌いに関する質問を中心に行ったが、「ピアノが弾けなくても歌を歌うこと」、「多くの歌を知ること」、「オルガンやギターなどいろいろな楽器に親しむこと」などの意見に見られるような、「ピアノ」に限定した意見ではなく、保育、教育の活動の中でのピアノ演奏以外の音楽活動の可能性、重要性についても意見が示された。



### 第3節 小学校教員へのインタビュー調査から

2018年5月に、小学校に勤務する教員へピアノに関わるインタビュー調査を行った。保育所(園)や幼稚園、認定こども園とは異なり、小学校教育においては教科として「音楽科」があり、主なピアノの活用の場面については、音楽の授業が大部分を占めることが考えられ、またピアノ活用の内容や目的についても、そのほとんどが授業での指導目的のためと考えられる。小学校の授業での、必要とされる最低限度のピアノ演奏の能力について明らかにするために、小学校教員への調査は、詳細について双方向での意見交換ができるインタビュー調査の形式をとった。また、調査対象の教員は、勤務形態の違いと授業担当の有無についてそれぞれ異なった立場からの意見を収集するために、A「常勤の教諭で学級担任であり、音楽の授業を行わない」教員と、B「常勤の教諭で音楽専科である」教員、またC「非常勤講師で、音楽の授業のみ担当する」教員の3種3名の教員への調査とした。A、Bの教員へは同時に対面でインタビューを行い、Cの教員へは単独で電話でのインタビューを行った。

インタビューの内容は

---

---

#### ①対象者に関する質問

- ・音楽専科か、学級担任か
- ・教職経験年数
- ・年齢
- ・性別
- ・勤務地

#### ②授業におけるピアノ演奏について

- ・ピアノを使用する具体的な授業での場面や目的
- ・どんな演奏技能が必要か

#### ③授業以外におけるピアノ演奏について

- ・授業外でどんなときにピアノを演奏するか、その目的
- ・どんな演奏技能が必要か

#### ④教員養成課程に在籍していたときのピアノに関する授業について

- ・大学での学びで現在役立っていること
- ・学生のうちに身に付けておくべき技能

- ・養成校で教えてほしいこと
- ・最低限、どんな技能が必要だと考えるか

#### ⑤採用試験

- ・採用試験ではどんな実技試験内容であったか

について質問した。

以下質問に対する回答を示す。

#### ①対象者に関する質問

対象者 A (以下「A」と記す。)

|         |         |                       |
|---------|---------|-----------------------|
| 専科／学級担任 | 学級担任    | これまで 1～6 学年の全ての担任経験あり |
| 教職経験年数  | 12 年    |                       |
| 年齢      | 35 歳    |                       |
| 性別      | 女性      |                       |
| 勤務地     | 千葉県 F 市 |                       |
| 出身学科    | 児童心理学科  |                       |

対象者 B (以下「B」と記す。)

|         |           |           |              |
|---------|-----------|-----------|--------------|
| 専科／学級担任 | 音楽専科 常勤教諭 | 全学年の授業を担当 | 過去に学級担任の経験有り |
| 教職経験年数  | 12 年      |           |              |
| 年齢      | 39 歳      |           |              |
| 性別      | 男性        |           |              |
| 勤務地     | 東京都 S 区   |           |              |
| 出身学科    | 音楽学科      | 音楽教育専攻    |              |

対象者 C (以下「C」と記す。)

|         |            |                     |
|---------|------------|---------------------|
| 専科／学級担任 | 音楽専科 非常勤講師 | 通常学級と特別支援学級の両方の経験あり |
| 教職経験年数  | 15 年       |                     |
| 年齢      | 39 歳       |                     |
| 性別      | 女性         |                     |

勤務地 東京都 A 区, I 区, N 区, T 区  
出身学科 音楽学科 フルート専攻

## ②授業におけるピアノ演奏について

### ・ピアノを使用する具体的な授業での場面や目的

#### A

現在は 5 学年の学級担任をしている。現勤務校は音楽の授業は中、高学年を音楽専科の教員が担当しており、自分は音楽の授業を行っていない。合唱発表会などの音楽に関する行事の前に練習を行う際、音取りのためにピアノを弾く場合がある。専科の教員と協同で行い、例えば自分が高音部の旋律を弾き子どもたちと一緒に歌い、専科の教員は低音部の旋律を子どもたちと練習する、などの場面が主な場面である。

伴奏はピアノが弾ける児童が弾くことがほとんどであり、自分は弾かない。過去に 1, 2 年生の低学年の学級担任をしていた際には、音楽の授業を行っていた。低学年の場合は児童が難しい伴奏を弾くことはなく、自分が簡易版の伴奏を弾く場合があった。また伴奏が録音されている CD や、YAMAHA のミュージックデータプレーヤー「伴奏くん」を活用することもあった。鍵盤ハーモニカの伴奏でもピアノを使用した。

担任としての音楽の授業では、歌の伴奏や、鍵盤ハーモニカの伴奏の目的で使用した。低学年の音楽の授業では、音楽に合わせて体を動かしたり、リズムに合わせて遊びを行ったりもする。その際にもピアノを弾いた。

#### B

各学年の音楽の授業全てで使用している。歌唱や器楽の子どもたちの歌の伴奏や、歌や器楽の指導の際の音取り、また「立つ」「座る」などの合図としてもピアノを使用する。楽器の準備の際に BGM としてピアノを弾いたり、授業の最後の楽器や音楽室の片付けの際に学習した曲を BGM で弾いたりする。片付けをしながら、旋律を階名や歌詞で歌う子どももいる。

鑑賞の授業のときには、鑑賞する曲の一部を歌ったり、旋律を聴いたりする際にピアノを使用する。音楽作りの授業では、リズムだけの音楽づくりの際にはピアノは使用しないが、メロディーづくり、コードを使った音楽づくりのときにはピアノを使用する。子どもが作った音楽を自分がピアノで弾いたり、子どもが作った旋律に、伴奏をつけて弾いたりなど、作った音楽を児童たちと共有する目的で弾く場合もある。

## C

現在の勤務校は全て特別支援学級であり、1～6 学年全ての授業を行っている。授業のほぼ全てでピアノを使用する。歌唱や器楽の指導や、伴奏を行う。また、起立や着席の合図として弾いたり、次の活動の促進のために BGM を弾いたりする。歌唱の活動では、右手でメロディーを弾きながら歌う。メロディーを覚え、音程のガイドとしてピアノを使用する。器楽では、鍵盤ハーモニカの学習でピアノを使用する。一人一人発達段階の異なる児童たちに、ドリルのような練習帳で個別にそれぞれ異なる課題を与え、仕上げのときにピアノで伴奏する。簡単なメロディーでも、子どもは達成感を感じ喜んでくれる。また、リトミックの活動でもピアノを使用する。鑑賞の活動の際には、その曲の特徴的な部分をピアノで弾く、音楽づくは、音程のないボイスパーカッションや、リズムアンサンブルがほとんどで、ピアノは使用しない。

### ・どんな演奏技能が必要か

## A

旋律を右手で演奏する技術が必要である。同時に歌を歌えるとなお良い。また、簡易伴奏が弾けると良い。CD や伴奏くん等も活用するが、ピアノの場合、ゆっくりから速く、など速度を変えて弾いたり、高い音域、低い音域など高低の差をつけて弾いたりすることを、即時に変化させることができるのが良いところだと思う。活用の場面を限定すれば CD や伴奏くんも便利だが、一部を繰り返して練習したり、子どもたちが気に入った曲をもう一度歌ったりなどするときには、CD 等では間延びしてしまうことがあり、授業のスムーズな進行が妨げられることがある。

## B

右手でメロディーを弾きながら歌を歌ったり、両手で歌や器楽の伴奏をしたりする技能が必要である。歌唱の指導の際には、児童が初めて歌う歌の場合には、音取りとして初めは単旋律でピアノを弾く。旋律を覚え少しずつ歌えるようになってきたら、ベースラインから少しずつ左手で伴奏をつけ、回数を重ねるごとに本伴奏に近づけていく、ということを行っている。また、行事の前など、伴奏する曲数が多い場合には、全ての曲の本伴奏の譜読みが間に合わない場合もあるので、耳コピ(聴音、聴奏)で弾いたり、コードを用いて伴奏したりすることもある。また、子どもの様子を見ながら伴奏する必要があるときにもコードで伴奏することもある。このように、ある程度の読譜や、簡単にするアレンジ、コードを用いた伴奏付けなどの技能が必要である。授業では、ときには正確な伴奏を弾くことよりも、場合によってはアレンジして弾くことが大切なこともある。

C

右手でメロディーを弾き、歌を歌うこと、曲の伴奏を弾くことが必要。また歌唱の指導では、右手のメロディーに、仕上げに向かってだんだんと本伴奏に近づけて音を増やしていく技能が必要。器楽の鍵盤ハーモニカの伴奏では、前奏が無かったり、伴奏自体が無かったり、また自作のメロディーに伴奏を付けたりするので、前奏や伴奏を付けるアレンジの能力も必要である。コードで伴奏付けができると良いが、コードネームが無い楽譜もあるので、自分でコードを考えて伴奏付ができる技能が必要である。特別支援学級では、リトミックの活動も重要であり、曲をアレンジして弾いたり、即興演奏をしたりする技能も必要である。

### ③授業以外におけるピアノ演奏について

・授業外でどんなときにピアノを演奏するか、その目的

A

合唱発表会などの行事の前には、練習時にピアノを弾くことがあった。また朝の会や帰りの会の際に季節の歌を歌ったり、行事の歌を歌ったりする際、教室の電子ピアノを弾いた。学級担任は、行事等の本番ではあまりピアノは弾かないことが多い。学年の行事では、その学年の担任たちの中にピアノが弾ける教員がいれば弾くことがあるが、いない場合は音楽専科の教員に依頼する。これまでに自分は、6年生を送る会で合唱の伴奏を弾いたことがあった。

B

入学式、卒業式、6年生を送る会、合唱祭、全校朝会や音楽朝会、学芸会等の行事で、合唱や器楽合奏の伴奏としてピアノを演奏する。劇の効果音としてピアノを弾く場合もある。伴奏の他に、行事の入退場の音楽を演奏したり、卒業式では、証書授与の間にBGMとしてピアノを弾いたりする。

C

学内行事では、学芸会、音楽会、芸術祭などの行事でピアノを使用する。劇の伴奏、合唱や器楽合奏のピアノ伴奏を行う。学外行事では区ごとに行う「まとめ展」などの学習発表会で合唱や合唱のピアノ伴奏を行うことがある。

・どんな演奏技能が必要か

A

授業外では学級担任はピアノを弾くことはあまりない。合唱などの行事がある前には、朝の会や帰りの会で練習することがあり、その際には右手でメロディーが弾けると良い。ときには行事でピアノ伴奏をすることがあるので、簡易伴奏くらいは弾けると良い。

B

両手で伴奏が弾けることが最低限必要であり、さらに、子どもたちの演奏を聞いて、子どもたちに合わせて伴奏することも必要である。劇の効果音や劇中の音楽の伴奏を弾くこともある。行事のBGMとして演奏する際には、進行の度合いに合わせて様子を見ながら曲を弾き始めたり、終わらせたりする必要がある。これらのためには、移調や編曲の技能、曲と曲のつながりを部分的に作曲したり編曲したりする技能、即興演奏の技能などが必要である。

C

子どもの様子を見ながら、状況に合わせて弾くことが必要である。とくに特別支援学級での授業では子どもたちから目を離すことができない。歌唱や器楽の両手での伴奏ができることも必要である。行事での演奏には、子どもたちの保護者など、必ず演奏を聴く人たちがいる。楽譜通りの伴奏を弾くだけではなく、子どもの能力に合わせて、単純な旋律の歌唱や器楽の演奏が聴き映えするように、演出や編曲をして弾くことも必要である。

④教員養成課程に在籍していたときのピアノに関する授業について

・大学での学びで現在役立っていること

A

大学1年生のときに、週に1回90分のピアノのグループレッスンがあった。人数は30人程度で1人1台の電子ピアノでの授業があった。この授業と抱き合わせで歌の授業もあった。ピアノの授業では伴奏のみを弾く試験があり、歌の授業では弾き歌いの試験があった。ピアノの演奏としての授業はこの授業のみであった。自分は大学入学前にピアノを習っていたので、簡単な伴奏は弾くことができたが、当時のまわりには初学者もたくさんいた。その初学者たちの授業での様子や、教職についてからの経験から、まずは正確に楽譜が読めることが重要だと感じている。その意味では、大学時代のピアノの授業も役に立っていると思う。

B

ピアノ実技、声楽実技、ソルフェージュ、和声、作曲、伴奏法等の授業があり、これらが役立っている。ピアノ実技は週に1度個人レッスンがあった。時間は30～40分程度であったと思う。

C

直接役に立っていると思うのはピアノ実技の授業である。主科ではなく副科のピアノ実技であったが、授業や試験が無ければ練習もしなかったと思うが、コンスタントに授業や試験があったので、いやでも練習した経験が役に立っていると思う。

・学生のうちに身に付けておくべき技能

A

まずは楽譜を読むことができるようにしておくが良いと思う。また、右手でメロディーを歌いながら弾けることも重要である。両手での難しい伴奏ができなくても、右手で歌いながらメロディーを弾くことができれば、ある程度までは授業を行うことができる。

B

右手でメロディーを歌いながら弾くことができる技能を身に付けておくが良いと思う。歌だけで歌唱指導をすることもできなくはないが、ピアノがあると歌だけよりも、正しい音程が子どもたちに伝わりやすい。また右手ピアノだけだと、伝えられるのは音程と旋律のリズムだけになり、歌詞を伝えることができない。これらの理由から、歌いながら右手メロディーを弾くことは、効果的に歌唱指導をすることができ、学生のうちに身に付けておくべきである。

C

簡単な伴奏でもいいので、弾き歌いの能力を身に付けておくが良い。自分の周囲には、弾き歌いができず、教職をあきらめた人も複数いる。また、現場にでるとなかなか練習時間を捻出することができなくなるので、初見の能力を身に付けておくが良いと思う。「コンコーネ」などの練習曲を、伴奏をきちんと弾くのではなく、初見で和声だけを弾きながら旋律を歌う練習をしたことが、自分には役立っている。

・養成校で教えてほしいこと

A

リズムを含めて、楽譜を読むことができること。メロディーを歌いながら右手だけでも弾くことができること。

B

楽譜を正確に読み、右手でメロディーを歌いながら弾くことができること。また両手伴奏での弾き歌いや、コードでの伴奏付け、簡単な編曲も教えてほしい。

C

技能としては、弾き歌いができること。右手でメロディーを弾き、左手でコードの伴奏ができること。

また、音楽を良い、素晴らしいと感じられるような感受性、内面的なものを育ててほしいと思う。簡単でもいいので、楽曲をアナリーゼできると、その音楽にふさわしい表現方法の理解につながると思う。また、季節ごとの歌を知ること、歌ったり、さまざまな楽器を演奏したりする経験があると良い。器楽については、必ずしも全て必要であるとは限らないが、楽器の奏法についてなど、経験があるのと無いのとでは、子どもたちに伝えられることが変わってくる。

・最低限、どんな技能が必要だと考えるか

A

これまでの意見と同様になるが、まずはきちんと楽譜が読めることが必要である。また右手のメロディーを弾きながら、歌うことも必要である。

B

Aの教員と同様に、楽譜が読めること、歌いながら右手メロディーが弾けることが最低限必要であると考えます。

また、校歌等を式典や行事で弾くことがあるので、両手で伴奏できることも必要である。コードでの伴奏もできると良い。伴奏はCDや伴奏くんなどもあるが、ピアノが弾けるとCD等よりも小回りがきき、授業の進行に役立つ。

音楽の授業を行う前提として考えると、ピアノ以外にも鍵盤ハーモニカやリコーダーの技能も必要である。

C

最低限、右手でメロディーが弾けて、左手は単音でもいいのでコードでベースラインが弾けることが必要であると考えます。また弾きながら歌う、「弾き歌い」ができると良い。



## ⑤採用試験について

### ・採用試験ではどんな実技試験内容であったか

A

千葉県で採用試験を受験した。小学校教員の採用試験では、ピアノの実技試験はなかった。

B

千葉県では中学校、高等学校の音楽科の教員採用試験を受験し、東京都では小学校の教員採用試験を受験した。自分が受験した頃は、千葉県は音楽の教科書の歌の中から当日1曲指定のピアノ伴奏での弾き歌いの課題と、ピアノ以外の楽器演奏の課題の、2つの実技試験があった。東京都の小学校の試験では、以前はピアノの実技があったが近年はない。

C

自分が受験した頃は、小学校、中学校共通の音楽の教員採用試験では2次試験に音楽に関する実技があった。課題は初見が2曲で、1曲は新曲視唱、もう1曲はピアノ伴奏で弾き歌いをする新曲視唱であった。また音楽の模擬授業の試験もあった。試験には合格したが、辞退し、専任で常勤の教諭にはならず、非常勤での勤務を続けている。

---

このインタビュー調査から、現場の小学校教諭からの意見として、小学校教諭におけるピアノ演奏の最低限必要とされる技能は、「右手でメロディーを弾きながら歌うこと」、「両手伴奏で弾き歌いをする」、「右手メロディー、左手コード伴奏での弾き歌いができること」であることが分かった。

第3章で示した保育者、また小学校教諭への調査の結果として、総合的に現場で必要とされる技能として最も重要であるのが「弾き歌い」を行うことである、と判断することができる。また「弾き歌い」の中でも、「右手でメロディーを弾き、歌を歌う」という、両手での演奏ではなく、片手での演奏と歌という組み合わせでの「弾き歌い」も重要であることが分かった。これは例えば保育の現場では、歌唱指導の場面での活用であったり、またはピアノが苦手な場合でも、せめて片手だけでも音楽の流れを止めずに弾いたりする場面で必要とされ、さらに小学校の音楽の授業では歌唱や合唱の旋律を覚えるための音取りや、器楽では鍵盤ハーモニカの指導の際に、また鑑賞の授業では扱う曲のメロディーの一部をピアノで弾くなどの場面など、同時に歌を伴わない場合もあるが、「右手でメロディーを弾く」という技能が多くの中で必要とされることが分かった。ピアノ演奏だけでなく、歌を歌うこと自体の重要性や、技能を身に付けるだけでなく、

音楽を楽しむこと，その楽しさを子どもたちに伝えることの大切さについての意見も多数あげられた。また，現場での重要なスキルとして，「子どもたちの様子を見ながらピアノが弾けること」や，「コード伴奏ができること」，活動の場面に応じて「(簡単に)アレンジして弾くこと」などの必要性も提示された。これらの調査結果を活かし，このような現場からの意見を養成の段階で学生への指導に取り入れ，教材作成に役立てる。

資料 1 保育者への質問紙

保育士・幼稚園教諭・保育教諭の先生方へのピアノや音楽に関する調査

◇お忙しい中、アンケートへのご協力をありがとうございます。簡単に書ける範囲で結構ですので、どうぞよろしく願い  
いたします。空欄があっても構いません。裏、表両面へのご回答をお願いいたします。

勤務されている保育所(園)、幼稚園、こども園等の名称 【 \_\_\_\_\_ 】(無記名でも可)

質問1 あなたの学生時代まで、また就職してからのご経験について、ご記入下さい。

- ・ご自身が卒業された保育士・幼稚園教諭の養成校(専門学校、短大、大学など)の就学年数 【 \_\_\_\_\_ 年】
- 養成校ではなく、保育士試験を受け勤務している場合、次の【 】内の「保育士試験」を○で囲んで下さい。【 保育士試験 】
- ・ご経験の職種(該当するものを全て○で囲んで下さい。) 【 保育士 ・ 幼稚園教諭 ・ 保育教諭 】
- ・現場経験の年数 【 \_\_\_\_\_ 年】
- ・役職(現職、または最終のものをご記入下さい。) 【 \_\_\_\_\_ 】
- ・実習生の指導担当の有無 【 有 ・ 無 】
- ・養成校に入学するまでのピアノの経験、音楽経験の有無  
(養成校に入学するまでに、ピアノやその他楽器等を習っていた期間や、どの程度の曲が弾けたか(バイエル、ブルクミュラー、ソナチネ程度など)をご記入ください。)

質問2 保育所(園)、幼稚園、こども園での保育・教育の中で、ピアノの活用について、ピアノを使用する頻度が多い順に並べてください。

- A 子どもの歌の伴奏(朝の歌や帰りの歌、季節の歌、発表会のための練習など)
  - B 歌の指導での活用(メロディーの音取りなど)
  - C ピアノ単独での演奏(活動の切り替えの音楽等も含む)
  - D その他 【 → → → 】
- その他の場合、どんな活動に用いるか簡単にご記入ください

質問3 保育士、幼稚園教諭、保育教諭として必要なピアノ演奏の技術についてお答えください。

以下の①～⑧の項目について、とても重要だと思うものにはA、まあまあ重要だと思うものにはB、あまり重要ではないと思うものにはC、まったく重要ではないと思うものにはDを、それぞれ○で囲んでください。

- ① ピアノ独奏の曲を弾くことができる A B C D
- ② 子どもの歌を右手で旋律を弾きながら歌うことができる A B C D
- ③ 子どもが歌うのに合わせて伴奏をすることができる A B C D
- ④ 右手で旋律を弾き、左手でコード伴奏を弾くことができる A B C D
- ⑤ 両手でコード伴奏をすることができる A B C D
- ⑥ 伴奏を弾きながら歌う(弾き歌いをする)ことができる A B C D
- ⑦ 伴奏を弾きながら先歌い(次の歌詞の頭出し)をすることができる A B C D
- ⑧ その他、ピアノや弾き歌いに関する技術で重要であると思うことがあれば、以下にご記入ください。

質問4 保育所(園)、幼稚園、こども園で歌う機会が多い曲を、年齢別に3~5曲ほどお答えください。

3歳児

4歳児

5歳児

質問5 保育所(園)、幼稚園、こども園で活用している、歌の楽譜、本、曲集をお答えください。

よく用いるもののタイトルと出版社をご記入ください。(複数ある場合は、2~3ご記入ください。)

質問6 あなたが勤務している保育所(園)、幼稚園、こども園で、採用試験に音楽やピアノに関する試験を行っている場合、試験課題の内容を、支障のない範囲でお答えください。

質問7 保育士、幼稚園教諭の養成校に望む、養成校で学んでいる間に身に付けてほしいと思うピアノや音楽に関する技能をご記入ください。

質問8 保育実習生や幼稚園教育実習生を指導して、実習生に不足していると感じるピアノや音楽の技能があれば、点(・)を○で囲みお答えください。複数回答可。他にあれば、その他の欄にご記入ください。

- ・歌を歌うこと
- ・ピアノを両手で演奏すること
- ・ピアノで子どもの歌の伴奏をすること
- ・指導経験なし
- ・ピアノを弾きながら歌を歌うこと
- ・ピアノを使用して、子どもに歌の指導をすること

・その他

質問9 現在のご自身のピアノや弾き歌いの能力について、A~Dから1つ選び○で囲みお答えください。

A 満足している      B やや満足している      C やや不満である      D 不満である

質問10 ピアノや音楽に関することで、保育者養成校に伝えたい事があれば、以下に自由にご記入ください。

◇ご返信は同封の返信用封筒もしくは、FAX(0XX-XXX-XXXX)にてお願い致します。ご協力をどうもありがとうございました。

## 第4章 初学者への効果的な指導法の考察

### 第1節 養成校のピアノ教員への調査

2016年(平成28年)6月～8月にかけて、保育者、小学校教員養成校でピアノ指導を行っている教員(常勤, 非常勤両者を含む)を対象に, とくに養成校での初学者に対するピアノ指導についての質問紙調査を行った。青森県, 山形県, 宮城県, 福島県の短期大学, 4年制大学の保育者養成課程, 小学校教員養成課程でピアノ実技の授業を担当している教員32名への質問紙による記述式の調査を行った。質問紙は, 養成校の代表の教員に簡単に説明しながら, 対面で複数の部数を渡し, その後各養成校で他の教員に渡してもらい, 記入後に各養成校から郵送で回収した。

以下, 項目ごとに, 質問紙での質問と集計結果を示す。なお, 質問紙については, 資料2として本章末に示す。

まずは回答者の勤務校, 指導歴について質問した。

回答者の内訳は, 4年制大学に勤務する教員が6名, 短期大学に勤務する教員が26名であった。比率を表33に示す。

表33 回答者が勤務する養成校の大学, 短期大学の比率

| 養成校の種別 | 人数 | 比率     |
|--------|----|--------|
| 4年制大学  | 6  | 18.75% |
| 短期大学   | 26 | 81.25% |

#### ・ご自身のこれまでのピアノ指導の経験年数

回答者のピアノ指導の経験年数について質問した。表34のとおり, 最短は3ヶ月, 最長は50年で, 経験年数には偏りがなく, 分散していた。

表34 回答者のピアノ指導の経験年数

| 指導歴 | 50年 | 45年 | 43年 | 42年 | 40年 | 39年 | 35年 | 33年 | 30年 | 29年 | 28年 | 27年 | 26年 | 24年 | 23年 | 21年 | 20年 | 16年 | 15年 | 14年 | 12年 | 11年 | 5年 | 4年 | 3ヶ月 | 回答なし |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|-----|------|------|
| 人数  | 1   | 2   | 1   | 2   | 1   | 1   | 2   | 2   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 2   | 1   | 1   | 2  | 1  | 1   | 1    | 計 32 |

・養成校でのピアノ初学者に対する指導の経験年数

回答者の養成校でのピアノ指導の経験年数を質問した。結果を表 35 に示す。

表 35 回答者の養成校でのピアノ指導の経験年数

| 養成校での指導歴 | 45年 | 42年 | 41年 | 39年 | 33年 | 29年 | 26年 | 25年 | 24年 | 17年 | 14年 | 12年 | 11年 | 10年 | 9年 | 7年 | 4年 | 3年 | 2年 | 1年 | 3ヶ月 | 回答なし |      |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|------|------|
| 人数       | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 2   | 2   | 1   | 2   | 1   | 1   | 1  | 2  | 3  | 4  | 2  | 1  | 1   | 1    | 計 32 |

質問 I

I. 保育者養成課程でのピアノ初学者に対する指導を行うとき、心掛けている指導の要素はありますか。主なこと、大切だと思うことを以下から選んで、重要だと思う順に番号で記入欄にお答え下さい。(複数回答可。) その他にもあれば、【その他】の欄にご記入をお願いいたします。

- ①姿勢 ②手・指の形 ③椅子の高さ ④タッチ ⑤音の高低の読み方 ⑥音価(音符の長さ)  
 ⑦リズムの読み方 ⑧テンポの取り方 ⑨強弱 ⑩フレーズ ⑪音色、音の美しさ ⑫和音の弾き方  
 ⑬メロディーと伴奏のバランス ⑭運指、指使い ⑮ポジションの移動 ⑯マナー、礼儀  
 ⑰学生の精神的な面(劣等感を持たないように、など)

質問 I では、初学者に対する指導での重要であると思う要素について質問した。重要度を数値化するため、並べ替えられた順位に、選択できる最大値が 17 であるので、1 位を 17, 2 位を 16, 3 位を 15, 4 位を 14, 以下を同様に得点化を行い得点化し、順位データの分析を行った。集計の結果をグラフ 4 に示す。上記の選択項目については、養成校における初学者にとってはいずれも重要であるが、あくまで「ピアノの指導」を行う授業時に重要視されていることを明らかにすべく選定した。

養成校の指導者が初学者へのピアノ指導で大切だと思うことのうち最も上位だったのが「⑤音の高低の読み方」であった。次いで「⑥音価」、「⑦リズムの読み方」、と順位付けられた。上位 3 つの項目は、楽典的な内容であることから、養成校でのピアノ初学者は、読譜力についても指導が必要であり、ピアノ指導の時間の中で楽典的な内容の指導も行われていることが分かる。また 4 番目は「⑭運指、指使い」となり、次には「⑰学生の精神的な面」への配慮が重要視されている。6 番目移行は「①姿勢」、「②手・指の形」、「⑧テンポの取り方」、「③椅子の高さ」、「⑩フレーズ」という結果となった。姿勢や、手・指の形、椅子の高さなど、既存の養成校の教材にはあまり触れられていなかった内容についても、順位付けの中央より上位に位置づけられている。

「その他」の意見については表 36 に示す。順位付けはできず、全て大切である、という意見が 2 件あった。読譜の際、「音符ばかりに目が行き、音部記号や拍子記号、調号を見ていない場合が多い」という意見には筆者も同感であり、学生全体への指導や、個人への指導の際にも繰り返し伝えるが、特に初学者にはなかなか浸透しない印象が強い。

グラフ 4

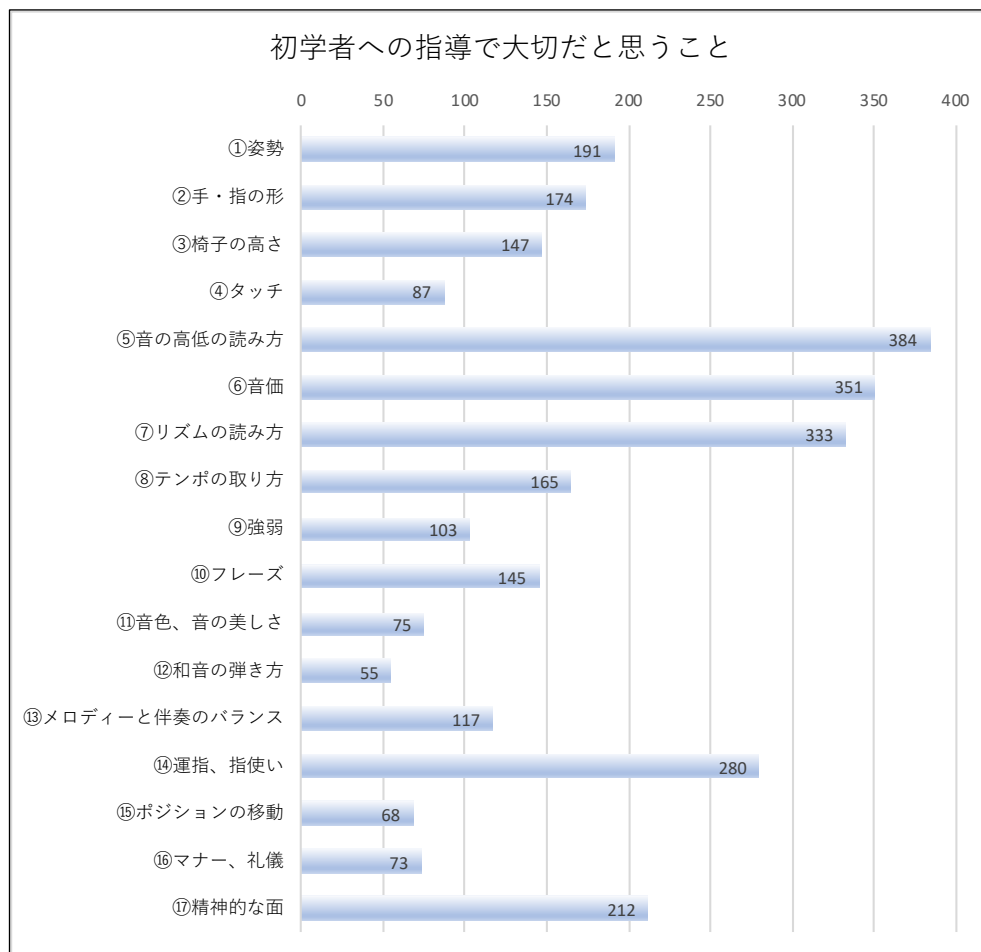


表 36 初学者への指導で大切だと思うこと その他

|   |
|---|
| 歌の歌詞の意味やつながり（フレーズ）を理解して、伝わるように表現すること。   |
| 楽譜を見ながら弾く事（鍵盤の感覚を体で覚える）。<br>初学者が学習するのは短い曲が多く、曲を覚えてしまい間違えるのを必要以上に気にするあまり、下（鍵盤）を見て弾く学生が多い。楽譜を見ながら弾けるようにする事が将来現場に行ったときも、また長い曲を弾くようになったときも大事だと思う。 |
| 努力に対する評価  |
| 初学者は、読譜の際、音符ばかりに目が行くことが多く、音部記号や拍子、調号を見ない場合が多い。<br>譜読みをするときは、まず楽譜の左側から順に読むように指導している。   |
| マインド<br>→自分がどういう演奏がしたいのかまずは目標を設定しそれをクリアする為にはどうしたら良いかを考える。   |
| 日々の練習   |
| 練習の仕方   |
| 全て大切（2件）  |

## 質問Ⅱ

Ⅱ. 保育者養成課程でのピアノ初学者が苦手だと思う要素について、以下から選んで（複数回答可）、○を付けて下さい。その他にもあれば、【その他】の欄にご記入をお願いいたします。

- ①両手別々の動き ②手指の使い方、フォーム ③運指 ④同音連打、音の保持 ⑤テンポの保持  
⑥楽典の知識、ソルフェージュの能力の不足

質問Ⅱでは、養成校でピアノ指導を行う中で、初学者が苦手だと思う要素について、指導者側からの意見を調査した。初学者にとって困難だと考えられる要素を選出した。「④同音連打、音の保持」は、初学者が初期に練習する曲や技術的に易しい子どもの歌には、同じ音を2回以上連続で弾くパターンが多いこと、また初学者はその場合1つ目の音から、2つ目の音を弾く際に正しいタイミングまで待つことができない場合が多い(2つの同音8分音符等が、いわゆる「詰まる」ことは、初学者に限らず、経験者にも多く見受けられる)ので、選定した。

60件の回答が得られた。結果を表37に示す。最も多かったのは「①両手別々の動き」であったが、ほぼ同率で「③運指」が位置づけられた。続いて「⑥楽典の知識、ソルフェージュの能力の不足」、「②手指の使い方、フォーム」、「⑤テンポの保持」となり、「④同音連打、音の保持」については選択肢の中では最も件数が少なかった。その他の意見についても表37に示す。



表 37 初学者が苦手だと思う要素

| 苦手だと思う要素               | 件数   | 比率     |
|------------------------|------|--------|
| 両手別々の動き                | 16   | 26.67% |
| 運指                     | 15   | 25.00% |
| 楽典の知識,<br>ソルフェージュの能力不足 | 9    | 15.00% |
| 手指の使い方、フォーム            | 7    | 11.67% |
| テンポの保持                 | 6    | 10.00% |
| 同音連打、音の保持              | 3    | 5.00%  |
| その他【拍子感】               | 1    | 1.67%  |
| その他【拍子の理解】             | 1    | 1.67%  |
| その他【練習の継続】             | 1    | 1.67%  |
| その他【練習の仕方】             | 1    | 1.67%  |
|                        | 計 60 |        |

### 質問Ⅲ

Ⅲ. Ⅱで選んでいただいた、初学者が苦手だと思う要素に対して、ご自身が行っている効果的だと思われる指導法を支障のない範囲で、簡単にお答え下さい。

質問Ⅲでは、質問Ⅱで選択した初学者が苦手だと思う要素に対する、効果的だと思われる指導法について質問した。集計の一覧を表 38-A, 38-B に示す。

質問Ⅱで最も件数の多かった「両手別々の動き」が苦手な学生への指導法として、多くの教員から、まずは片手ずつ、ゆっくりと練習する、という方法が示された。片手ができたら、学生が片手を弾き、もう片方のパートを教員が弾いて曲のイメージを持たせる、という方法も数多く上げられた。片手を歌いながら弾く、という方法や、一旦鍵盤から離れ、ピアノの蓋の上や膝の上でリズムだけの練習をしたり、右手と左手の違う動きをゲーム感覚で行ったり、という方法も提示された。

「運指」への指導については、教員それぞれによって様々な指導法が示された。単に指使いだけでなく、ポジションとの関わりや、指くぐり、指こえとの関連での指導や、運指に関しては基礎、基本の徹底や反復練習に重点が置かれていることが分かった。

「手指の使い方、フォーム」への指導には、初学者がピアノを弾くときに、手首がさがってしまうこと、また手首に無駄な力みが生じ硬くなってしまうこと、指が伸びたままコントロールできずに弾いてしまうこと、が指摘されている点に注目する。

表 38-A

| 苦手だと思う要素 | 効果的だと思う指導法  |
|----------|---|
| 両手別々の動き  | 片手ずつテンポを意識して音やリズムを確認しながら余裕が出るまで練習させる。<br>左手が伴奏型の場合は歌と左手だけで弾き、その後両手を合わせる。<br>出来ない部分を左右のタイミングを楽譜上で確認し、ゆっくり拍を意識しながら合わせる。 |
| 両手別々の動き  | まず片手ずつ練習する。それぞれ音名で歌う。<br>左手を弾きながら、右手のパートを音名で歌う。<br>出来たら両手で弾いてみる。  |
| 両手別々の動き  | 片手ずつ弾かせて手の動きの確認をする。出来たら教員がどちらか一方の手を弾き、片手ずつ合わせて練習する。その後両手で弾く。<br>うまくいかない所を繰り返し練習させる。                                   |
| 両手別々の動き  | 片手ずつ声を出して歌わせる。<br>→片手ずつゆっくり弾かせる<br>→音を出さず両手の動きをピアノのふたの上で行わせる。<br>→実際に音を出す   |
| 両手別々の動き  | 片手練習を十分に。両手合わせも短いフレーズでゆっくり。左右の動きの違いを明確にする。  |
| 両手別々の動き  | ピアノを2台使用し、2人で右手、左手に分かれて片手奏をする。片手だけの音が鳴っているよりも両方の音を聞くことで雰囲気をつかむことができる。<br>細かくフレーズごとに部分練習する。                            |
| 両手別々の動き  | フレーズを短く区切り(2~4小節)、片手ずつをゆっくり弾き、その後、両手で左右を確認しながら弾くようにする。  |
| 両手別々の動き  | 片手ずつ、ゆっくりの練習をさせ、その後両手で弾かせる。<br>それでも出来ない場合はリトミックを取り入れ、両手の違うリズムを身体で刻ませ、慣れてきたところで鍵盤に再度向かわせる。                             |
| 両手別々の動き  | 机の上で指の動きだけで弾かせる<br>ピアノとは関係なく右手と左手で違う動きをさせ教師の合図で右手と左手の動きを反対に、ゲーム感覚で行う。   |
| 両手別々の動き  | まず右手のメロディーラインを声に出して音名を歌いながら弾かせる。<br>左手の伴奏については、コードなどで理解させうえてゆっくり右手メロディーと合わせて両手で弾かせてみる(部分で区切りながら)。                     |
| 両手別々の動き  | 片手を学生、もう一方の片手をレスナーとし、曲のイメージを捉えさせる。  |
| 両手別々の動き  | 楽譜をしっかり見て片手でのゆっくりの練習を、指使いを確認しながら。<br>少し楽譜どおりに弾けるようになった時点でゆっくり(両手)弾かせる。  |
| 両手別々の動き  | 片手ずつゆっくり練習したあとに、例えば学生が右手を弾き、教員が左手を弾く、さらにその逆をする、というように練習すると、少しづつ縦の線が揃ってくる。   |
| 両手別々の動き  | まず片手ずつゆっくり楽譜を読むことに力を入れて練習するように指導する。   |
| 両手別々の動き  | 楽譜にたて線を書き込み、頭でも左右の動きをイメージさせる。   |
| 両手別々の動き  | 階名唱をしつつ、ひざの上で左右のリズム打ちをすると効果的だった。  |
| 運指       | 左右の音階それぞれの指替えを徹底させる。  |
| 運指       | ひらがな、漢字の書き順と一緒に、文章(フレーズ)を円滑にすすめるために大切という話をする。   |
| 運指       | はじめは基礎的、基本的な指使いを教え、徐々に新しい曲では自分で考えて使えるように教える。  |
| 運指       | ポジションや手の形、開きを意識させる。単音で動く場合でも、3つ4つ先の音の準備(和音の形)を考えさせている。  |
| 運指       | ポジション移動の少ない作品から練習させる。   |
| 運指       | やりにくい部分を取り出して、何度も弾かせ理解し経験させる。   |
| 運指       | 指番号を記入し、何度も繰り返す。同じ音での指使い(ドを1, 3)が苦手なことが多いので、その箇所を慣れるように何度も弾く。   |
| 運指       | (手を見ない!)をまずしっかり徹底させて必ず指使いを楽譜に書かせる。  |
| 運指       | 上からかぶせたり、下からくぐる場合など、矢印で目印をつけたり、指番号を書き込ませたりしている。   |
| 運指       | 時間が無いときは教員がすぐ指番号を書き入れてしまうが、余裕があるときはフレーズの始めの音の指使いを何通りか学生に提示して、一番弾きやすい運指を考えてもらう。  |
| 運指       | 大切なことなので、一度決定した指使いは常にその指で弾くように伝える。無理のない指使いを探させる。  |
| 運指       | 指使いの丁寧さを常に教える。両手の指番号を声に出しながら、指を追って覚えさせる。  |
| 運指       | 楽譜に運指が表記されているにも関わらず、見ずに自己流で弾いてしまう学生が多い。譜読み段階で注意深く確認するよう注意している。<br>初學者には、見本で模範演奏をし、一緒にスムーズな運指に気づかせ教えている。               |
| 運指       | 指使いは手の大きさによっても異なるので、そのことを考えて基本の指使いを教える。   |
| 運指       | 楽譜をよく見ること、運指の指示に気づき、「なぜここで」、を考えるようにする。  |

表 39-B

| 苦手だと思う要素      | 効果的だと思う指導法  |
|---------------|---|
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 最初の段階から、課題曲を通して、楽典やソルフェージュのエクササイズをやっている。  |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 音部記号の示す音など、必要最低限のことは折に触れ説明する。   |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 手を打ってリズムを覚えさせたり、付点音符はスキップしたりして身体で感じさせる。理解できていないところは、指導者のいいいな説明や実際に弾いてあげることにより、目と耳で確認させる。  |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 読譜の大切さを、また正確な鍵盤の位置を確認しながら音読みをしながら弾く。  |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 階名で歌わせてから弾かせる。リズムをたたいてから弾かせる、など。  |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | その都度、必要事項を教えていく。  |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 曲の中で気がついたときに、学生に質問し、答えられなければ、書いて教える。  |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | とにかくいろんな楽譜を見て、楽譜の読解力を養う。ピアノレッスンだけでなく、他の音楽授業との連携でソルフェージュ力の向上を目指している。   |
| 楽典、ソルフェージュの知識 | 基礎的な用語や意味は、一曲ずつ確認しながら実践で覚える。  |
| 手指の使い方、フォーム   | それぞれの手の特性（硬い、やわらかい、指が伸びてしまうなど）について、個人個人にいいいな説明を行って改善策を考える。  |
| 手指の使い方、フォーム   | はじめにきれいだと思う型を作り、その型をくずさないよう力まずに指を動かす練習をさせる。   |
| 手指の使い方、フォーム   | 手首が下がってしまうとムダな力が入り、指が動かない事を話し、手首や指がのびてしまわないように、自分で練習するときも気をつけるように話す。  |
| 手指の使い方、フォーム   | 特に最初に変な癖がつかないように注意している。直すべきところの良し悪しの見本を見せ、気づかせる。弾いていない指もなるべく鍵盤から離れないように心がけている。  |
| 手指の使い方、フォーム   | 指、番号をしっかり覚える。<br>肩、腕の力を抜くことを教える。  |
| 手指の使い方、フォーム   | 硬くなりがちな手首を、力を抜くことで、フレー징の練習を兼ねてすることがある。  |
| 手指の使い方、フォーム   | ①卵をつかんだ形で鍵盤に置かせる。<br>②オクターブ音階を音を出さずに卵をつかんだ形を保持しながら運ばせる<br>③実際に②を音を出して弾かせる<br>④和音のつかみを確かなものにさせる                                      |
| テンポの保持        | 勢いに任せ速いテンポで弾いてしまうことが多いので、曲ごとにメトロノームのテンポを明示する。   |
| テンポの保持        | ピアノに対して不慣れであると、たどたどしくフレーズをまとめられず結果としてテンポが崩れてしまう。まずは4小節、8小節などのまとまりの中で流れを持たせるように、拍に合わせて弾かせる事でテンポや拍の意識を持たせる。あるいは一緒に拍子を数えながら弾いたり歌ったりする。 |
| テンポの保持        | メトロノームを使うこと。<br>うまくいかない学生にはメトロノームに合わせて手拍子をさせる。<br>メトロノームは片手ずつにして、ずれたときに自分で確認できるようにする。   |
| テンポの保持        | メトロノーム（今はスマホの）を練習に活用させ、一定のテンポ感を常に意識させる。   |
| テンポの保持        | 何拍子の曲なのかを伝えて、拍子を感じて弾いてもらうことを心掛けているが、うまくいかない場合は教員が手拍子をしてテンポをキープしています。  |
| テンポの保持        | 速くなったり、遅くなったりする学生には、メトロノームの使用や、一緒に弾いて確認する。また、他の学生たちに歌ってもらい自覚するようにさせる。   |
| 同音連打、音の保持     | 指使いを工夫する。例えば1, 1, 1ではなく、1, 2, 1や3, 2, 1など。<br>その時、個々の特性に配慮して弾きやすい指使いを選択する。<br>鍵盤で弾く前に、ピアノの蓋やひざの上でその指使いの動きを練習してから、実際に弾いてみる。          |
| 同音連打、音の保持     | ゆっくり指を替えて弾かせる。<br>→スタッカートのように切って指を替えて弾かせる。<br>→再度つなげて指を替えて弾かせる。   |
| 同音連打、音の保持     | 違う指で連打することにより、音の強さを一定に保てることを説明し、指番号も記入させる。<br>音の保持については、自分の耳で残音として聞こえるか、何度もチェックさせる。五感を大切にしている。                                      |
| その他【拍子感】      | 一定の速さで弾く事が技術的な面で難しい場合も多いが、3拍子、4拍子等で強拍、弱拍を理解し、拍子感を持てるよう教える。  |
| その他【拍子の理解】    | 拍を数えながら弾かせる。  |
| その他【練習の継続】    | 指の動きを覚えるためには、レッスンの前日にまとめて時間をとって練習するのではなく、毎日10～15分でも練習するほうが効果的であることを繰り返し言っている。   |
| その他【練習の仕方】    | ある程度読譜みができた段階で、まだできていないところを認識し、まずはそこを部分的に練習させる。その後、その前後につなげて止まらないように練習させる。テンポはゆっくりから。   |

質問Ⅳ

Ⅳ. 保育者養成課程でピアノを指導する場合、ほとんどの場合 18 歳以上の年齢の学生に対する指導になりますが、一般的にピアノを始めるのは幼児期、児童期が多いと考えられます。

幼児や児童と、18 歳前後の青年期の学生とでは、体格の違い、理解力の速さ、などに違いがあると考えられますが、幼児・児童の初学者へのピアノ指導と比べて、18 歳前後の初学者へのピアノ指導で気をつけていること、心がけている事があれば、簡潔にご記入下さい。

(幼児、児童への指導のご経験がある方のみ、ご記入をお願いいたします。無い場合は「なし」とご記入下さい。)

質問Ⅳでは、幼児に初めてピアノを指導する場合と比べて、特に 18 歳で初めてピアノを弾く学生への指導で気をつけていることを質問した。意見を集約した表を、表 40-A に示す。またそれぞれの意見を表 40-B に示す。

最も多かった意見は初学者が経験者と比べて焦ってしまったり、引け目を感じてしまったりしないような精神面への配慮であった。18 歳で初めて学習することは、理解力がある、という点は概ね前向きに捉えられていた。また、練習の大切さを根気よく伝えている様子が見える。

表 40-A 18 歳初学者への指導での考慮

| 回答内容          | 件数   | 比率 (%) |
|---------------|------|--------|
| 精神面への配慮       | 9    | 27.27% |
| 理論を理解してから弾く   | 8    | 24.24% |
| 練習の大切さ        | 7    | 21.21% |
| アレンジなどの応用を教える | 2    | 6.06%  |
| 正しい指使い        | 2    | 6.06%  |
| 多くの曲に触れる      | 1    | 3.03%  |
| ポジション移動       | 1    | 3.03%  |
| 個人に合わせて       | 1    | 3.03%  |
| 授業の大切さを伝える    | 1    | 3.03%  |
| 頭を使って練習する     | 1    | 3.03%  |
|               | 計 33 |        |

表 40-B 18歳初学者への指導での考慮(詳細)

|   |
|---|
| <p>幼児・児童の初学者へのピアノ指導と比べて、18歳前後の初学者へのピアノ指導で気をつけていること、心がけている事</p>  |
| <p>保育者養成という目的から、子どもの歌の伴奏をする力をつけるために、必ずしも楽譜どおりの音符を弾くだけではなく、自分の力量に合わせて伴奏を工夫する方法をある程度自分で考えられ、応用できるような助言を心がけている。</p>  |
| <p>幼児と異なるので、音楽理論(音の読み方、リズムの読み方、コード、強弱記号など)を理解させて、実技からというより理論と同時進行で弾く技術を学んでもらいたいと思っている。</p>  |
| <p>経験者と比べて焦ってしまう学生が多いので、少しずつ目標を持つのが大切と伝える。<br/>         初学者は鍵盤の幅の感覚がなかなかつかめず、間違えることを必要以上に気にする傾向があるので、練習したうえで間違えは、弾けるようになるためには大事なことと伝える。</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手意識をもたせない</li> <li>・出来る、出来ないではなく、トライし努力することが重要であることを認識させる</li> <li>・繰り返し努力することで力となることを理解させる</li> </ul>   |
| <p>学生を大人として扱うようにしている。わからない所や弾きにくい所は、自分から質問したり説明したりするように促している。<br/>         前向きに学習に取り組んでもらいたいため、あまり否定的な言葉は使わないよう心掛けている。</p>  |
| <p>幼児、児童と比べると、感覚的ではなく頭で考えながら楽譜を読んだり弾いたりするので、具体的に説明しながらその都度確認しながら進めている。<br/>         体格の違いは初学者の指導ではそれほど気にしていない。もう少し段階を踏んでから指導している。</p>   |
| <p>自信を持たせるよう声掛けをしている。学生は意識が出てくるととても意欲的になる人も多く、出来るようになった事を認め喜んで励ますようにしている。</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽譜を正確に読めるように、音で歌いながら弾く。</li> <li>・指使いが音をつなげるためにとても重要であることを理解してもらう。</li> <li>・毎日短時間でもいいので弾くことが大切であることを話す。</li> </ul>   |
| <p>幼児・児童の場合、手・指の形成が未熟なため、様子を見ながら無理のない程度にピアノに親しむところから進めている。<br/>         学生は授業でのレッスン時間が短い事や、単位取得の期限もあるためじっくり時間を掛けて指導するのが難しい。<br/>         幼児に比べ成長しているため、理解は早い、中には不器用でなかなか思うように進まない学生もいる。その場合はリトミックを取り入れ身体でリズムを感じてからピアノに向かわせる。<br/>         耳で聞き覚えて楽譜が読めない学生が多いので、読譜の大切さを伝えている。</p> |
| <p>もう手の形、指の強さなどがある程度出来上がっている、(第1関節が伸びているなど)そこにはあまりこだわらない様にしている。読譜、リズム等はしっかり説明し、まず頭で理解してから音を出すように指導している。</p>   |
| <p>特に男子学生は4、5の指使いが硬くなって慣れるまで時間を要するため、ピアノに向かわない時間も指を動かすよう声掛けする。</p>  |
| <p>幼児の場合は、右手中央ドからの上行5指、左手中央ドから下行5指の理解からの導入にかなり時間がかかるが、青年期の場合は加線音域まで一気に理解できるので、オクターブ奏法なども割りりとスムーズにいける。<br/>         その際、ド、ソの位置だけは何オクターブでも場所を理解し、そこから前後の音を考えさせるようにしている。<br/>         曲選びも青年期の場合は就職試験などでも使えるようにはじめから意識しら選曲を心がけている。</p>   |
| <p>初学者の場合、一番心がけていることはピアノが嫌いにならないように、また自信のないことで劣等感を持たないように教えている。<br/>         幼児は柔軟性があり、音感もあつという間にさほど努力をすることなく覚えるが、大きくなればなるほど、しかも18歳で初めてだと、指も硬く、聴いている音もなかなかスムーズに頭に入らないと思う。<br/>         楽譜をしっかり見て、ゆっくり片手から両手で弾き、腕の力を抜いて弾かせるようにしている。練習の大切さも伝える。</p>                                 |
| <p>理解をしても、練習してマスターすることの大切さを心がけさせる。</p>  |
| <p>幼年期の初学者に比べ、青年期の初学者は関節の柔軟性や感受性の面で劣後してしまう。しかし、後者はピアノの技術修得に対するモチベーションが高いため教えられた事を素直に受け入れようとする意識が非常に高い。モチベーションが損なわれないよう、分かりやすい表現を使う事、伝わらない場合他の表現を試してみることを実践している。<br/>         どうしても弾けない場合は曲の感じを損なわない程度に簡単にアレンジする。</p>  |
| <p>ピアノを弾く指に必要な柔軟性が足りない学生が多く、固まってしまうので、正しい指使いで弾く事に重点を置いている。<br/>         また、レッスン以外での練習は一人で行うため、間違った練習をしないよう、レッスン中に練習の仕方を細かく伝える。</p>  |
| <p>音程が取れない学生が増えてきている。幼児期にたくさんの歌に触れていなかったのが原因だと思っている。<br/>         時間が限られているので、次の授業までの準備をしっかりやってもらうことが大切だと思う。<br/>         特に初学者には、試験までのカリキュラムを学生に合わせて行うようにしている。<br/>         弾き歌いは、歌の物語性や情景など、また強弱や楽譜などの記号は作曲者のどういう意図からなのかを考えてもらい、興味を持って取り組めるようにしている。</p>                         |
| <p>幼児、児童への指導と比べて、短期間での指導となるので、なるべくたくさんの曲に触れてもらう。<br/>         幼児、児童は1曲につき様々な課題を練習を繰り返す事によって修得するが、学生は理解力があるので、反復の回数は少なめに、そのかわりレパートリーを増やす。</p>  |
| <p>手、指が大人同様なので、使いやすい指ばかり(とくに2、3、4が多い)で弾こうとする学生も見受けられる。意識して1、5の指も使うように声掛けしている。</p>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポジションの移動、手首の使い方、柔軟性</li> <li>・簡単なコードの付け方を学ぶ事も大切ですが、楽譜を読んで理解し、楽譜どおりに弾こうと努力することも大切だと思う。</li> <li>・メンタルの配慮、小さな進歩を誉め、達成感や意欲を持って楽しく練習できるように計らう。</li> </ul>   |
| <p>理解力、忍耐力があり、長時間の練習も可能であることから、短期間での上達は難しいことではないと考えている。<br/>         大切な事は各々のペースに合わせて、各々の性格を考慮し適切な指導をすることだと思っている。</p>   |
| <p>2年間、という限られた学習になるので、目的を持って練習する事。授業は目標に近づけるためのお手伝いとなること、練習の成果の確認になること、ということ伝えていく。</p>  |
| <p>1年次の最初の授業において、2年後の保育者としての自分を想像させる。<br/>         学生に弾かせるだけでなく、指導者も弾いて聴かせ、イメージを持たせる。<br/>         やる気を引き出すために、劣等感を持たせないように、学生の良いところ、できたところを褒めることを大事にする。</p>  |
| <p>幼児に比べると、学生は頭では理解しているが、対して手がスムーズに動かないように感じる。短時間である程度の進度が要求されるため、頭を使うこと、考えて意識的に演奏させるようにしている。</p>   |
| <p>劣等感を持たせないよう、言葉の掛け方に気をつけている。<br/>         2年間という期限つきなので、どんどん進めるよう心がけている。ただし、焦りのある指導にならないよう気をつけている。</p>  |

## 質問V

V. 保育者養成校での、初学者へのピアノの指導でとくに困っている事、改善すべきと思うことはありますか。ご意見を自由にご記入ください。

質問Vとして、初学者への指導における改善すべき点質問した。意見を集約した表を、表 41-A に示す。またそれぞれの意見を表 41-B に示す。

「耳から覚えでししまい読譜の能力が身に付かない」という意見が多く、また「You Tube」で聞く、という現代の特有の問題も見受けられた。また初学者は「練習を習慣として続けることが難しい」、「授業でのレッスンの時間が短い」という声も複数あった

耳から覚えることは、読譜の能力が身に付かない原因になる場合もあるが、現代における便利なツールは、工夫次第では、初学者の練習に活用できる可能性も考えられる。

表 41-A 初学者への指導で困っていること等

| 回答内容         | 件数 |
|--------------|----|
| 耳から覚え読譜ができない | 4  |
| 練習を続ける難しさ    | 4  |
| レッスン時間の不足    | 3  |
| 音楽の良さを伝えたい   | 3  |
| 能力不足         | 2  |
| ゆっくり弾く大切さ    | 1  |
| 表現への応用       | 1  |
| マナー          | 1  |

表 41-B 初学者への指導で困っていること等(詳細)

|   |
|---|
| <p>保育者養成校での初学者へのピアノの指導でとくに困っている事、改善すべきと思うこと</p>   |
| <p>レッスンの時間が充分でないと感じる。時間に追われてしまうため、楽譜どおりの音を弾くことばかりで終わってしまい、その先の表現やよりよい演奏の追及までにたどりつけない。作業的に曲をこなしていくことになり、本来の音楽の喜びを味わうことができている学生も多いのではないかと感じる。</p>                             |
| <p>YouTube等でたいていの曲を聞くことができるので、どこまで楽譜から理解しているか疑問に思うことがある。<br/>鍵盤がピアノより小さいキーボードで練習する学生がおり、指や手の使い方にも気をつけて教えなければ、と思う。</p>   |
| <p>焦らずその学生の力に合った進め方をするように気をつけている。<br/>ピアノの上手、下手ではなく片手だけでもピアノ音楽のすばらしさを理解させる。そこに和音を奏したときの更なる素晴らしさを感じてもらう。</p>   |
| <p>レッスン時間が短いこと。<br/>まわりを気にせず弾き歌いの練習も出来る個室がもう少しあると良いと思う。</p>   |
| <p>スタート時にピアノは練習が大切だということを学生に理解してもらうことが重要だと思う。</p>   |
| <p>音符にふりがなを振る。<br/>覚えても消さない。<br/>ト音、ヘ音の音読に手間取る。</p>   |
| <p>ピアノ経験者は「毎日の練習」がある程度身につけているか、その必要性は分かっていると思われるが、初心者はこれまでに「ピアノの練習」が生活になかったため、短大生になってから生活の中に「ピアノの練習」を入れることがむずかしいのだと思う。実際に学生に聞いてそう感じた。</p>                                   |
| <p>練習時間不足の学生が多く、自学自習の確保が難しい学生が多い。また初学者に対しては、経験者よりも時間を充実させたい。ピアノが弾けるようになったときの楽しさ、喜びを体験させ、音楽を取り入れた保育の展開の充実、さらに保育者としての自覚につなげていきたい。</p>   |
| <p>ピアノを弾く技術。楽譜の通り、もしくは少し簡易的にアレンジし弾かせることはできるが、それを表現遊びに応用させる力を身につけさせたい。</p>   |
| <p>短時間で歌の伴奏がある程度できるようにするには、譜面を見ながら（鍵盤ばかり見ないで）、止まらないで（時には片手になっても）、1曲弾きとおすまでもっていきのは、学生の能力と努力にかかっている。導入のときの心構えをしっかり話す必要性を感じている。</p>  |
| <p>・過去の音楽でのイヤな思い出をまずは聞き出し、苦手意識を取り除いてからのスタートにすると成長が早い気がする。<br/>・今の世の中、スマホ生活になり、レッスンでもわからなくてもYouTubeにたよっている学生も少なくないようだ。興味を持たせるレッスンを私たち側も努力していかなければと思う。</p>                    |
| <p>耳で覚えるため、リズムの取り方やテンポが音源のまま演奏される場合が多く見られる。ゆっくり弾くことの大切さが理解されにくい。</p>  |
| <p>教本について。<br/>初学者は、突然子どもの歌の伴奏を弾きなさい、と言われても、本当に大変難しく、可哀想に思うことがある。<br/>音符の名前、休符、リズム等を教えるが、なかなか簡単にはいかないようだ。<br/>中央ドを中心にト音記号、ヘ音記号の音から練習できる教本で練習し、その上で子どもの歌の練習を始められるとよいと思う。</p> |
| <p>YouTubeを使って弾きまねで読譜をしなない場合があるので、楽譜の大切さを理解するように導く事。</p>  |
| <p>マニキュア、時計、ブレスレットなどをつけたまま授業を受けようとしたり、爪が伸びたまま弾いたりする学生がいる。どこまで指導すべきか悩むときがある。</p>   |

## 第2節 養成校でのピアノ初学者が抱える問題と対応

前節では、養成校でピアノの指導を行う教員への調査の結果から、様々な課題が浮き彫りになった。ピアノの初学者は、ピアノを演奏する動きそのものも未経験であり、苦手とする要素として示されたが、同時に、楽譜の音の高低の読みや、音符の長さ、リズムなど、楽典、ソルフェージュ的な音楽の基礎知識も未熟であることが調査により分かった。

ピアノの授業の中で、ピアノの演奏法そのものの指導は当然ながら、楽典やソルフェージュの内容の指導や、練習方法や、練習そのものの重要性を教えるといった、副次的な内容の指導までが必要であることが示された。

今井(2013)は、「大学入学前のピアノ経験の有無は、音楽やピアノ実技の成績に反映する」ことを明らかにし、「経験者の方が成績上位になりやすい」としている。同時に上級学年になると「初心者も相応の健闘をしていることが明らかになった」<sup>39</sup>とも言っている。これらのことから、養成校での音楽やピアノの初年度教育は、より丁寧で深い理解を求める必要がある、と言える。

また、阪本ら(2010)は、指導者や課題の「要求に応えられない学生は、弾く事に自信を持つことが出来ず、苦手意識ばかりが先行」してしまうこと、また「苦手意識を抱けば結果としてピアノ学習そのものが嫌いになる」<sup>40</sup>と指摘している。

学生の精神的な面についての意見は、今回の調査でいくつも見られた。初学者はピアノに対して苦手意識を持っていたり、ネガティブなイメージを持っていたりすることが多く、それに対して、ピアノ指導教員は、「否定的な言葉を使わない」、「少しずつ目標を持たせる」、「トライし努力することを大切にする」、「できるようになったら、喜んで励ます」、「小さな進歩を褒め、達成感や意欲を持って、楽しく練習できるように計らう」、「初学者は、突然子どもの歌の伴奏を弾きなさい、と言われても、本当に難しく、可哀想に思うことがある」といった、メンタル面に対する配慮を多少なりとも心掛けていることが明らかになった。このことから、ピアノ初学者が無理なくピアノ演奏に取り組むことができるように、初学者も対する教材や、課題の目的と内容、難易度の妥当性、また指導の際の対応や指導法も含め、改めて丁寧に検討を行う必要がある。

---

<sup>39</sup> 今井由恵「保育者・教育者養成におけるピアノ学習に対する意識変容に関する調査と分析」 p.106

<sup>40</sup> 阪本朋子ら「学生の「ピアノ苦手意識」克服への取り組み」 p.48



資料 2 養成校のピアノ教員への質問紙

保育者養成校における「初学者に対するピアノ指導」に関するアンケート

\_\_\_\_月\_\_\_\_日 お名前：\_\_\_\_\_（無記名でも構いません。）

◎以下の質問にご回答をお願いいたします。

・現在の勤務校 【 \_\_\_\_\_ 】 修学年数 【 \_\_\_\_年】

・ご自身のこれまでのピアノ指導の経験年数 【 \_\_\_\_年】

・養成校でのピアノ初学者に対する指導の経験年数 【 \_\_\_\_年】

I. 保育者養成課程でのピアノ初学者に対する指導を行うとき、心掛けている指導の要素はありますか。主なこと、大切だと思うことを以下から選んで、重要だと思う順に番号で記入欄にお答え下さい。（複数回答可。）その他にもあれば、【その他】の欄にご記入をお願いいたします。

- ①姿勢      ②手・指の形      ③椅子の高さ      ④タッチ  
⑤音の高低の読み方      ⑥音価(音符の長さ)      ⑦リズムの読み方      ⑧テンポの取り方  
⑨強弱      ⑩フレーズ      ⑪音色、音の美しさ      ⑫和音の弾き方  
⑬メロディーと伴奏のバランス      ⑭運指、指使い      ⑮ポジションの移動  
⑯マナー、礼儀      ⑰学生の精神的な面(劣等感を持たないように、など)

【記入欄】（重要だと思う順にお答えください。）

【その他】

II. 保育者養成課程でのピアノ初学者が苦手だと思う要素について、以下から選んで（複数回答可）、○を付けて下さい。その他にもあれば、【その他】の欄にご記入をお願いいたします。

- ①両手別々の動き      ②手指の使い方、フォーム      ③運指  
④同音連打、音の保持      ⑤テンポの保持      ⑥楽典の知識、ソルフェージュの能力の不足

【その他】

Ⅲ. Ⅱで選んでいただいた、初学者が苦手だと思う要素に対して、ご自身が行っている効果的と思われる指導法を支障のない範囲で、簡単にお答え下さい。

(例)

【 両手別々の動き 】に対して

まず片手でゆっくりと、鍵盤を目と指でひとつずつ確認しながら弾かせる。片手ができたら、そのテンポよりも遅く、両手で目と指でひとつずつ確認しながら弾かせる。

【                   】に対して

【                   】に対して

【                   】に対して

【                   】に対して

【                   】に対して

- IV. 保育者養成課程でピアノを指導する場合、ほとんどの場合 18 歳以上の年齢の学生に対する指導になりますが、一般的にピアノを始めるのは幼児期、児童期が多いと考えられます。
- 幼児や児童と、18 歳前後の青年期の学生とでは、体格の違い、理解力の速さ、などに違いがあると考えられますが、幼児・児童の初学者へのピアノ指導と比べて、18 歳前後の初学者へのピアノ指導で 気をつけていること、心がけている事があれば、簡潔にご記入下さい。
- (幼児、児童への指導のご経験がある方のみ、ご記入をお願いいたします。無い場合は「なし」とご記入下さい。)

- V. 保育者養成校での、初学者へのピアノの指導でとくに困っている事、改善すべきと思うことはありますか。ご意見を自由にご記入ください。

ご協力をどうもありがとうございました。

※このアンケートの内容や項目等について、ご助言をいただけますとありがたく存じます。  
何かございましたら、簡単に構いませんので、ご指導、ご助言をお願いいたします。

## 第5章 教材の作成と指導の実践

### 第1節 保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ教材の変遷

#### 第1項 日本におけるピアノ教育初期の教育

日本で初めての政府の許可を得た正式なピアノ教育は、1879年(明治12年)に始まった式部寮雅楽課伶人たちへの松野クララ(旧姓クララ・ツィーテルマン Clara Zietelmann 1853-1941)によるピアノ指導であった。<sup>41</sup> これより先に、1876年(明治9年)に開設された東京女子師範学校附属幼稚園の保姆(保母の旧表記)たちにクララによるピアノの手ほどきがされていたことが推測される。武石(2009)は、明治初期の公のルートで輸入されたピアノについて購入の経緯とメーカー、台数について調査し、公立の教育機関へのピアノの導入が、幼児教育・体操教育・音楽教育の3分野にわたってそれぞれの立ち上げとともに行われたこと、また第1段階が幼児教育分野であったことを明らかにしている。第1段階が音楽分野ではなく、幼児教育分野であったことは、特筆されるべきことである。その中で、「明治9年に幼児教育用のピアノが1台、東京女子師範学校附属幼稚園に導入された」ことを推測している。<sup>42</sup>

クララによるピアノ指導は、東京女子師範学校附属幼稚園、保姆練習科に始まり、式部寮雅楽課(後の音楽取調掛、東京音楽学校)、また学習院、学習院女子部でも行われた。その後の明治の日本では、官立の音楽取調掛ばかりでなく、師範学校や、私立のプロテスタント系女学校でもピアノ教育の重要な拠点となっている。<sup>43</sup> クララはドイツ人であったが、雅楽課の伶人たちへの指導には、アメリカ人でドイツ留学もしたリチャードソン(Nathan Richardson 1827-1859)の『ニューメソッド』(*Richardson's new method for the piano-forte*)を教則本として使用していた記録が残っており、また日本のピアノ教育導入の重要な役割を果たし、バイエルを導入したメーソン(Luther Whiting Mason 1818-1896)もアメリカ人であり、そのメーソンに助言をしたとされるエメリー(Stephen Albert Emery 1841-1891)やトゥルジェー(Eben Tourjée 1834-1891)はアメリカのニューイングランド音楽院の教授であり、さらにのちの東京音楽学校、女子高等師範学校でピアノを指導した瓜生繁子(1862-1928)(旧姓永井)は岩倉使節団の女子留学生としてアメリカに留学しヴァッサーカレッジでピアノを学んでいたことなどから、日本のピアノ教育の導入期にはアメリカの音楽教育の影響を大きく受けていることが明らかである。

#### 第2項 メーソンと日本のピアノ教則本受容

1879年(明治12年)、音楽取調掛が教育音楽の調査研究と、教師養成を兼ねた機関として、文

<sup>41</sup> 中村理平 『洋楽導入の軌跡』 p. 215

<sup>42</sup> 武石みどり 「明治初期のピアノ-文部省購入楽器の資料と現存状況-」

<sup>43</sup> 坂本麻美子 「米国メソジスト派が導入したピアノ教育」 p. 51

部省内に設置された。日本で最初の学校音楽教師と、西洋音楽の演奏家が養成された。のちの1887年(明治20年)には、音楽取調掛は東京音楽学校(現在の東京芸術大学)となった。1880年(明治13年)、この機関に最初に雇われた外国人教師がメーソンである。このとき、メーソンが日本に初めて『バイエルピアノ教則本』を持ち込んだ、というのが定説であるが、安田(2012)は、バイエルを選定し助言したのは、当時ニューイングランド音楽院のピアノ教授であったエメリーであったことを明らかにしている。

1880年(明治13年)5月25日付の文部省官立学務局長が音楽取調掛の御用掛であった伊澤修二へ宛てた文書の中に、米国で購入したピアノ、ならびにピアノ教則本の領収書を請求するための購入目録が残っており、バイエル20冊と一緒に購入されたものに、『エメリース20冊』が含まれている。「エメリース」とは人名であり、ピアノ教則本のタイトルではなく、正しくはエメリー作曲の《8つの易しい連弾曲集 作品26》(*Abent zu House (An Evening at Home) 8 Leichte, vierhändige stücke für das piano*)であった。<sup>44</sup>

中村はエメリーについて「エメリーもまた日本の初期音楽界の隠れた恩人の一人であった」<sup>45</sup>と言っている。メーソンが音楽取調掛で講義を担当していた当時、エメリーはニューイングランド音楽院のピアノ教授であった。長野県の上伊那郷土館(現在の伊那市創造館)に、エメリーがメーソンに宛てた書簡が残されており、その中で、メーソンは和声の講義でエメリーの著作「*Elements of Harmony*」(Authur P. Schmidt, 1880)の中からかなり自由に抜粋し講義を行っていたこと、和声の生徒の解答用紙をアメリカのエメリーに送り、添削を受けていたこと、またエメリーが選んだピアノ教材について生徒にとって適当かどうか尋ねていたこと(このことから、『バイエルピアノ教則本』を含む音楽取調掛での初めてのピアノの教材をエメリーが選んでいたことが分かる)が記されている。

安田は『バイエルの謎』の中で、エメリーがニューイングランド音楽院でピアノを教えていた当時の教則本とバイエルとの関係を明らかにしている。当時の音楽院では音楽院が独自に編集した『ニューイングランド音楽院ピアノメソッド』という教則本が使用されていた。序文の中で音楽院長のトゥルジェーが、「技術課題と練習曲にはプレディー、ベルティーニ、チェルニー、バイエル、デュヴェルノワ、ケーラーその他の標準的な作曲家のものから採った」と言っており、初学者が学ぶべき作曲家として、バイエルをあげていた。音楽院のピアノのカリキュラムは5段階の課程に分かれており、そのうち第3課程までが基礎課程で、この第3課程まで『音楽院ピアノメソッド』が使用された。教則本は、3部に分かれており、それぞれが第1課程用、第2課程用、第3課程用となっている。このうちバイエルは第1部に26番、60番、66番、79番、92番

<sup>44</sup> 安田寛 『バイエルの謎 日本文化になったピアノ教則本』 p. 39

<sup>45</sup> 中村理平 『洋楽導入者の軌跡-日本近代洋楽史序説-』 p. 521

が、第2部の最初に106番が採用されている。この教則本の編集者は明らかになっていないが、ニューイングランド音楽院の創立当初からピアノ指導に関わっていたエメリーが、音楽院独自の教則本の編集に携わっていたと考えるのは、メーソンに音楽取調掛での最初のピアノ教則本を問われてバイエルを勧めていることから、自然であるといえる。

のちにバイエルは日本において初学者に適した教則本として、絶対的な地位を得る。『東京保育専門学校五十年史』の中では、1929年(昭和4年)の記録に、バイエルを用いてピアノの授業が行われていたことが記されている。また、現在出版されている保育士、幼稚園教諭養成課程、また小学校教員養成課程に対応したピアノ教材の中には、バイエルを基礎として編集されているものが少なくないことや、保育士、幼稚園教諭、また小学校教諭の採用試験にピアノ実技試験としてバイエルが課されることなどから、明治時代からの日本の保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ教材の中でバイエルが継続して使用されてきたことが分かる。

辻・鹿戸・田中(2017)は、日本の保育者養成校で使用しているピアノ教則本について、2016年度時点で、教則本を授業で使用している養成校のうち、約60%がバイエル、またはバイエルを底本とするテキストとして採択していることを明らかにしている。このことから、現在においても、保育者養成におけるピアノ教材として多くの養成校がバイエルを用いていることが分かる。

### 第3項 ピアノ教育初期の教則本

本項では、松野クララが使用したりチャードソンの『ニューメソッド』、メーソン、エメリーが導入した『バイエルピアノ教則本』、瓜生繁子が自身も学び、指導に活用した『ウルバツハ教則本』、トゥルジェー、エメリーが作成に関わっていると考えられ、バイエル導入にも関わっており、初期の日本のピアノ教育で使用された記録が残っている『ニューイングランド音楽院ピアノメソッド』の4つの教則本について考察する。

#### 第3項(1) バイエルピアノ教則本

バイエル(Ferdinand August Beyer 1806-1863)はドイツで生まれ活躍した作曲家である。ライプツィヒの聖トーマス教会付属学校で学び、その後ライプツィヒ大学に入学し作曲家として活動する。スイスやドイツなどを転々とし、最終的には楽譜出版社のショット社の専属編曲者のような形で仕事をしながら、マインツに定住した。特に当時流行した管弦楽曲やオペラをピアノ曲に編曲した作品を多く残している。ピアノ教則本は1850年、バイエルが44歳のときに出版された。

日本で初めてのバイエルの受容は、前述のとおり、1880年(明治13年)、音楽取調掛に受入番号1番の楽譜として受け入れられたものである。バイエルの楽譜は、メーソンによって日本に持

ち込まれ、そこにはエメリーの助言があった。このアメリカから持ち込まれたバイエルの楽譜は、出版年は不明だが、ボストンの出版社の Carl Prufer 社版であった。当時 20 冊持ち込まれたが、現在は 16 冊が東京芸術大学図書館に所蔵されている。国の公的な教育機関に初めて教育用の楽譜として持ち込まれたものの 1 つが「バイエル」ということになる。『バイエルピアノ教則本』は日本での受容からこれまで 130 年以上の年月を経てもピアノ入門書の 1 つとして圧倒的な存在感を示している。

メーソンが帰国したあと、1882 年(明治 15 年)から音楽取調掛でピアノ教育を担当したのがアメリカ留学から帰国した瓜生繁子であった。瓜生は教則本として『ウルバッハ教則本』を導入し、バイエルとウルバッハが音楽取調掛での 4 年間のピアノ教育の課程に組み込まれた。しかしウルバッハにはクーラウ(Friedrich Kuhlau 1786-1832)やクレメンティ(Muzio Clementi 1752-1832)のソナチネなどが含まれ、当時のピアノ初学者にとっては演奏するのは困難なものもあった。そのため、1890 年(明治 23 年)、式部寮雅楽課伶人で、松野クララやメーソンにピアノの手ほどきを受け、のちに東京音楽学校の教官となった奥好義は、親しみやすく音楽的な教則本が必要であると考え、『バイエルピアノ教則本』をもとにし、バイエルを簡略化した『洋琴教則本』を出版した。この『洋琴教則本』は東京音楽学校だけでなく、師範学校を中心に用いられ、日本にバイエルが広く普及することとなった。

安田はバイエルの日本での受容期から現代までの歴史を、「簡略化」から「翻訳」、そして「拡大化」という態度で向き合ってきたと定義している。1890 年の奥好義の『洋琴教則本』による「簡略化」から始まり、日本に定着したバイエルは、大正時代になって、ペーターズ版などの権威のある出版社の版を翻訳した版を出版しようとする変化を迎える。1915 年(大正 4 年)にペーターズ版を底本とした『バイエル著 ピアノ教則本』が日本音楽協会から出版され、1924 年(大正 15 年)には萩原英一編著『バイエルピアノ教則本』が共益商社書店から出版されている。現在の『標準バイエル教則本』や『全訳バイエルピアノ教則本』(いずれも全音楽譜出版社)はこの流れから続いている。その後、戦後の高度成長期のピアノの普及によるバイエルの爆発的なブームが起こる。特に、園田清秀、一宮道子、田中スミ、酒田富治により、音感教育や、子ども向けの配慮などを取り入れ、楽典的内容や、指使いの指定、併用曲の追加など、拡張したバイエルが普及した。ピアノを習う入門書として「バイエル」が定着し、日本の文化としても「バイエル」という名前が浸透することとなった。多くの出版社からさまざまな「バイエル」が出版され 1995 年にはおよそ 40 種類のバイエルが出版された。

しかし 1990 年前後から、バイエルへの風向きが変わり、バイエル批判が始まった。バイエル批判を決定的にしたのは、ロナルド・カヴァイエと西山志風共著の新潮選書『日本人の音楽教育』である。1897 年に初版が出版され、1997 年までに 13 回重刷されている。この頃から、ピアノを学ぶにはバイエルだけでは足りない、バイエルは使用しない、といったバイエル離れが始まった。

バイエルが批判された理由として、『日本人の音楽教育』の中で、カヴァイエは5つの理由を挙げている。1つ目として、新しい音楽教育メソッドや、ピアノ入門教材が数多くある今日に、130年前(『日本人の音楽教育』出版当時)の時代遅れの教材を使う理由はない、と言っている。ただし、古いことだけが悪いのではなく、バッハ(Johann Sebastian Bach 1685-1750)の《アナ・マグダレーナのためのクラヴィーア小曲集》(*Die Klavierbuchlein für Anna Magdalena Bach*)のように古くても芸術的に素晴らしく、初学者向きの比較的易しい曲を一部に含んだものもある、とも言っている。2つ目は、つまらなく、退屈な曲ばかりであること、を挙げている。子どもにとって、バイエルの曲は音楽的な刺激を掻き立てず、イメージーションを膨らませないものであり、カヴァイエは、ここでバイエルはバッハと異なり「二流、三流の作曲家である」と言い切っており、とくに最初の部分は極めて単純なメロディーに、単純なハーモニーが伴うだけの二流の音楽家の典型である、と批判している。また同時に、チェルニー(Carl Czerny 1791-1857)のことも批判している。3つ目として、初心者、とりわけ幼い子どもの初心者にとって、指の運びが難しい曲が含まれていることを指摘している。ピアノという楽器が元来大人向けに作成されており、幼い子どもが弾く場合には、ピアノの鍵盤の重さで子どもの指が不自然な動きをしないような十分な配慮が必要だが、バイエルはその配慮が十分ではない、と言っている。4つ目には、教則本で使用する鍵盤が20個と限られていること、を挙げている。現在のピアノは88の鍵盤があるのになぜ20しか使わせないのか、と言っている。5つ目は、「最大の問題点」として「指の運動」のための練習しかなく、ピアノを弾くのに必要な手、下腕、上腕、肩、腰などの運動のための練習がまったく欠けている、と論じている。ただし、安田はこのバイエル批判について『バイエルの謎』の中で、カヴァイエは良いテキストを聞かれた際にクルターグ(Kurtág György 1926-)の練習曲を提案しているが、カヴァイエはクルターグの直弟子であり、著作の中で自身の先生であるクルターグのピアノ教則本を推薦するために、バイエルを扱き下ろした、と補足している。

バイエルの序文を読むと分かることだが、バイエル自身がこの教則本を「子どもの初歩の段階で使用する教則本」、と言っている。しかし日本でのバイエル受容ではまず大人が使用し、序文のバイエルの意図が十分に理解されていなかったことが批判の理由として考えられる。現在の日本で使用されているピアノ教則本では、例えば1951年に音楽之友社から出版された『メトードローズ・ピアノ教則本』(エルネスト・ヴァン・ド・ヴェルド(Ernest Van de Velde 1862-1951)著、安川加寿子訳)のように、教則本のほぼはじめから右手のト音記号(高音部記号)とともに左手のヘ音記号(低音部記号)が出現し、右手と左手が異なる音部記号での大譜表の練習曲が課されているが、それに比べてバイエルでは53番まで両手ともト音記号の大譜表で演奏する指定になっており、初学者へのヘ音記号に対する抵抗を生む要因として捉えられる。また拍子についても51番までは全て単純拍子で書かれており、複合拍子を学ぶ機会が後半までない。106番まで



の全曲を通して、ポリフォニーの要素が含まれるのは60番の1曲のみであり、バロック音楽の導入を学ぶことができないことなどが、他の教材に比べて足りない部分であると考えられる。

現在では、しかしながらバイエルが日本のピアノ教育界において、ないがしろにされているわけではない。2017年9月現在、「バイエル」というタイトルが楽譜の名称に含まれ、『バイエルピアノ教則本』をもとにして出版されている楽譜を、併用曲集やワークブック、また「バイエル〇〇番程度」といった曲集を除き、主要な楽譜出版社別に調べてみると、全音楽譜出版社から18種類、音楽之友社から8種類、ドレミ楽譜出版社から28種類、ヤマハミュージックメディアから8種類、カワイ出版から3種類が出版されており、『こどものバイエル1』や『こどものバイエル2』のように、数巻に分かれて出版されているものは、それぞれを1種類として数えている。) 現在でもピアノの入門段階においての、バイエルの存在感を示していると言える。また、現在発行されている保育士、幼稚園教諭養成課程、また小学校教員養成課程に対応した養成校向けに作成されたピアノ教材の中には、バイエルを基礎として編集されているものが少なくない。2016年度時点で、教則本を授業で使用している養成校のうち、約60%がバイエル、またはバイエルを底本とするテキストとして採択しているという研究結果<sup>46</sup>や、現在でも保育士、幼稚園教諭や小学校教諭の採用試験の課題として課されることから、現在においても、保育者、小学校教員養成におけるピアノ教材として多くの養成校がバイエルを用いているということが分かる。

### 第3項(2) バイエルの原題と序文

日本では「バイエル」という作曲家の名前だけで『バイエルピアノ教則本』のことを示すまでに一般的になっているが、原題のタイトルには作曲家自身の名前は入っていない。音楽之友社から出版されている『「バイエル」原点探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』によれば、初版はバイエルが数多くの編曲した作品を出版したドイツのショット社から、フランス語で出版されている。原題の表記は「*École Préliminaire de Piano*」(ピアノのための予備的な教本)であった。当時の音楽文献カタログであるホフマイスターの月刊楽譜カタログ(1851年1月号)には、原題がドイツ語で次のように表記され、「*Vorschule im Klavierspiel für Schüler des zartesten Altes*」(若い生徒のためのピアノ演奏の予備教本)その後括弧書きでフランス語表記も併記されている。

序文には、教則本がピアノを全く初めて弾く人のために、また子ども、特に小さい子どものために作られたことが記されている。現在の『バイエルピアノ教則本』で、全音楽譜出版社の『全訳

---

<sup>46</sup> 辻、鹿戸、田中「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向-全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基づいて-」p.33

バイエル教則本』には、ドイツ語と日本語での序文の表記があり、日本語訳は

この本は、はじめてピアノをひく人が最もやさしい方法で、良いピアノ奏法を会得するように手ほどきをするという目的をもっています。これはこどものために、特に幼い者のために、あまり広い範囲にわたらないで、段階を追って進んでいくように考慮されています。

ピアノのあらゆる困難な奏法を完成し、装飾音をもれなくとりあげて検討するなどということが、ここで目的とされていないことは前に述べたとおりであります。ただ初歩の学習書があっても良いと思うので、生徒が1年か2年けいこをするために必要な教材を示しただけであります。

このような本は今までなかったといえましょう。そしてこの本はこどもが幼い時から先生の教授をうけるようになるまでの間、音楽の素養がある両親にとっても入門指導書として役立つものと思います。

フェルディナント バイエル

(全音楽譜出版社『全訳バイエル教則本』序文より引用)

とある。

ただし、小野・多田・長尾・安田らによる『「バイエル」原点探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』の初版譜の序文を見ると、全音楽譜出版社のものは、ドイツ語も日本語も序文の最後の一文が省略されていることが分かる。全音版の省略された序文は以下のとおりである。

(原語 (ドイツ語) )

Eine ausführliche Klavierschule, welche bis zu dem Grade mittlerer Schwierigkeit reicht, gedenke ich später folgen zu lassen.

(『「バイエル」原点探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』 p.1 より引用)

(日本語訳)

私はこの後に、中級程度の難易度まで進む詳しいピアノ教則本を出版することを考えている。 (『バイエルの謎 日本文化になったピアノ教則本』 p.20 より引用)

このように、バイエルが『バイエルピアノ教則本』のあとに、さらに進んだ学習者のためにもう少し難易度が高い教則本を作成しようとしていたことが分かる。残念ながらこの意志は遂げられることがなかった。

### 第3項(3) リチャードソンのニューメソッド

リチャードソンは、1827年アメリカのマサチューセッツで生まれ、ボストンでピアニスト、作曲家、教育者として、また音楽出版社としても活躍した。1848年にはヨーロッパへ渡り、イグナーツ・モシェレス (Ignaz Moscheles 1794-1870) や、アレクサンダー・ドライショク (Alexander Dreyschock 1818-1869) と一緒に学んだ。ドライショクとは約2年間ともに学び、この期間に学んだ練習法、特にドライショクの練習法には大いに影響を受け、後に作られるピアノ教則本の一部に使用された。その後はアメリカとヨーロッパを行き来し、特にピアノの指導法について、解剖学的な手の使い方、ピアノを弾く際の筋肉や腱の役割についての研究を行った。1858年秋に『ピアノフォルテのためのニューメソッド』が完成し、翌1859年に OLIVER DITSON 社から出版された。同年11月に32歳という若さで亡くなっている。『ピアノフォルテのためのニューメソッド』は、1859年の出版から20世紀初頭までの最も重要な貢献の一つである。

記録に残っているものの中で、国の公式な機関で松野クララにより用いられたピアノ教則本として、最初に使用されたものがこのリチャードソンによる『ニューメソッド』ということになる。また、1879年(明治12年)に創立した長崎の活水女学校(現在の活水女子大学)の、1889年(明治22年)の音楽科の予科1年と予科2年のカリキュラムにリチャードソンの『ニューメソッド』が用いられていた記録が残っている。

2017年現在、ノースカロライナ大学チャペルヒル校 (University of North Carolina at Chapel Hill) のインターネットアーカイヴで、OLIVER DITSON & CO. 社が1859年に出版した初版の全てのページを閲覧することができる。

タイトルと副題は以下の通りである。

(原題) : 「*Richardson's new method for the piano-forte*」

: an improvement upon all other instruction books in progressive arrangement, adaptation and simplicity

: founded upon a new and original plan, and illustrated by a series of plates, showing the position of the hands and fingers

: to which is added rudiments of harmony and thorough-bass

(訳) : 『リチャードソンによるピアノフォルテのための新しいメソッド』

: 他の全ての教則本の進化的な編曲、改作と単純化による改善

: 新しく独創的な計画に基づいており、イラストで手と指の位置を示している

: 和声と通奏低音の基礎が加えられている

序文には、リチャードソン自身が多くの著名な作曲家や教授陣に相談しながら教則本の作成にあたったこと、彼らが、ピアノを勉強する課程において、生徒の迅速な成長のために、生徒にとって難しい進め方をすることや、多くの重要な機能の複雑さはいつも認めない、と言っている

ことが記されている。

さらに、フンテン(Franz Hüntten 1793-1878)、ベルティーニ(Henri Bertini 1798-1876)、チェルニー、バイエル、クレメンティ、モーツァルト(Wolfgang Amadeus Mozart 1756-1791)、ヘラー(Stephen Heller 1813-1888)、ドライショク、メンデルスゾーン(Felix Mendelssohn 1809-1847)、タールベルク(Sigismund Thalberg 1812-1871)、などの有名な作曲家の練習曲や課題は、生徒が音楽的知識を得られるように、多くの場合そうであるように、ある特定の作曲家だけの単調な練習に自分自身を限定するのではなく、これらの有名な巨匠たちの様式をある程度身に付けるために取り入れたこと、また作品にはあえて作曲家名を記さなかったこと、初歩の段階からピアノ演奏の芸術的な最高の音楽を生徒が身に付けるために、一步一步徐々に生徒がまっすぐ進めるよう努力したこと、これまでの教則本にあった不要なつまらない exercises [練習課題] を避け、練習課題をメロディーの形をもとに作成し、ドライな練習で生徒が音楽に無関心にならないよう、生徒が興味と喜びを持って練習できるようにした、などのことが書かれている。

腕、手および指の位置を示す図版については、ドイツの教授の中で最も権威のあるケーラー(Louis Heinrich Köhler 1820-1886)の論文から選出していることが記されている。

序文に続いて4ページにわたり、ケーラーの論文から選出された10のピアノを弾く際の腕、手、指のポジションが図とともに解説されている。

その後は、音価と記譜を中心とした楽典的内容、続いて装飾音(前打音やターンなど)やトレモロ、トリルの奏法がパターン別に細かく説明されている。

次に、鍵盤と五線譜の関係について、ピアノを弾く際の位置(ポジション)について、運指について、練習時間についての文章での助言があり、本編が始まる。

本編では、指使いが記入されているが、現在普及しているピアノの指使いである、親指が1、人差し指が2、中指が3、薬指が4、小指が5の番号ではなく、親指が+、人差し指が1、中指が2、薬指が3、小指が4という、ヴァイオリンの左手の指番号とほぼ同じである、19世紀までピアノにも用いられた古い時代の指使いで記入されている。

本編は238ページあり、指の練習課題と、練習曲、「楽しみ(Amusement)」と題された楽曲とで構成されている。序文にあるように、バイエルの59番、またチェルニーの《初歩者のためのレクリエーション》から、モーツァルトの《きらきら星変奏曲》のテーマのみ、またベルティーニの《25のやさしい練習曲 Op. 100》から、クレメンティの《ソナチネ》、メンデルスゾーンの無言歌集から《春の歌(Op. 62-6)》などの作品が採用されている。始めの数作品は両手ト音記号の大譜表だが、すぐに左手にヘ音記号が導入され、右手ト音記号、左手ヘ音記号の大譜表での表記となる。手首のポジションを移動せずに両手とも5音、6音のみで弾ける練習曲ははじめの数作品だけで、重音や跳躍はバイエルより早い段階で登場している。また、すべての曲に指番号が細かく指定されている。さらに、練習課題は非常に系統立てて配置されており、その登場順序にも

配慮が感じられるが、初学者にとっては、簡単な課題ではない。例えば、右手の5指を1の指から順にド、レ、ミ、ファ、ソのポジションに置き、左手も同様に5の指から右手の1オクターヴ下の同じ音に配置し、両手でド、レ、ミ、ファの4音を同時に全音符で保持し、ソの1音のみ8分音符で同音連打し、そのパターンで1音ずつ順に上行し、1オクターヴ進行した後、下行する、という練習課題がある。(プレディー(Louis Plaidy 1810-1874)やピシュナ(Josef Pischna 1826-1896)、ドホナーニ(Ernst von Dohnányi 1877-1960)の練習曲集、また『メトードローズ・ピアノ教本』にも同様の練習曲がある)この練習課題が一定の間隔で登場し、後半に進むに従って、保続する音の組み合わせや、保続しない同音連打や2度、3度4度の連続で弾く音が増え、かなり複雑で難易度が上がってくる。指の独立のための良い練習であるが、初学者にはかなりの忍耐が強いられる課題である。同様に、音階も、右手、左手が単音で別々に始まるが、すぐに両手単音でオクターヴ間隔での平行する音階練習から始まり、中央のドの音から両手で反行する音階、さらに6度間隔での平行、6度の反行、4度の反行、3度の反行、5度の反行、3度の平行、さらに右手、左手とも単音ではなく、オクターヴでの平行、反行、3度重音での平行、反行、3度重音での半音階の平行、反行などが取り入れられている。他に分散和音も同様である。巻末には和声と通奏低音の基礎が掲載されている。全体を通して、基礎的な奏法を身に付けることに重点が置かれ、また目的は明確ではあるが、練習するために楽典的な知識が必要な課題が多く、全くの初学者や幼い子どもにとっては、とても難しい印象である。

### 第3項(4) ウルバツハ教則本

ウルバツハのピアノ教則本が音楽取調掛で使われるようになったのは、前述のとおり明治15年以降のことである。音楽取調掛で教えていたメーソンが帰国することになり、帰国後、(1882年(明治15年)7月)音楽取調掛で洋琴(ピアノ)伝習の担当となったのは、1871年(明治4年)から10年間のアメリカへの留学を経て日本に帰国した瓜生繁子であった。瓜生はアメリカで自身も学んだウルバツハの教則本を音楽取調掛でのピアノ指導に導入した。ウルバツハ教則本は、瓜生も在学中に教えを受けた、ヴァッサーカレッジのピアノの教授であったエリザ・M・ウィリーがドイツ語の原版を英訳したものである。<sup>47</sup> 瓜生が教員としてピアノ指導を行うことになった1882年(明治15年)の8月に、教育プログラムが大幅に修正され、ピアノ教育は4年間で行うことになり、教科規定も新しく細かく具体的に編成された。以下は教科規定のうちの、ピアノ実技の主要なものである。

---

<sup>47</sup> 生田澄江 『舞踏への勧誘 日本最初の女子留学生永井繁子の生涯』 p.138

洋琴

第一学年前期・・・一週九時

右手, 左手, 雙手練習

「バイエル」氏教則本ヲ用ヒテ右手練習及ヒ左手練習ノ両手法ヲ終リ雙手ノ練習ニ進ミ  
其第一課ヨリ第六十四課マデヲ授ク

第一学年後期・・・一週九時

雙手練習

「バイエル」氏教則本ヲ用ヒテ雙手ノ練習ヲ授ケ其第六十五課ヨリ第百五課ニ至ラシム

第二年前期・・・一週九時

手指運用法, 長音階練習等

「ウルバヒ(ウルバツハ)」氏教則本ヲ用いて手指運用法ヲ授ケ其第七十二課ヨリ第百零  
九課マデヲ授ケ兼テ長音階ノ各調ヲ練習セシム

第二学年後期・・・一週九時

前期ノ法ニヨリテ「ウルバヒ」氏教則本第百十課ヨリ第百四十六課マデヲ授ク

第三学年前期・・・一週八時

粧飾弾法, 短音階練習等

「ウルバヒ」氏教則本ヲ用ヒテ諸種ノ粧飾弾法ヲ授ケ其第百四十七課ヨリ第百六十五課  
ニ至リ兼テ短音階ヲ練習セシム

第三学年後期・・・一週八時

粧飾弾法, 歌曲練習等

前期ノ法ニヨリ「ウルバヒ」氏教則本第百六十六課ヨリ第百八十四課マデヲ授ケ兼テ唱  
歌掛図中ノ歌曲其他進行曲連弾曲等ヲ練習セシム

第四学年前期・・・一週八時

半音階練習, 歌曲練習等

「ウルバヒ」氏教則本ヲ用ヒ半音階ニ就キ第八音第六音[オクターヴ, 六度]等ノ練習ヲ  
授ケ其第百七十五課ヨリ第百九十七課ニ至リ兼テ高等ノ学校用歌曲ヲ練習セシム

第四学年後期・・・一週六時

前期ノ法ニヨリテ「ウルバヒ」氏教則本第百九十八課ヨリ第二百零九課ニ至リ且各種ノ  
歌曲ヲ授ケ又既ニ学習セシトコロノモノヲ復習セシム

(東京芸術大学音楽取調掛研究班編, 浜野政雄・服部幸三監修『音楽教育成立への軌跡』

p. 347, 348 より)

バイエルが1年で終わるのに対し、ウルバッハは2年から4年までの3年間を通して使用されていることから、ウルバッハのほうがバイエルよりも高い難易度の教則本であること、またウルバッハの方を重要視していたことが分かる。

ウルバッハの人物像については、ドイツで活躍し『ウルバッハ教則本』を作成したこと、またこの教則本以外に、1886年に《*Goldenes Melodienbuch Musikstücke Karl Urbach Piano alte Klaviernoten Op. 78*》という作品が出版されていることくらいしか分からず、人物についての詳しい情報は得られなかった。

音楽取調掛で使用され、現在東京芸術大学図書館に所蔵されている『ウルバッハ教則本』はドイツ語第8版の英訳で、ニューヨークのE. Schubert社から、1881年に出版されたものであり、したがって初版は1881年よりも前に書かれたと考えられる。ライプツィヒの楽譜出版社であるホフマイスター社の音楽文献カタログのインターネットデータベースには一番古い記録として、1878年に、原題「*Preis-Klavierschule*」で出版されたことが残っている。またこの記録はオーストリア国立国会図書館のデジタルデータベースでも確認することができたので、初版は1878年と考えられる。

比較的長い序文は、この教則本でピアノ演奏における徹底した基礎を指導する、ということと、生徒の個性、才能、身体的、精神的発達、熱意、勤勉さなどによって練習にどれくらいの時間を費やさなければならないかは決まっていはいない、ということから始まる。最初の練習には、機械的および技術的な問題の基本原則を、記譜法、リズム、音程、ハーモニー、その他の音楽的アイデアを含み、取り入れている。さらにこの教則本が4つの異なる段階に分かれており、常に各段階が慎重に研究されることによって、徐々に芸術的な完成度が高まっていく、と記されている。

国府(1999)は、『ウルバッハ教則本』について、先行研究を踏まえ、順序よくピアノ奏法が学べ、技術的側面と音楽的側面の両方が学習できるよう構成されており、ただピアノを弾くことを学ぶだけでなく、基礎的な楽典や和声の内容が学べ、簡単な作曲を可能にする能力育成の可能性も見いだせるが、指の練習課題が身体的にかなり困難なものであること、また取り上げられている小品が音楽的に無理があること、を指摘している。

筆者は筑波大学図書館所蔵の1886年にアメリカのOLIVER DITSON社から出版された、英語訳と原語のドイツ語の両方が記された「URBACH'S PRIZE PIANO SCHOOL」を閲覧することができ、内容を確認した。練習曲は第1段階から第4段階の最後まで、1番から209番の課題で構成されている。序文に続き、当時のピアノの種類と鍵盤の音域などが図と文章で説明されている。続いてリチャードソンの『ニューメソッド』と同様に、ピアノを弾く手や腕の形が図と文章で示されており、さらに五線譜の読み方、音部記号、音符の種類と長さの説明が丁寧にされ、ここまでに9ページ使われている。第1段階は1番から71番まであり、始めのうちは『バイエルピアノ教則本』と同様に両手がト音記号の練習課題が続く。57番からが右手がト音記号、左手がヘ音記

号の大譜表の表記となる。音楽取調掛では第2学年から、ウルバッハの第2段階から教材として用いられたが、これは1学年にバイエルが使用されており、ウルバッハの第1段階がバイエルとほぼ同程度の練習曲であるためであったと考えられる。異なるのは、ウルバッハの48番から55番までの練習曲が、リチャードソンにも採用されていた、5指で、ド、レ、ミ、ファ、ソの5音のうち1の指でド、2の指でレを交代で弾き、その間3、4、5の指はミ、ファ、ソを全音符で保続する、というプレディーやピシュナのような保続音付きの指の独立のための練習課題が含まれていることである。第2段階は72番から146番までであり、保続音や、3度の重音、シャープやフラット、スラーとスタッカート、アクセント、6度の重音、音階の予備練習、長音階、短音階、民謡の連弾曲やコラルの練習曲が含まれる。基礎的な内容を網羅しているが、バイエルと比べると幾分難しい印象である。第3段階は装飾音(前打音、ターン、トリル、プラルトリラー、シュネラー、モルデント、アルペジオ)の説明から始まり、147番から183番までの練習曲で構成されている。第2段階で学習したテクニックを発展した内容であり、3度、6度の同音連打や重音での音階、3和音、半音階の練習曲や、2オクターヴの長音階と分散和音、右手と左手での3度と6度の音階練習、その間にモーツァルトやウェーバー(Carl Maria von Weber 1786-1826)のオペラなどのピアノ編曲(独奏用、連弾用)、クレメンティの《ソナチネ》、シューベルト(Franz Schubert 1797-1828)の歌曲《野ばら》の連弾編曲などが取り入れられている。第4段階は184番から209番までで、さらに高度になる。半音階や、長音階の反行、分散和音の反行、長調と短調それぞれの和声進行、3度、6度、オクターヴのそれぞれの両手での音階、クーラウ、デュセック(Jan Ladislav Dussek 1760-1812)の《ソナチネ》、シューベルトの歌曲《セレナーデ》、《アヴェマリア》のピアノ編曲、ウェーバーの《祝典序曲》から終結部の「God Save The Queen」の旋律のピアノ連弾編曲などが含まれている。

### 第3項(5) ニューイングランド音楽院ピアノメソッド

トゥルジェーはアメリカで音楽教育者、合唱指揮者、オルガニストとして活躍した。イースト・グリニッジ神学校で一般教養を学び、プロヴィデンスで音楽を学んだ。1853年にボストンで音楽学校の設立に失敗し、その後、マサチューセッツ州のフォールリヴァーで生徒数約500の音楽学校を開校した。この学校は等級別のクラス分けを採用した音楽院方式の学校であり、アメリカでこの方式を採用した音楽教育施設はここが初めてだといわれている。1855年に、ロードアイランド州ニューポートに移り、オルガニストを務める傍ら、音楽の個人指導をした。1861年にイースト・グリニッジ神学校の音楽監督になり、1863年には短期間ドイツに音楽留学した。1867年からボストンに住み、同年ロバート・ゴールドベッグと協力してニューイングランド音楽院を創設した。1869年と72年にボストンで行われた平和記念祭で、大掛かりな合唱団を組織することに尽力した。公立学校での音楽教育促進にも活躍し、音楽教師の最初の全国集会在トゥルジェー



一の提唱により全米音楽会議として1869年にボストンで開催された。全米音楽教師連盟が1876年に組織されると、トゥルジェーは初代会長に就任した。また1879年から1882年にかけては、メーソンの求めに応じて、日本の学校に西洋式の音楽教育を導入する教師団の手配に奔走した。1869年にはウェスリアン大学から名誉音楽博士号が授与され、1873年のボストン大学創立と同時に、音楽カレッジの学部長に就任している。

『ニューイングランド音楽院ピアノメソッド』(*The New England Conservatory Method For The Piano-Forte*)が誰によって編纂されたかは明らかになっていないが、音楽院を創設したトゥルジェーはもちろん、創設時からピアノ科教授として教鞭をとっていたエメリーが関わっていると考えるのが自然である。また、この『ニューイングランド音楽院ピアノメソッド』そのものは音楽取調掛の最初の購入目録には含まれていないものの、その内容にはバイエル、プレディー、ベルティーニ、チェルニー、ケーラーなどが含まれており、これらの作曲家の楽譜は購入目録に含まれていることから、音楽取調掛の教育課程には、メーソンだけでなく、『ニューイングランド音楽院ピアノメソッド』自体、また音楽院の教員であったエメリーが深く関与していることが分かる。

リチャードソンのピアノメソッドと同様に、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドも長崎の活水女学校で用いられていた記録が残っている。活水女学校は、音楽取調掛と同時期の1880年(明治13年)に音楽教育が開始された。<sup>48</sup> 1889年(明治22年)の、予科2年、高等科4年の6年制の教育課程のうち、予科1年にニューイングランド音楽院ピアノメソッドが用いられている。この教育課程は1888年(明治21年)9月に赴任したニューイングランド音楽院出身のアンナ・L・ビング(Anna L. van Zandt Bing 1864-1923)により「米国の<sup>ベ</sup>最<sup>ス</sup>優<sup>ト</sup>秀<sup>リ</sup>の<sup>コ</sup>音<sup>ン</sup>楽<sup>サ</sup>校<sup>バ</sup>の<sup>ト</sup>課<sup>リ</sup>程<sup>ー</sup>と同様のもの」として改訂されたものである。<sup>49</sup>

2017年10月11日現在、アメリカのボストンパブリックライブラリー所蔵の1870年出版の楽譜(初版)をインターネットアーカイヴで閲覧することができる。

全271ページ、3部で構成されている。トゥルジェーによる序文から始まっており、序文の原文訳は以下の通りである。

この教則本に含まれる演習は、ピアノフォルテのための徹底した研究体制を、初歩的なものから順を追って、高度なポイントに達するまで提供するという観点から、音楽院での使用のために準備されたものである。

多数の教科書、方法、エチュードの中で、音楽院で確立することが望まれていたような

<sup>48</sup> 活水学院百年史編集委員会 『活水学院百年史』 p. 18, 22

<sup>49</sup> 活水学院百年史編集委員会 『活水学院百年史』 p. 38, 43

研究体制の要件を完全に満たすものは見つからなかった。それらの多くは価値があるものの、それでも十分に進歩的ではなく、練習の以前に、生徒の熟練を必要とする困難さが導入されることが多い。他のものは無駄なものが多く、または整理が不十分である。

したがって、すでに使用されているすべてのものからの卓越性を確保することを目指すべきであり、その欠陥から解放されるべき新しい教則本を編集することが必要であることが判明した。その結果は今や公衆の前にある。

技術的なエクササイズ(Exercise)と訓練課題(Study)は、ブレディー、ベルティーニ、ツェルニー、バイエル、デュヴェルノワ、ケーラー、および他の標準的な作曲家からのものである。

レクリエーション(Recreation)で紹介されている楽曲は、一般的に、直前のレッスンで提示されたいくつかの技術的な課題を示しており、第一に漸進的な学習過程を提供すること、第二に音楽的趣味の教育に、第三にピアノフォルテの研究を可能な限り興味深く魅力的なものにすることを目的とし、したがって、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン、ウェーバー、シューベルト、シューマン、メンデルスゾーン、ヘンゼルト、ヘラー、マイヤー、ブルクミュラー、オーベール、および他の著名な作曲家から楽曲が導入されている。

ここに提示された学習のプランは、徹底した良心的なすべての教師に賞賛され、また全国の教師が長い間欲しいと思っていたものを供給するだろうということを確信している。

(「*The New England Conservatory Method For The Piano-Forte*」序文(筆者訳))

序文の後には、リチャードソンやウルバッハの教則本と同様に、楽典的内容の説明から始まる。初めから細部に渡り細かく丁寧な説明がされており、項目は、アルファベットを用いた音名、五線、加線、小節線、小節、音符(全音符から32分音符まで)、休符(前出の音符と同様)、付点音符と付点休符、音部記号、音程(インターヴァル)、シャープ、フラット、半音、全音、ナチュラル、リズム、2拍子、3拍子、4拍子、コモンタイム、複合拍子(2拍子系、3拍子系、4拍子系と、特に3/8拍子、6/8拍子、12/8拍子、16/8拍子)、自然なアクセント(強拍)、人工的なアクセント(記号によるもの)、タイ、シンコペーション、複縦線と終止線、リピート記号、フェルマータ、ダ・カーポ、ダル・セーニョ、オッターヴァアルタ、オッターヴァバッサ、3連符、レガート、臨時記号、速度記号、強弱記号について、それぞれ記号や図と文章で詳しく説明されている。初めから細部に渡り詳しく説明されていることから、この教則本がピアノ初学者はもちろん、経験者を含む、音楽を専門として学ぶ学生を対象にしていることがうかがえる。

続いて第1部の第1節が始まる。高音部記号による五線の読み方と、鍵盤と五線の関係、音符と小節の長さについて説明され、続いて文章で、手の位置、指の動きについての説明がされてい

る。さらに、こちらもしチャードソンやウルバッハと同様に、図によって鍵盤と正しい手、腕の高さや位置が示される。図には、指からのタッチ、手首からのタッチ、肘からのタッチがそれぞれ描かれており、続いてピアノの座る位置について、またレガートのタッチと、適切なアクセントなどを会得するための規則について、文章での説明があり、実際の演奏へとつながる。序文からここまで9ページが割かれている。

次に、実際にピアノを弾く練習が始まる。1番、2番と番号がついた練習には、序文にもあるように「エクササイズ」と「訓練課題」、「レクリエーション」と称される曲がそれぞれに配されている。この構成はリチャードソンの『ニューメソッド』と類似している。エクササイズは技術を身に付けるための基礎的、機械的なものであり、訓練課題は前エクササイズで得た技術を用いて表現をする練習曲に、レクリエーションには音楽的な楽曲が採用されている。テクニックの機械的な練習だけでなく、音楽的な内容も楽しく学習できるような配慮が感じられる。最初は右手が高音部記号、左手も高音部記号の大譜表で、右手、左手ともに、ド、レ、ミ、ファ、ソが1、2、3、4、5の指で、1つのポジションで弾ける練習からはじまる。これは、バイエル、リチャードソン、ウルバッハと全て共通している。初めのうちは2度の順次進行で四分音符と二分音符のみの構成だが、進むにつれて3度、4度と音程が広がり、また8分音符やタイ、シャープも出現する。12番の練習曲まで進むと、低音部記号の説明があり、13番目からは右手が高音部記号、左手が低音部記号の大譜表での練習となる。バイエルとは違い、リチャードソンやウルバッハと同様に、比較的早い段階で左手に低音部記号が出現する。3番、4番、8番、9番、10番、11番、12番、13番、14番など、両手での5指の運動の練習では、同じ音ではなく、対称の動きとなる反行の動きの練習から始まるパターンで作られている。両手の音は異なるが、両手の指は同じ指を動かすことになるので、15番の両手が単音でオクターヴ間隔の、同じ音で違う指を動かす並行の練習よりも演奏しやすい練習であり、先に反行を行うのは初学者が学習しやすくするための配置である。このような最初の導入から反行で5指の運動の練習を行う方法は、プレディーの『ピアノ教本』(*Technische Studien*)から採用したものである。ニューイングランド音楽院ピアノメソッドの全体を通して、練習曲についてはその多くがプレディーのピアノ教本から採用されている。6番の練習曲のレクリエーションには、バイエルの26番が採用されており、15番の練習曲のレクリエーションには、バイエルの66番の曲が登場する。ただし、66番はバイエルではハ長調であるが、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドでは、完全4度高く移調され、ヘ長調となっており、調号でのシのフラットは記入されず、シには臨時記号でフラットが付けられている。続いてのレクリエーションとして、バイエルの60番が、こちらは原調で採用されている。バイエルで唯一ポリフォニーの要素を含む練習曲である。16番の練習のレクリエーションにはバイエルの92番が採用されている、原調のヘ長調のままだが、調号は用いず、臨時記号でシがフラットになっている。15番の練習曲からは、前述のとおり並行での練習曲が続く。18番

の練習曲のレクリエーションには、バイエルの79番が、原調のイ長調からト長調に移調されて採用されている。こちらも調号は使われず、ファのシャープは臨時記号で書かれている。11番の練習曲のレクリエーションには、日本では「埴生の宿」として知られている、讚美歌第2編147番の前半部分が登場する。元の歌は、イギリスの作曲家ビショップ(Henry Rowley Bishop 1786-1835)のオペラ《クラリ、ミラノの乙女》(*Clari, The Maid of Milan*)のアリア「Home! Sweet Home!」であり、作詞は脚本も担当したアメリカのハワード(John Howard Payne 1791-1852)である。メソッドが作成された当時、広く知られていたメロディーを採用したものと考えられる。第1部の第1節は、全て両手とも単音のみで、和音は用いられていない。バイエルから複数の曲が抜粋されていることから、バイエルを軽視していなかったことが分かる。

第1部の第2節から、和音が登場する。2和音、3和音、4和音が同時に練習課題になっている。4番の練習曲には、スラーの記号が登場する。2音間のスラーについて、1つ目の音が強調され、2つ目の音は軽く弾くことを、文章での説明と、実際の奏法の表記(1つ目の音にはアクセント記号が付き、2つ目の音は音価が短くなり最後には短い休符が挿入されている)の両方で丁寧に説明されている。6番からは音階の練習が始まる。導入として、両手の3の指でオクターヴ間隔でドの音を保続しながら、鍵盤上で隣のレとシの音を1の指で2回ずつ交互に弾く練習が提示されている。また音階の仕組み(全音と半音の組み合わせ)や、五線譜の記譜法、長音階、短音階、半音階について、音階の練習の方法についても記述されている。6番、7番では実際に両手でハ長調の音階練習をし、続いてハ長調以外の調について、シャープ系、フラット系それぞれについて説明があり、8番からは第1部第2節の終わりまでに、ト長調、ニ長調、イ長調、ヘ長調、変ロ長調、変ホ長調の順で調号が増えた練習曲が構成されている。8番の練習曲のレクリエーションには、ベートーヴェン(Ludwig van Beethoven 1770-1827)の《パイジエツロの歌劇《水車屋の娘》の二重唱〈わが心もはやうつろになりて〉による6つの変奏曲》(*6 Variationen über das Duett "Nel cor piu non mi sento" aus der Opera "La molinara" von G. Paisiello WoO. 70*)のテーマが、また、9番の練習曲の1つ目には、シューマン(Robert Schumann 1810-1856)の《子どものためのアルバム》(*Album für die Jugend Op. 68*)から、第4曲「コラール」が、同じく2つ目のレクリエーションには、第2曲「兵士の行進」が採用されている。8番、9番の練習曲のレクリエーションの3曲は原調がト長調のものである。さらに、10番はニ長調の練習曲で、レクリエーションはシューベルトの歌曲《野ばら》のピアノソロ編曲が採用されている。11番の練習曲には、保続音の練習が登場する。右手1の指と、左手5の指を2オクターヴ間隔でドの音におき、右手は1, 2, 3, 4の指(ド, レ, ミ, ファ)、左手も1, 2, 3, 4の指(ソ, ファ, ミ, レ)を全音符で保続し、両手とも5の指(右手はソ, 左手はド)の音を8分音符で連打する。連打する指を4, 3, 2, 1と変えていき連打しない指は音を保続する、という形で進んでいく。この保続音の練習も、初めての練習は反行の形になっている。またこの練習はやはりプレディー

から採用されている。17 番には 6 度の分散和音の音階練習が、19 番には連打音の練習が、20 番にはポルタートのタッチ(メゾスタッカート)の練習がそれぞれ採用され、第 1 部が締め括られる。

続いて第 2 部第 1 節はハ長調の 3 和音、4 和音の分散和音の練習から始まる。その後、3 度の順次進行、ホ長調の音階、分散でのオクターヴの音階、ロ長調の音階、変イ長調の音階、ニ長調の分散和音、変ニ長調の音階、前打音、装飾音の奏法、変ト長調の音階、変ホ長調の分散和音、6 度の順次進行の練習が課題となっている。レクリエーションには、ベートーヴェンの《ピアノソナタ 作品 49-2 第 2 楽章》(*Piano Sonate Op. 49-2 2mov.*)や、シューベルトの《36 の独創的舞曲 D. 365 作品 9-2》(*36 Originaltänze D. 365 Op. 9-2*)のワルツの編曲、ルモワーズ(Henry Lemoine 1786-1854)の《子どものための 50 の練習曲 作品 37 第 11 番》(*Études Infantines for Piano Op. 37-11*)、ドニゼッティ(Gaetano Donizetti 1797-1848)のオペラ《ルクレツィア・ボルジア》(*Lucrezia Borgia*)のプロローグ第 3 場の 2 重唱〈まあ!これは一体?〉(*Ciel! Che vegg' io?*)の編曲、ウェーバーのオペラ《オベロン》(*Oberon*)より第 2 幕の〈人魚の歌〉の編曲、ブルクミュラー(Johann Friedrich Franz Burgmüller 1806-1874)の《25 の練習曲》(*25 Études faciles et progressives Op. 100*)の第 21 番「天使の合唱」、第 22 番「帰路」、シューマンの《子どものためのアルバム》(*Album für die Jugend Op. 68*)から第 10 曲「楽しき農夫」が、またゴバーツ(Jean Louis Gobbaerts 1835-1886)(別名ストリーボッグ)の《12 の易しく旋律的な練習曲 作品 63》(*12 Very Easy and Melodious Studies Op. 63*)の第 11 曲「蝶々を追って」、クラック(Theodor Kullak 1818-1882)の《子どものくらし 作品 62》(*Kinderleben Op. 62*)より第 5 曲「ゆりかごの歌」、オーベール(François Auber 1782-1871)の歌劇《ポルティチの物言わぬ娘》(*La Muette de Portici*)から第 4 幕のアリア〈貧しい一人の忠実な友人から〉の編曲など、ピアノ曲だけでなく、歌の作品をピアノ用に編曲したものや、様々な国の作曲家の作品が採用されている。第 2 部第 1 節の最後には連弾曲が取り入れられ、作品はディアベリ(Anton Diabelli 1781-1858)の《ソナチネ 作品 24-1 第 2 楽章》(*Sonatine Op. 24-1 2mov.*)が採用されている。

第 2 部第 2 節は半音階の練習から始まる。半音階もまずは反行から、続いて並行の練習となる。この練習課題にバイエルの 106 番が採用されている。続いて旋律を歌う練習、イ短調の音階、軽いタッチの練習、ホ短調の音階、同音連打(トレモロ)、ペダルの練習、ロ短調の音階、手のポジション移動の練習、嬰へ短調の音階、トリルの準備練習、3 連符、ニ短調の音階、2 拍 3 連の練習、ト短調の音階、ハ短調の音階、へ短調の音階、トリルとターンの練習の順で構成されている。訓練課題やレクリエーションには、ヘラー、ライネッケ(Carl Heinrich Carsten Reinecke 1824-1910)、シューベルト、ブルクミュラー、メンデルスゾーンなどの作品のほか、現在ではあまり知られていないロゼラン(Henri Rosellen 1811-1876)、エドゥアール・ヴォルフ(Édouard Wolff 1816-1880)、マイヤー(Carl(Charles) Mayer 1799-1862)、ミュルデル(Richard

Mulder 1823-1874), クロワゼーズ(Alexandre Croisez 1814-1886)などの作品も含まれている。

第3部第1節は長調の音階練習から始まる。シャープ系から1つずつ調号が増え、ロ長調の次はフラット系の変ロ長調で、調号が1つずつ減っていく。4和音(長七の和音)や6度の分散和音での練習も含まれる。続いて短調の音階練習が、長調の練習と同様にシャープ系からフラット系への5度圏の順で始まる。短調も4和音や6度、オクターヴでの分散和音の練習や、オクターヴの同音連打や音階練習も含まれる。訓練課題やレクリエーションにはベルティニー、シューマン、ヘラー、メンデルスゾーン、ケーラー、モーツァルト、シュミット(Aloys Schmitt 1788-1866)、スピンドラー(Fritz Spindler 1817-1905)、レシュホルン(Carl Albert Loeschhorn 1819-1905)、ハイドン(Franz Joseph Haydn 1732-1809)の作品や、日本では唱歌の「庭の千草」として知られる、アイルランド民謡の「The Last Rose of Summer」が採用されている。

第3部第2節は、分散和音の練習から始まる。ハ長調の主和音で4オクターヴを分散和音で弾く練習だが、これも始めは反行から始まり、次に並行を練習する。次に半音階の練習が続く。ハ長調両手オクターヴ間隔で、並行で2種類の指使いでの練習を行った後、反行、3度間隔、6度間隔での練習と進む。ニ長調と変ロ長調の分散和音、両手でのトリル、ト短調、ロ短調の分散和音、オクターヴを含む同音連打、属七和音の分散和音、保続音を伴ったトリル、減七和音の分散和音、両手オクターヴの跳躍と音階、拡張された分散和音、ハ長調、ト長調、ニ長調、イ長調での両手3度と6度の音階練習で技術的練習が構成されている。訓練課題、レクリエーションには、デュヴェルノワ、ハイドン、チェルニー、シュミット、シューマン、クラック、シューベルト、ヘラー、スピンドラー、ベルティニー、メンデルスゾーン、イェンゼン(Adolf Jensen 1837-1879)などのものが採用されている。練習の内容が高度になるにつれ、訓練課題、レクリエーションで取り上げられている楽曲も難しいものになっている。

最後の第3部第3節は、全調での両手3度、6度の音階、短3度、短6度、完全4度、オクターヴでの半音階、3和音での音階、両手交替での単音、和音の音階、2オクターヴまでの単音、和音での跳躍、長いトリルとトリルでの指替え、両手同時のトリル、重音トリルが練習内容となっており、技術的な練習のみで、訓練課題、レクリエーションとしての楽曲は取り入れられていない。巻末にあとがきが付され、この教則本の次に取り組むべき課題(バッハの《インヴェンション》や《パルティータ》、《平均律クラヴィーア曲集》やチェルニーの《40番練習曲》、クレメンティの《グラドゥス・アド・パルナッスム》、クラマー(Johan Baptist Cramer 1771-1858)やモシエレス、ショパン(Frédéric François Chopin 1810-1849)の練習曲など)が記されている。あとがきには引き続き、練習の方向性について、初見演奏について、また「自身を過大評価せず継続して努力を」といった内容のプレディーの言葉を引用して結論とし、巻末に楽語の説明が載せられ、締め括られている。

### 第3項(6) 4つのピアノ教則本の比較

バイエル、リチャードソン、ウルバッハ、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドのそれぞれの教則本を概観し考察すると、日本のピアノ教育において、リチャードソンやウルバッハ、またニューイングランド音楽院ピアノメソッドが忘れられ、なぜバイエルが残ったかが見えてくる。

リチャードソンは、4つの教則本のうち、最も技術の習得に重点が置かれ、教則本のはじめの段階から比較的難易度が高い内容の練習曲になっている。また、全体的に技術を身に付けることに重点がおかれ、練習曲は基礎的な技術の要素を習得するために作られているので、旋律を歌うような練習曲が少ない印象である。リチャードソン自身は、練習が無味乾燥にならないよう配慮した、と言っているが、教則本全体を通して見ると、忍耐が必要な練習曲も数多くあり、やはり技術的側面に偏重していると言わざるを得ない。4つの教則本の中でバイエルに継いで古く、装飾音の演奏の方法や、通奏低音の説明など、バロック、古典派の時代の名残も感じられる。

ウルバッハは、リチャードソンと比べると、全体的に技術的な練習曲を中心に作られているものの、現在も『ソナチネアルバム』に収録されている作品や、オペラアリアの旋律や民謡などの、耳馴染みのある楽曲をピアノ用に編曲した作品が随所に取り入れられ、技術を習得する練習曲と、音楽的な表現を身に付けるための曲の両方で構成されており、また段階ごとに詳しい文章や図での説明が掲載されており、学習者が喜びを持って練習できるような配慮が感じられる。ただし、技術的な練習曲はリチャードソンと同様、初学者にとっては難しいものも含まれており、ある程度の手の大きさや、良識のある指導者の助言が必須である。

ニューイングランド音楽院ピアノメソッドは、リチャードソンやウルバッハと比較すると、音楽用語や楽典的内容の説明が詳細に記されており、また技術を身に付けるための練習と、音楽的表現を学ぶための楽曲が、適切な比率で配置されている。また古典派、ロマン派前期の多くの作曲家による多岐にわたる音楽的な作品が取り入れられ、ピアノ作品だけでなく、歌曲やオペラアリアなどのピアノ編曲も採用されるなど、様々な様式を学ぶことができる。リチャードソンやウルバッハと比べても旋律を歌う作品や、音楽的に様々な表現を楽しむ作品が多く採用されている。前半は初学者に対する配慮が感じられるが、後半は技術的に難しい練習曲や作品も取り入れられている。ただし、ポリフォニーの要素を学ぶための作品はほとんど取り入れられていない。これには、初学者がポリフォニーを学習するには、ある程度の演奏技術が伴ってから始める方が良い、という考え方があると推測することができる。この教則本に数多く取り入れられているブレイディーの『ピアノ教本』には次のようなあとがきが記されている。

この本に集めてある練習課題は、ピアニストの完全なテクニックをつくるための教育材料です。

これ以上のことは、チェルニー、ベルティーニ、クレメンティ、クラマー、またモシエレスなどのエチュードを練習することで修得されるでしょう。更に、メイヤー、ケーラー、ヘラー、シュミット、デーリング、レッシュホルン、カルクプレナー、クリントヴォルトなどを推薦します。しかし、J.S. バッハの平均律クラヴィーア曲集は、一般にあまり早く手をつけさせますが、年数の経っていない生徒たちには、見合わせる方がよろしい。もっと後にいろいろなテクニックをおぼえ、十分に理解が深まるまで待つのです。これらのエチュードを終えたら、ショパン、リスト、ルービンシュタイン、タウジツヒ、ヘンゼルト、サン＝サーンスのエチュードを研究するのがよいと思います。

(全音楽譜出版社『プレディーア ピアノ教本』あとがきより引用)

同様にニューイングランド音楽院ピアノメソッドには、ショパンやリスト(Franz Liszt 1811-1886)の作品が1つも取り入れられていない。同時代の作曲家のシューマンの作品は複数採用されているが、これもやはり前述のポリフォニーと同様の考え方によるものと推察することができる。

バイエルは、リチャードソンやウルバッハ、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドと比べると、元来幼い子どもを対象として作られていることもあり、技術的な程度は4つの教則本のうち最も易しい。また練習曲はバイエルのオリジナルの曲であるが、音楽的に旋律を歌うようなものもあり、ある程度の技術と、音楽的な表現との両方を身に付けられる構成でできている。加えて、シンプルであり、難易度が急に上がらないので達成感を味わいながら進めることができることなども、バイエルが現在まで残っている所以である。ただし、単純で短い曲が多いこと、またリチャードソンやウルバッハ、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドと比較すると進度が非常に遅いこと、使用している音域が狭いこと、などから、大人や中級者が使用する教材としては物足りない部分もある。

日本におけるピアノ教育と教則本の歴史は、ピアノ教育の受容期である明治時代初期に、アメリカの影響を強く受けて始まった。リチャードソンや、ウルバッハ、またニューイングランド音楽院ピアノメソッドなどの教則本や、様々な作曲家の練習曲が取り入れられたが、中でも『バイエルピアノ教則本』を中心にして変遷してきた。保育者養成や小学校教員養成課程でも、東京音楽学校と同じように師範学校でバイエルが取り入れられ、ピアノ教育全体の流れの中でリチャードソンやウルバッハ、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドのように、時代を経て中心から外れ、次第に忘れられてしまった教則本もある中、『バイエルピアノ教則本』は重要な入門教材として扱われ、受容期から今日まで130年以上の年数を経ても残っている。



バイエルは 1850 年に、リチャードソンは 1859 年に、ニューイングランド音楽院ピアノメソッドは 1870 年に、ウルバッハは 1878 年にそれぞれ初版が出版されている。全て 19 世紀後半に作られているが、この時代はロマン派後期であり、近代の音楽への橋渡しの時代でもある。その時代の中で教則本が作られ、今回取り上げた 4 つの教則本の中でもっとも古いバイエルが、現代の日本に残っていることは、注目すべきことである。

1990 年前後を境に、バイエル批判が行われるようになり、世界各地の教則本や、日本での新しい教則本が数多く取り入れられるようになった。

バイエル批判がはじまった頃から 25 年以上が過ぎた現在でも保育者、小学校教員養成課程で使用される教材として『バイエルピアノ教則本』そのもの、またバイエルを底本とした教材が多くの養成校で使用されている。

## 第2節 フォルマシオン・ミュージカル

フォルマシオン・ミュージカル (Formation Musicale) とは、フランスの文化省が1978年に制定した、統括的な音楽教育を目指した新教育システムである。従来のソルフェージュ教育の科目名が改められたものであり、内容についても、徹底を重ねるあまり分断化され、器楽教育との結びつきから遠ざかってしまったソルフェージュ教育を、ソルフェージュと器楽教育との間に広がった溝を回復することを目的とし、従来のソルフェージュ教育の否定ではなく、既存の音楽作品をソルフェージュ課題の中に取り入れ、音楽作品の理解と表現をより深め、身に付けることを目標としている。

近年、日本においても「フォルマシオン・ミュージカル」という言葉自体を聞く機会が増えたり、フォルマシオン・ミュージカルに関する書籍が発行されたり、研修会やセミナーが開催されたりと、フォルマシオン・ミュージカルへの注目が高まりつつある。

日本における先行研究は、初期のものは1989年に船橋らによって日本語訳され出版された、ミシェル・オディル・ジロー (Michelle-Odile Gillot 1926～) 著「シューベルトを歌いながら学ぼう 全3巻」があり、また野平(1994)による「フランスの「フォルマシオン・ミュージカル」音楽家の基礎形成」の行方(『国立音楽大学研究紀要第29集』:191～201)や、泉谷(1999)による「フランスの「フォルマシオン・ミュージカル」の変遷と改革」(『青森明の星短期大学紀要第25号』:1～29)などがある。

また保育者養成課程や教員養成課程での音楽の授業にフォルマシオン・ミュージカルのアイデアを取り入れるべく検討している先行研究もいくつかある。泉谷(2000)は保育者養成課程の音楽やピアノの授業展開にフォルマシオン・ミュージカルの応用の可能性を試みており<sup>50</sup>、また船橋(2015)は「新しいソルフェージュ - フォルマシオン・ミュージカルへの展開」の中で、音楽大学や音楽科での教職課程として学ぶソルフェージュ教育について、フォルマシオン・ミュージカルの考え方に基づいた音楽基礎教育が必要である<sup>51</sup>と提起している。また、長崎(2015)は、フォルマシオン・ミュージカルのアイデアを取り入れた保育者養成課程でのソルフェージュ指導、ピアノ指導の一例を提示している。<sup>52</sup>

このフォルマシオン・ミュージカルの特に「既存の音楽作品をソルフェージュ課題の中に取り入れる」という方法は、保育者、小学校教員養成課程でのピアノ教材の作成にあたって、非常に有用であると考えられる。泉谷(2006)は「初心者のためのピアノ・グループ指導の研究～保育者養成課程における実技のカリキュラムの工夫～」の中で、保育者や教員の養成課程におけるピ

---

<sup>50</sup> 泉谷千晶 「保育者養成課程の「音楽」の視点と総合的な授業展開の試み-フォルマシオン・ミュージカルの応用の可能性-

<sup>51</sup> 船橋三十子 「新しいソルフェージュ - フォルマシオン・ミュージカルへの展開」

<sup>52</sup> 長崎結美 「保育者養成課程におけるソルフェージュ指導-フォルマシオン・ミュージカルの視点から-

アノ学習のための教材について、養成校の「教材として、何を、どの時期に、何の目的で、どのように取り入れていくか、ということについて考える時、私自身の指針となるのはフランス音楽教育の根幹を支える「フォルマシオン・ミュージカル」(Formation musicale) の概念である。」<sup>53</sup>、続けて「例えて言うならば、音楽理論の学習には音楽理論用のテキストを、ピアノの技術的訓練のためには練習曲を、というような訓練自体が目的として作られた教材を使用するのではなく、実際の楽曲を教材に選び、教材自体を通して音楽の知識と理解を深め、演奏技術を高めていくというような考え方」<sup>54</sup> であり、「保育現場で通用するレパートリーとなる楽曲を教材としてリストアップし、それらの楽曲を構成している様々な要素を分解しながら、読譜の手立てを示し、構造や理論を把握し、演奏の技術的な問題を抽出しながら、音楽の理解と演奏を切り離さずに総合的に学習していくこと」<sup>55</sup> と論じている。同時に、教材の体系化の難しさについても指摘している。

フォルマシオン・ミュージカルについては問題点も議論されている。長崎(2016)は、「本場フランスでは、その指導法の困難さや学習範囲の広さ故、音楽の基礎が正しく身につかないまま年月が経過してしまう生徒が少なからず存在するという話も耳にする」<sup>56</sup> と論じており、また高田(2016)はその著書の中で、フォルマシオン・ミュージカルの欠点として、長崎と同様に「扱う内容がとても広く、限られた時間の中ではすべてを網羅することはできない」ことをあげ、さらに「音楽史や音楽理論の難しい知識を増やすということに重きが置かれがちで、音感やリズム感を習得するための訓練が少なくなってしまう傾向もある」ことを指摘している。また、「音楽のひとつひとつの要素を習得するためには、繰り返しの訓練もやはり必要である」<sup>57</sup> と論じており、これまでのソルフエージュ教育のすべてを否定している訳ではない。

保育者養成課程や、小学校教員養成課程における音楽の学習では、クラシックの作品を学ぶことはもちろんあり、広義では同じく「音楽」を学習するが、音楽大学などの音楽の専門的な学習と大きく異なるのは、1つの専攻、専門分野について深く探求することや、音楽史や音楽理論などの幅広い音楽的な知識の蓄積が、保育、教育の現場からはさほど求められていない、ということである。聴衆に向かってピアノや歌を芸術的に演奏することが第一の目的なのではなく、子どもたちと一緒に歌を歌ったり、音楽に合わせて体を動かしたりする活動で同じ時間を共有し、同じ楽しさを味わうことが、保育や教育の分野ではより重要なことである。このことは、第3章で

---

<sup>53</sup> 泉谷千晶「初心者のためのピアノ・グループ指導の研究～保育者養成課程における実技のカリキュラムの工夫～」 p.34

<sup>54</sup> 同上

<sup>55</sup> 同上

<sup>56</sup> 長崎結美「『フォルマシオン・ミュージカル』教育内容の変遷に関する一考察-初級者用教材の分析を通して-」 p.17

<sup>57</sup> 高田美佐子『はじめてのフォルマシオン・ミュージカル 音楽力を育てる新しいソルフエージュ』 p.10

の保育者や小学校教諭への調査によっても明らかになっている。

学習の目的と内容を考えれば、保育者、小学校教員養成課程における初学者へのピアノ指導は、読譜や指使い、またバイエルや練習曲などの訓練そのものを優先して学習することも重要ではあるが、それよりも、将来現場で子どもたちと歌う歌を、フォルマシオン・ミュージカルの概念での「音楽作品」として捉え、その音楽作品である子どもの歌をピアノ学習の初期段階から取り入れて、音高や音価、拍子やリズムなどの基礎的な音楽理論や、音楽の構造について、総合的に学習することのできる教材が養成校でのピアノ学習にとっては、合理的であり、効果的であると考えられる。

### 第3節 初学者への効果的な指導に向けて

#### 第1項 ピアノ奏法の変遷の概要

ピアノの奏法について歴史は、ピアノ以前のチェンバロ、クラヴィコード、フォルテピアノ等で用いられた、指だけの動きのみによる奏法から、腕の重量を利用して演奏する重量奏法や、脱力奏法と言われる、現代的なピアノ奏法へと移っていく歴史であるといえる。クレメンティやフンメルは、指のテクニックを機械的に訓練するための訓練課題の作品を多く残している。クレメンティの弟子であるクラーマーが、ピアノの「練習曲」を初めて作曲し、その後チェルニーは練習曲を体系的に完成させた。チェルニーは、練習曲を「単に機械的な身体能力の向上を目指すためだけ」<sup>58</sup>でなく、「高度な様式表現」<sup>59</sup>の学習をも目的とした。その後19世紀には、1827年にブロードウッド社が金属製支柱機構で特許を取るなど、ピアノの構造が改良され、ピアノ曲が求める演奏技術の可能性が広がった。奏法もそれに伴って、指だけではなく、手首や腕、肩、また全身まで使う技術が必要になった。運指についても、18世紀の考え方とは異なり、特にショパンはピアノ奏法草稿の中で、「人間が本来持っている各指の弱点を有効に美しい特徴として利用し、生理的な自然さを取り入れるような運指法」<sup>60</sup>を創案した。リストの超絶技巧やブラームスの急速に移動する和音など、手首の柔らかさと腕の重量を自由に使う近代的な奏法が始まるが、まだ一般的にはならなかった。19世紀後半にはハイフィンガー奏法が流行するが、20世紀になりデッペ(Ludwig Deppe 1828-1890)らにより否定され、またマティ(Tobias Matthay 1858-1945)は腕の重量によるタッチを重要視し、ブライトハウプト(Rudolf Maria Breithaupt 1873-1945)は腕の重さ(重量奏法)と弛緩(脱力奏法)を基本とした奏法を提唱した。その後は解剖・生理学派から心理学派へ、そして現代へと繋がり、現在においては様々なピアノ奏法やメソッドが提唱されている。

#### 第2項 初学者に対するピアノ奏法指導

ピアノ奏法理論における解剖・生理学派が隆盛した時代からやや遅れ、1954年にハンガリーのヨゼフ・ガート(József Gát 1913-1967)の『ピアノ演奏のテクニック』が出版された。特に、第26章「初歩者にテクニックの問題点を教える際の注意事項」については、主に「初歩者」を子どもとして扱っているが、「すべてのピアノのテクニックは、直接、音楽的概念にもとづいている」<sup>61</sup>という理念から、まずは運動の練習、歩く練習、リズム的な手の運動などのピアノを弾く前段階からの準備、教育法が提唱されており、これは保育、教育における音楽表現との親和

---

<sup>58</sup> 上田泰史 「チェルニー30番の秘密 練習曲は進化する」 p.142

<sup>59</sup> 同上 p.134

<sup>60</sup> 浦田真理子 「ピアノ指導に関する一考察 -音と心の関係に視点をあてて-」 p.126

<sup>61</sup> ヨゼフ・ガート著 大宮真琴訳 「ピアノ演奏のテクニック」 p.285

性が強い。ここで詳細を論じるのは省略するが、養成校での初学者を対象としたピアノ指導に有効であると考えられるため、教材作成の参考とした。

以下、同様に養成校でのピアノ初学者を対象とした教材作成のために参考にした主なものを記す。

・ショパンのピアノ奏法草稿

ショパンが執筆し未完に終わっているピアノ奏法の草稿が、エーゲルディンゲルによる『弟子から見たショパン そのピアノ教育法と演奏美学』の中で明らかにされている。

ショパンはその中で、ハ長調でピアノの音階練習を始めることは、譜読みは易しいが、手の動きはまったく支点がないので最も難しく、5指のうち、2, 3, 4の長い指が黒鍵を、1, 5の短い指が白鍵を押さえる調から始めるのがよい、と言っている。

指をミ、ファ♯、ソ♯、ラ♯、シ(譜例 1)の鍵盤に置き手の位置を決める。長い指で黒鍵を、短い指で白鍵を押さえる。レバーにはほぼ均一な力を加えられるように黒鍵を押さえている指を一直線に揃える。白鍵の方も同じ。こうすると手が丸くなり、必要とされる柔軟性が得られるが、指を伸ばしてもこうはならない[あくまで手に力を無理にかけずに丸めることで、指を伸ばしてしまっては得られないような柔軟性が得られる]。柔軟な手、手首、前腕、腕、すべては手が命じるままに動く<sup>62</sup>。

譜例 2



作成する教材では、手のフォームを学習する際に、理想的な手のポジション、形を身に付けるために、まずは譜例 2 の音に手を置いてみることから始める。ただし、子どもでなく大人であっても、物理的に黒鍵を弾いたり、楽譜に調号や変化記号が出現したりするのには抵抗がある場合が多く、難しく感じられる可能性がある。その場合、楽譜を見ずに、まずは2, 3, 4の3つの指だけを、3つ並んでいる黒鍵に置くところから始めると、抵抗を感じにくい。2, 3, 4を置いた後に、1, 5の指が自然に発見のミ、シの場所にあることを意識してもらおう。

この手の形、肘や腕のフォームを学習してから、楽譜の音と鍵盤が一致した課題を始める。

---

<sup>62</sup> エーゲルディンゲル 米谷治郎，中島弘二訳『弟子から見たショパン そのピアノ教育法と演奏美学【増補・改訂版】』音楽之友社

- ・ジャンヌ・ブランカール『初心者のためのピアノ・テクニックの基本的原理』（1995）
- ・レシェティツキー『ピアノ奏法の原理』（1973）

上記2つは、どちらも5指のうち4指を押さえたまま保続し、残りの1指を動かす練習から始まる。カルクブレンナー(Frédéric Kalkbrenner 1785-1849)の《手導器を補助としてピアノ・フォルテを学ぶためのメソッド》(1831)は、最初の練習課題として5指のうち4指を押さえたまま保続し、残りの1指を動かす練習を早期に提示している。『メトードローズ・ピアノ教則本』にも同種の練習課題が掲載されている。

- ・プレディー『ピアノ教本』

『ニューイングランド音楽院ピアノ教本』にも採用された、反行からの練習の開始を採用している。

- ・アルフレッド・コルトーの『ピアノメソッド』
- ・Miyoshi メソッド
- ・セイモア・バーンスタイン『ピアノ奏法 20 のポイント 振り付けによるレッスン』

上記3点はピアノの椅子への座り方、体、腕、手、指の動かし方が詳細に分かりやすく掲載されている。

- ・フランク・メリック『ピアノの練習』
- ・井上直幸『ピアノ奏法 音楽を表現する喜び』

「考える→演奏する→評価する(→「考える」に循環)」という練習方法が紹介されている。

メリック(Frank Merrick 1886-1981)はレシェティツキー(Thodor Leschetizky 1830-1915)から、井上(1940-2003)はアクセンフェルト(Edith Picht-Axenfeld 1914-2001)からこの指導を受けた。

- ・樹原涼子『プレ・ピアノランド』

第一段階「聴く、歌う、動く、見る」→第二段階「ピアノの演奏」という「二段階導入法」を提示している。幼児を主な対象としているが、効果は子どもだけでなく大人にもある。

- ・フォルマシオンミュージカルの理念

前節のとおりである。

参考にした主要なものを記した。これらの理念や奏法、指導法を教材作成の参考とする。

### 第3項 効果的な教材の作成に向けて

学習の目的と内容を考え、これまでの調査や考察から、以下のものを採用し教材を体系的に作成した。

- ・簡単な「弾き歌い」ができるようになることを目指し、課題を構成する。
- ・フォルマシオン・ミュージカルの視点から、早い段階で、楽曲から音楽の基礎的な内容を学習できるようにする。本教材は、保育者養成、小学校教員養成課程での活用を前提にしているため、採用する楽曲は、保育所(園)、幼稚園や認定こども園、また小学校で歌われるような歌の曲とする。曲の選定には、第3章で示した保育者への調査の中から、「現場で歌う機会が多い曲」や、「活用している楽譜、曲集」についての調査結果を踏まえる。
- ・初学者が、体の使い方や姿勢を自ら留意しながら学習できるよう配慮する。
- ・初学者も経験者も、自ら学習を進められるような構成とする。
- ・簡単な「コード伴奏」ができ、コード伴奏での弾き歌いができるようになることを目指す。
- ・学習するテクニックの項目を限定し、意識的に学習できるようにする。初学者が無理なく学習できること、子どもの歌のメロディーや伴奏が弾ける程度のテクニックであることを目標とし、意識的に学習するテクニックは、「指ひろげ」、「指ちぢめ」、「指かえ」、「指こえ・指くぐり」とした。
- ・反行と並行

初学者にとって難しいと考えられる1つに、「両手の指が別々の動きをすること」がある。これは第4章の養成校のピアノ教員への調査からも明らかになった。

ポジション移動のない、ド、レ、ミ、ファ、ソの5指の動きでも、右手、左手をオクターヴ間隔で同時に弾く場合(並行)、左手はドの音を5の指で弾くのに対し、右手は1の指で弾くことになり、動かす指が左右で異なることから混乱を招く場合がある。その前の段階として、両手の同じ指が動く反行の動きを先に行う方法が、『プレディーピアノ教本』をはじめとした教材で採用されている。反行の動きの場合、両手で弾く音が異なるが、両手を同時に動かす感覚を養うことが期待できる。まずは反行での練習を行い、つぎに並行での練習を行うという方法を採用した。

- ・初めから「弾き歌い」を行うことを想定して教材を作る

第3章の保育者への調査では、保育者にとって最も必要なピアノのスキルは、ピアノを弾きながら歌を歌うこと、すなわち「弾き歌い」ができること、であることが分かった。しかしながら、既存の養成校向けのテキストには、「弾き歌い」の学習方法について説明されているものは見当たらない。ピアノ学習のための教材ではあるが、後に弾き歌いに対する抵抗を感じることがないよう、初めから弾きながら歌うことを取り入れる。「弾き歌い」は、ピアノ伴奏のパート譜(高音部譜表、低音部譜表)を見て認知し、右手で高音部、左手で低音部を弾き、その音が合っているかどうかを耳で確認し、歌のパート譜を見て、声を出し、自分の声を聴き音程を確認し、歌詞を



読む、など、同時に多数のことを行わなければならない、初学者にとって難易度が高い。まずは1つの音でこれらを行い、同時に行う作業や処理を減らした段階から始め、複数作業の同時処理に慣れるところから進める。

・奏法の指導を取り入れる

現在出版されている保育者、小学校教員養成向けの主な教材の多くには、ピアノを弾く際の姿勢や椅子の座り方、鍵盤と体の距離、肘や手首の高さ、手の形や向きについて、簡単に短い説明で済ませているものや、中には全く触れられていないものもあり、あまり重要視されていないと捉えることができる。また初学者は、楽譜の音の高低を読むことに集中し、指を動かし音を出して「弾く」ことにのみ集中してしまい、指導者による授業やレッスン時には口頭で指導されているとは考えられるが、ピアノを弾く際の自身の体について、姿勢や、ピアノとの位置関係などについて、無頓着になりがちである。

保育者養成向けではない、現代の一般的にピアノを学習するための教材には、奏法を重要視しているものが多くあり、これは保育者や小学校教諭を目指す学生にも非常に有用であると考えられる。奏法に着目するという点で、養成校向けの教材として新しい点と言える。例えば指くぐりの際の手指のフォーム、音階上行の際の手、手首、腕のフォームの下行の際との違い、などが理解しやすいように、要素ごとに画像等を用いて説明し、独習の際にも意識できるようにする。

・「両手伴奏」

これまでは「両手でのコード伴奏」の学習項目があった。コードでの両手伴奏は、右手でメロディーを弾く必要がないため、歌がしっかり歌えていれば、右手でメロディーを弾き左手でコード伴奏をする弾き歌いよりも、低い難易度で弾き歌いが成り立つ。「歌がしっかり歌えている」という条件付きではあるが、初学者にとってはより短い時間で現場に活用できる可能性がある技能である。しかし、今回の保育者への調査で、現場では「両手コードでの伴奏」はほとんど用いられていない、という結果がでたため、新教材への採用は見送った。

#### 第4節 新しい教材での授業実践と教材の評価

S 女子大学における 2018 年度前期の「ピアノ入門」の授業で、これまで使用されてきた教材(以後「旧教材」と示す)と、今回本論での考察を経て作成した教材(以後「新教材」とする)の両方を比較するために、クラスを分けて行うグループレッスンの際に、旧教材を使用して授業を行うクラスと、新教材を使用して授業を行うクラスの両方を設定し、実際に授業を行った。なお、学生には研究の目的を説明し、授業の内容や到達目標は同様であるが、使用する教材が異なること、個人名は出さずに成績や授業後のアンケートのデータを研究目的のみに使用することについて説明し、了承を得た上で行った。

授業は新入生のうち 49 名の履修者を対象に行った。「ピアノ入門」は通年科目であるが、前期はグループレッスン、後期は個人レッスンの形態で行う。前期期末、後期期末にそれぞれ試験と評価を行い、最終的な成績は前期期末と後期期末の評価を平均化し総合の評価とし、学生への評価は後期期末のみに行う。今回の教材を使用し授業を行ったのは 1 年生の前期の部分であり、教材の評価に用いた学生の成績、評点も、前期のみの成績である。

2015 年度から 2017 年度まで、「ピアノ入門」の授業は通年の授業として行い、前期がグループレッスン、後期が個人レッスンの形態をとってきた。グループレッスンは、前半の 45～50 分を全体への指導の時間とし、後半の 40～45 分を個別の指導時間としてきた。2015 年度から、この科目を担当する S 女子大学の非常勤講師 2 名と筆者の 3 人でオリジナルの参考教科書を作成し、他に教科書としてチャイルド社の『こどものうた 100』と、ピアノ初学者には音楽之友社『メトードローズ・ピアノ教則本』を使用した。前半のグループレッスン時に、オリジナルの参考教科書を使用しグループ全体への授業を行い、後半の個人レッスン時に初学者には『メトードローズ・ピアノ教則本』を個人の能力に合わせて進め、ピアノ経験者には、各個人の能力に合った課題(ピアノソロの楽曲や、『こどものうた 100』の中から弾き歌いの曲など)を担当教員が与え、授業を行った。

S 女子大学でのこれまでの経緯を鑑み、2017 年度までの実施形態と同様に、2018 年度の「ピアノ入門」の授業のグループレッスンも 1 授業時間(90 分)のうち、前半の 45～50 分を全体への指導の時間とし、後半の 40～45 分を個別の指導時間とした。この前半に使用する教材として、半数の学生の授業に今回作成した教材を使用した。

グループレッスンは、1 授業時間に指導できる学生の数が限られる。2018 年度は、授業のコマ数を 3 コマとし、学籍番号順に、クラス分けを行った。学籍番号の前半 24 名を A グループ、後半 25 名を B グループとし、A グループはさらに 12 人ずつに分け、1 コマ 12 人を筆者が単独で授業を行った。A グループの授業の前半のグループレッスンには、2017 年度まで使用した参考教材である旧教材を使用し、B グループの授業の前半のグループレッスンで新教材を使用した。また B グループは 1 コマで 25 人を筆者と非常勤講師の 2 人で授業を行い(客観的な視点から新教

材の評価を行うために、筆者だけではなく非常勤講師とのチームティーチングとした)、授業時間後半の個別指導は、筆者が13人、非常勤講師が12人の学生の指導を担当した。AグループとBグループとで、授業時間前半のグループへの指導時間や、後半の個別の指導の時間に差が生じないように配慮した。(表42参照。)

なお、2018年度の受講者49名中、ピアノ未経験者はAグループが9名、Bグループが11名で計20名であり、全体の40.81%であった。

表 42 グループレッスンの授業の形態

|     | グループの人数                   | 使用教材 | 担当教員                          |                |
|-----|---------------------------|------|-------------------------------|----------------|
|     |                           |      | 前半グループレッスン                    | 後半 個人レッスン      |
| 授業① | A1～A12 12名                | 旧教材  | 筆者                            | 筆者 (12名を担当)    |
| 授業② | A13～A24 12名               |      | 筆者                            | 筆者 (12名を担当)    |
| 授業③ | B1～B12 12名<br>B13～B25 13名 | 新教材  | 筆者と非常勤講師の<br>T・T<br>(25名同時授業) | 非常勤講師 (12名を担当) |
|     |                           |      |                               | 筆者 (13名を担当)    |

2015年度から2017年度まで使用した旧教材についても、作成した担当者同士で十分な議論と検討を重ね、一部は年度ごとに改編しながら作成した。新教材での授業と同じく、授業の到達目標は、初学者も経験者も、簡単な「コードネーム」での演奏ができること、簡単な弾き歌いができることを大きな目標としている。

旧教材と新教材の違いを、表43に示す。

表 43 旧教材と新教材の主な違いの比較

| 旧教材  | 新教材                                     |
|--|---|
| 指ひろげ等は「5指の運動」の中で「バーナムピアノテクニック(導入)」からの引用で練習する | 指ひろげ、指ちぢめ、指くぐり・指こえを項目を立て細かく学習する         |
| ト音譜表とヘ音譜表の両方でコードを学習<br>右手と左手両方で弾く            | コードの学習はヘ音譜表を主とし、<br>弾くのは左手のみ            |
| コードでの両手伴奏を学習する                               | コードの両手伴奏は学習しない                          |
| 姿勢や手の形等については文章と授業での指導のみ                      | 姿勢や手の形等について視覚的な教材あり                     |
| テクニックはそのテクニックを用いる練習のみ                        | テクニックを学んだあと、そのテクニックを<br>子どもの歌の例を使って学習する |
| ペダルの説明について記載あり                               | ペダルの説明について記載なし<br>(口頭での説明)              |
| 小テストは2回                                      | 小テストは3回                                 |

2018年度前期の全16回の授業について、授業回数と内容を、旧教材と新教材それぞれの授業回数ごとの概要の比較を表44-A, 44-Bに示す。なお、新教材については、本論文の末に付録として示す。

表 44-A 授業内容の比較（第1回～第8回）

| 授業回数 | 旧教材  | 新教材   |
|------|--|---|
| 第1回  | オリエンテーション<br>個人の能力調査   | オリエンテーション<br>個人の能力調査  |
| 第2回  | p. 6まで<br>楽典の基礎、2音のフレーズ<br>5指の5音での動き(両手平行→反行→斜行)   | p. 10練習9まで 楽典の基礎、5指の5音での動き<br>(片手づつ→両手反行→斜行→平行)   |
| 第3回  | p. 9《ちょうちょう》右手まで   | p.12. 最後まで 2音のフレーズ  |
| 第4回  | p. 10《ちょうちょう》の右手と<br>左手伴奏 単音まで   | p. 15最後まで《ちょうちょう》歌と右手   |
| 第5回  | p. 11《メリーさんのひつじ》まで   | p. 17《メリーさんのひつじ》まで  |
| 第6回  | 小テスト①《ぶんぶんぶん》<br>1台4手 primo 両手ユニゾンメロディと歌<br>second 片手(左手)でコード単音による伴奏<br>※評価するのはprimoのみ。歌とピアノ両方について<br>採点する。<br><br>P. 12 テクニックの練習の1, 2まで | 小テスト①《ぶんぶんぶん》<br>1台4手 primo 両手ユニゾンメロディと歌<br>second 片手(左手)でコード単音による伴奏<br>※評価するのはprimoのみ。歌とピアノ両方について<br>採点する。 |
| 第7回  | p. 12の3からp. 14の11まで<br>(テクニックの練習)  | p. 19右手まで<br>指ひろげ, 指ひろげを使ったこどものうたの例   |
| 第8回  | p. 18の(3)①まで 和音とコードの説明<br>p. 18【課題】(コードの構成音をへ音譜表に記入する)の練習を次回までの宿題  | p. 21 指ちぢめ, 指ちぢめを使ったこどものうたの例  |

表 44-B 授業内容の比較 (第9回～第16回)

| 授業回数 | 旧教材   | 新教材  |
|------|---|--|
| 第9回  | p. 18 コードについて<br>「こどものうた100」よりp. 211《むすんでひらいて》<br>の右手メロディー、左手コード伴奏による弾き歌いの<br>練習<br>p. 18最後まで | p. 23 指かえ、指かえを使ったこどものうたの例  |
| 第10回 | p. 20最後まで<br>(C, D, F, G-Durのコード進行(カデンツ)<br>セブンスを含む右手と左手の両方)                                  | p. 26 指こえ、指くぐり、音階  |
| 第11回 | 4つの調のコード復習<br>《おはようのうた》右手メロディー、左手コード伴奏<br>での弾き歌い練習  | 小テスト②<br>指ひろげ、指ちぢめ、指かえ、指こえ・指くぐり(ハ<br>長調音階反行, 平行)   |
| 第12回 | 小テスト②<br>C, D, F, G-Durのコード進行(左手)の試験<br>『おはようのうた』右手メロディー、左手コードでの<br>弾き歌い試験                    | p. 30 指ひろげ、指かえ、指こえ、音階の一部を<br>使ったこどものうたの例<br>コード C, D, F, G-Durのコード進行(カデンツ)<br>(左手のみ)                             |
| 第13回 | 左手コード、《おはようのうた》の復習<br>《みずあそび》コードでの弾きたい<br>連弾について説明  | p. 32 コード C, D, F, G-Durのコード進行<br>セブンスを含む(左手のみ)<br>連弾について説明  |
| 第14回 | p. 21 両手コード伴奏 ハ長調<br>『おかえりのうた』両手伴奏<br>連弾 曲決め、練習   | 小テスト③<br>C, D, F, G-Durのコード進行(左手)の試験<br>p. 33 《おはようのうた》右手メロディー左手コードの<br>弾き歌い、<br>p. 34 《おかえりのうた》歌だけ<br>連弾 曲決め、練習 |
| 第15回 | p. 21, 22, 23 (両手コード伴奏, ペダル)<br>《おかえりのうた》両手伴奏弾き歌い<br>連弾練習                                     | 《おはようのうた》, 《おかえりのうた》<br>右手メロディーと左手コード伴奏の弾き歌い<br>連弾練習   |
| 第16回 | 前期末試験<br>《おはようのうた》右手メロディー左手コード伴奏で<br>の弾き歌い<br>《おかえりのうた》両手コード伴奏での弾き歌い<br>連弾発表                  | 前期末試験<br>《おはようのうた》, 《おかえりのうた》<br>右手メロディーと左手コード伴奏の弾き歌い<br>連弾発表  |

これまでの旧教材と、今回作成した新教材との授業実践後の数値的な比較、分析を行う。

まずは A グループと B グループの前期授業の成績(満点 100)を比較した。この成績はそれぞれのグループでの各小テスト、また期末試験の点数と教員による評価を総合して評価したものである。

A グループと B グループの平均点の差が統計的に有意か確かめるために、有意水準 5%で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(47)=0.87$ ,  $p=.39$  であり、A グループと B グループの平均点の差に有意差は見られなかった。検定の結果を表 45 に示す。

表 45

| t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定 |              |             |
|--------------------------|--------------|-------------|
|                          | 変数 1         | 変数 2        |
| 平均                       | 81.33333333  | 84.4        |
| 分散                       | 144.5797101  | 157.9166667 |
| 観測数                      | 24           | 25          |
| プールされた分散                 | 151.3900709  |             |
| 仮説平均との差異                 | 0            |             |
| 自由度                      | 47           |             |
| t                        | -0.872158588 |             |
| P(T<=t) 片側               | 0.193777831  |             |
| t 境界値 片側                 | 1.677926722  |             |
| P(T<=t) 両側               | 0.387555661  |             |
| t 境界値 両側                 | 2.011740514  |             |

この結果により、A グループと B グループの成績には、有意差は無いということが分かった。

授業後の学生のアンケートによる自己評価についても両グループの比較を行った。

授業後のアンケートには、自己評価の観点から 20 の質問項目を 4 択で選択する質問と、授業の感想や意見等を自由に文章で記述する 1 項目のアンケートとした。本章末に資料 3 として示す。

選択肢 A~D の回答を、4~1 に点数化し、自己評価についての 20 の質問への全ての回答の点数を、対象者ごとに平均化したものが表 46-A, 46-B である。

表 46-A

| 対象者 | 平均値  |
|-----|------|
| A1  | 2.70 |
| A2  | 3.55 |
| A3  | 3.35 |
| A4  | 2.70 |
| A5  | 2.90 |
| A6  | 3.00 |
| A7  | 3.15 |
| A8  | 3.55 |
| A9  | 3.30 |
| A10 | 3.35 |
| A11 | 2.60 |
| A12 | 3.35 |
| A13 | 2.35 |
| A14 | 3.55 |
| A15 | 3.60 |
| A16 | 3.20 |
| A17 | 3.20 |
| A18 | 3.21 |
| A19 | 3.10 |
| A20 | 2.40 |
| A21 | 2.58 |
| A22 | 2.95 |
| A23 | 3.45 |
| A24 | 2.80 |

表 46-B

| 対象者 | 平均値  |
|-----|------|
| B1  | 3.10 |
| B2  | 2.95 |
| B3  | 3.60 |
| B4  | 3.30 |
| B5  | 3.20 |
| B6  | 3.20 |
| B7  | 3.40 |
| B8  | 2.50 |
| B9  | 2.35 |
| B10 | 3.40 |
| B11 | 3.20 |
| B12 | 2.75 |
| B13 | 2.28 |
| B14 | 2.35 |
| B15 | 2.80 |
| B16 | 3.60 |
| B17 | 2.80 |
| B18 | 2.65 |
| B19 | 2.25 |
| B20 | 3.55 |
| B21 | 3.55 |
| B22 | 2.95 |
| B23 | 3.10 |
| B24 | 3.55 |
| B25 | 3.45 |

自己評価の点数の平均についても、両グループの結果の有意差について分析した。表 47 に検定の結果を示す。

表 47

| t-検定: 等分散を仮定した 2 標本による検定 |             |             |
|--------------------------|-------------|-------------|
|                          | 変数 1        | 変数 2        |
| 平均                       | 3.07872807  | 3.033005848 |
| 分散                       | 0.142950088 | 0.200089182 |
| 観測数                      | 24          | 25          |
| プールされた分散                 | 0.172127498 |             |
| 仮説平均との差異                 | 0           |             |
| 自由度                      | 47          |             |
| t                        | 0.385637969 |             |
| P(T<=t) 片側               | 0.350752404 |             |
| t 境界値 片側                 | 1.677926722 |             |
| P(T<=t) 両側               | 0.701504808 |             |
| t 境界値 両側                 | 2.011740514 |             |

有意水準 5% で両側検定の  $t$  検定を行ったところ、 $t(47)=0.39$ 、 $p=.70$  であり、A グループと B グループの自己評価平均値の平均点の差に有意差は見られなかった。

これらの結果から、2018 年 4 月～7 月の授業期間において、使用する教材や指導の方法の違

いによる、成績や自己評価に関する大きな違いは無かったことが明らかとなった。この結果は、まず両グループの授業の目的、内容や、到達点、評価の観点が同じであること、実際の教育現場での調査であり、授業の期間や回数が同じであること等が理由であると考えられる。

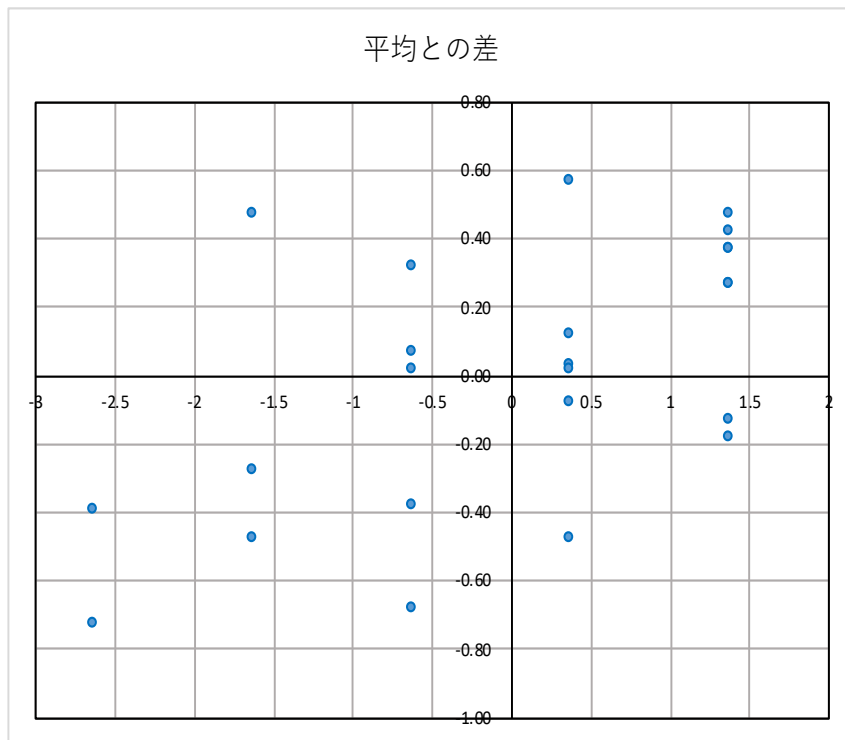
続いて、両グループの、成績と自己評価の関係について分析、考察を行う。

他者(この場合は教員)からの評価による成績と、学生自身の自分への評価である自己評価との関わりについて図式化するために、前期末の成績の数値について、90～100点を5、80～89点を4、70～79点を3、60～69点を2、60点未満を1と5段階の評価に分類した。

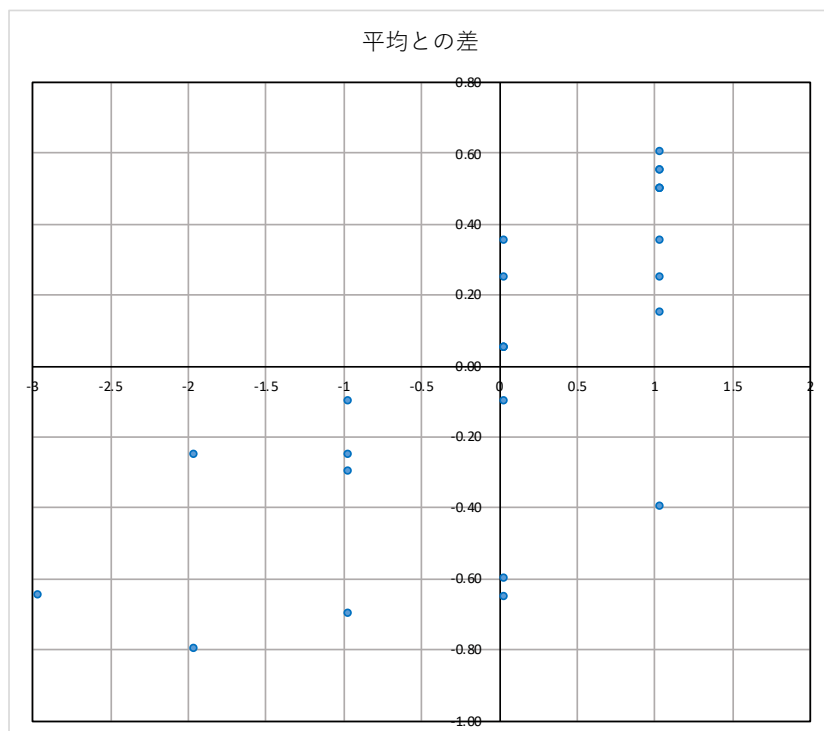
この成績評価の平均値との差、また自己評価の平均値との差について、各グループの分散をグラフ 5-A、グラフ 5-B にそれぞれ図式化した。グラフの横軸は成績と成績の平均との差であり、縦軸は自己評価と自己評価の平均との差である。



グラフ 5-A Aグループ



グラフ 5-B Bグループ



縦軸と横軸の中心 0 から見て、右上は成績が平均より高く、自己評価も平均より高い。右下は成績が平均よりも高いが、自己評価は平均よりも低い。左上は成績が平均よりも低い、自己評価は平均よりも高い。左下は成績が平均よりも低く、自己評価も平均より低いことを、それぞれ表している。

A グループのグラフと B グループのグラフを比べると、明らかに差が見てとれる。A グループは成績が平均よりも高いのに自己評価が平均よりも低い、自己を過小評価している学生や、成績が平均より低い、自己評価は平均よりも高い、自己を過大評価している学生がそれぞれ複数散見される。それに比べると、B グループのグラフは、中心 0 から見て右上と左下に分布が集中しており、成績が平均よりも高い学生は自己評価も平均より高く、成績が平均よりも低い学生は、自己評価も平均より低くなっている。新教材を用いて授業を行った B グループのほうが、旧教材を用いて授業を行った A グループよりも、成績評価と自己評価が一致している実例が多く、ほとんどの学生が一致していた。

分析を行ったところ、A グループの相関係数が 0.57、B グループの相関係数が 0.71 となった。両グループとも相関があるが、B グループのほうがより強い相関があることが示された。

B グループは A グループに比べて、授業の成績と自己評価について自己認識が客観的に、適切になされている。

この結果から、今回作成した新教材で授業を行ったグループのほうが、旧教材で授業を行ったグループよりも、自己認識が適切にされており、このことは学習への意欲向上や、課題や練習への取り組みへの動機づけにつながるものと考えられる。

学生の授業後アンケートの自由記述についても考察する。A グループからは 18 件の記述が、B グループからは 25 件の記述が得られた。A グループの記述を表 48-A に、B グループの記述を表 48-B に示す。

後期の授業に向けての意欲的な記述や、グループレッスンに対して好意的に感じている内容の記述が多かった。中には両グループから 1 件ずつ「授業の進度が速く、ついていけなかった」という趣旨の記述があったので、対応の検討が必要である。協同で学びの体験ができる「連弾が楽しかった」という意見や、経験者が「改めて初歩的な内容を復習できたことが良かった」、などの、全体的には前向きな意見が多かった。

表 48-A 授業後アンケート A グループの自由記述内容

|  |
|--|
| 毎日は練習できず、せめて週1はするようにしていた。後期は少しでも増やしたい。                                       |
| 同じグループの子が上手くなっていたり、曲の雰囲気合った弾き方をしていることに気づけたり、自分に良い刺激となった。連弾も楽しかった。            |
| 初心者にあった授業で、基礎的なことから細かく教えてもらえて分かりやすかった。                                       |
| たまに授業の進度に間に合わなかったことがあった。コードの説明がすごく適切で良かった。                                   |
| 初心者だったので前期だけではみんなと同じレベルに達することが出来なかったが、夏休み中も少しずつ練習して上達したい。                    |
| ピアノを弾くときに指の形を意識して練習したがなかなか上手くできなかった。後期頑張りたい。                                 |
| コードが難しく大変だったけど保育園でよく聴く曲などが弾けるようになりうれしかったし楽しかった。                              |
| 先生からのアドバイスを注意して練習していたが、どうしても指番号を間違えたり、姿勢が悪くなってしまうことが多かったので後期はもっと意識したい。       |
| 前期だけでかなり上達したと思う。人前で弾くのは緊張するし、うまく出来ないことが多いが、重要なスキルのひとつとしてしっかり身につけたい。          |
| 楽しく授業を受けることができた。前よりピアノが上手になったような気がする。  |
| 高校の時とは違った授業の仕方で新鮮だった。練習の大切さが改めて感じられた。  |
| 他の人の弾き方も見れるので、グループだと自分磨きができる。  |
| 後期は更に意欲的に取り組みたい。   |
| 自分が幼稚園の頃以来のレッスンだったが楽しみながら取り組むことが出来た。簡単な曲なら弾き歌いが出来るようになったので、後期もこの調子で頑張りたい。    |
| 毎日練習する時間をとることが出来なかった。また弾き歌いであまり大きい声が出せなかったので、間違えてもいいからしっかり歌うようにしたい。          |
| 初見は本当に簡単な曲しかできないけれど、少しずつブランクを取り戻している気がする。                                    |
| コードが全く分からなかったけど、前期の授業を受けて少し分かるようになった。ピアノの練習は毎日はやらなかったので、後期は毎日少しずつ練習するようにしたい。 |
| あまり練習時間がとれずにレッスンを受けたのが少し残念だった。   |

表 48-B 授業後アンケート B グループの自由記述内容

|   |
|---|
| あまり練習はできず自分自身が成長することができていなかった。学んだことが多くあるので後期ではもっと練習し頑張りたい。  |
| ピアノに初めて触れてみてまだ慣れないことがあるので後期は努力したい。  |
| ピアノに精一杯でまだ弾き歌いが上手く出来ないので後期頑張りたい。左手のコードも苦手なので夏休みに練習したい。  |
| 初心者で授業についていけないか不安だったが、ゆっくり進めてくれたので、遅れることもあったがついていくことが出来て良かった。   |
| 授業の速さについて行けないとがあり、出来ないところを解消するまで時間がかかることがあった。<br>人前だと緊張して練習のように弾けなかったのを、緊張してちゃんと弾けるようになりたい。                       |
| 丁寧に教えてくださって助けになった。まわりの演奏を聞いて自分が遅れていると感じたので後期頑張ろうと思った。   |
| もっとピアノの練習に時間を使えば良かった。練習ではできたのにテストでは全然できなくてくやしかった。   |
| 初めてのピアノで難しさを痛感した。ドレミが読めるようになったのは良かった。初心者には少しペースが早いと感じ、大変だった。  |
| 練習で出来ていたつもりでも本番ではミスが多かった。毎日練習すべきだった。後期は頑張りたい。   |
| 後期はもっと上達できるようにがんばります。   |
| 毎日少しでもいいので練習するようにしたい。   |
| コードが読めるようになって良かった。後期はもっと練習時間をとれるようにして上手くなれるよう頑張りたい。   |
| コードが苦手のできるか不安だったが弾けるようになった。あまり練習できなかったのが反省です。   |
| 基礎的なことからしっかりと学べたと思う。個人レッスンの時間は緊張したが有意義なものだったと思う。  |
| グループレッスンはみんながいるので安心して弾きやすく、心地よい環境でできた。  |
| 練習する時間があまりとれず練習不足で歌声も小さかったのを、後期への課題とし引き続き頑張りたい。   |
| 弾き歌いは初めてでしたが楽しかった。レベル別にグループを分けてほしい。   |
| はじめは、7年間ピアノを弾いておらず、前より全然弾けなくなっていた自分を認めたくなく、あまり練習しなかった。<br>でも先生が優しくだったので将来のためにも頑張ろうと思うようになった。後期は今の自分と向き合いもっと頑張りたい。 |
| 初歩的なことを改めて学べて良かった。人前で弾くときにあまり緊張しないで弾けるようにしたい。   |
| ピアノの授業がなければ弾き歌いは経験できなかったので良い機会だった。連弾が楽しかったのでまたやりたい。   |
| 経験はあるが技術がないので、この授業で基礎から学び直すことができて良かった。反省点として毎日練習できなかったのを改善したい。  |
| 自分なりに弾けて良かった。   |
| 経験者ではあるが、もっと上達出来るように練習を毎日したい。   |

客観的な評価、意見を求めるために、T・T(チームティーチング)で、共同で授業を行った本学非常勤講師、聖和学園短期大学准教授の岩淵摂子氏と、宮城県の保育者養成の音楽教育に長年携わっている聖和学園短期大学特任教授の松村万里子氏の両氏に、教材に対する意見を仰いだ。以下に、両氏からのコメント記す。

#### 聖和学園短期大学准教授 岩淵摂子氏からのコメント

「以前の教材と比べて、指ひろげや指ちぢめ等のテクニックを、その要素だけを取り出して繰り返し練習するだけではなく、学生が知っている曲でもある子どもの歌の曲の中から「例」として該当する部分を抜き出し練習することで、興味や意欲を持ってテクニックの練習ができており、初学者が学習する上で、この点は効果的であったと言える。曲の中で、演奏するのに必要な指ひろげ等のテクニックを意識することができ、これは今後の学生自身が新しい曲を学習する際にも役立つと考えられる。また、本務校では習熟度別にクラス分けをしてピアノの授業を行っているが、それと比較すると、本授業では、受講した学生の中にはピアノの経験者も複数おり、初学者と経験者がグループレッスンで授業を行い、習熟度別にクラス分けを行わなかったことで、初学者にとっては同じ教材を、自身よりも能力が高い経験者が弾く様子を間近で見ることができ、良い学習経験になったと感じる。さらに、経験者が初学者に助言し、協同で学習する姿が見られたことや、経験者の授業後アンケートのコメントにあった、「改めて基礎を学び直すことができて良かった」等の意見から、経験者にとっても初学者への効果とはまた違った良い効果があったと考える。

教材にテクニク的な「練習曲」が多かったことは、授業の進め方がやや難しくなる印象であった。教材に練習曲を掲載する分には良いが、すべての曲を授業時間の中で行うのは時間的にも、初学者の学生が行うという意味でも、難しい印象である。また、教材の p.8「練習7」は、それまでの練習に比べ急に難しくなる印象がある。これまでは順次進行であったが、この曲から右手に3度の跳躍が出現し、また右手と左手の異なる動きがあり、初学者にとっては困難であると思われる。p.13 にバルトークのマイクロコスモスからの引用で、両手ユニゾンの5指のポジションの練習が登場するが、この練習は、p.8「練習7」の前においたほうがよいのではないかと感じた。

文章表現の部分では、分かりにくいと感じる部分が複数箇所あった。例えば p.4 の「右手の場合、1の指をミ、5の指をシ、左手の場合1の指をシ、5の指をミの音の～」という部分である。また、p.15 の「弾き歌いにチャレンジ」の文章での説明は、細かく説明されているが、項目が10項目と多いので、見やすく分かりやすくする工夫が必要であると感じた。教材の中には、変化記号について、特に調号と臨時記号の違いの説明や、繰り返し記号についての説明が不足していたので、それらを追加すると良い。

全体的には、ピアノを弾く姿勢や、手指の形が写真で掲載されていたり、また、指ひろげ、指ちぢめや指かえについて初学者にとって分かりやすく、テクニックの習得に子どもの歌を例として扱うことで興味や意欲を持って取り組めるような配慮がされていたりと、教材として概ね良好であったと考える。今後のさらなる改良、改善にも期待したい。」

また、第三者からの評価、意見として、宮城県立保育専門学院の教員を経て、聖和学園短期大学保育学科の教授、学科長を務め、現在は同短期大学特任教授であり、宮城県における保育者養成校の音楽教育に長年携わり、保育者への音楽教育に関して多大な貢献をなさっている、松村万里子氏に、教材への評価を頂いた。

聖和学園短期大学特任教授松村万里子氏からのコメント

「保育者、小学校教員の養成校に入学する学生のうちの約半数は、ピアノの経験が全く無いか、幼少時に少し経験があるだけの、ピアノの初学者です。養成校ではこれまで初学者に対するピアノ指導について、指導の手段や方法、またカリキュラム等の多様な観点から継続して研究がなされてきました。

この教材には、これまでの教材にはほとんど掲載されていない、心身をリラックスし、ピアノを弾く姿勢や、特に手や指の動かし方、使い方について、初学者にとって分かりやすく説明されていて、そして学習者が自学自習できるように、一人でも練習できるように配慮されて作成されています。また、音の読み方、拍子、調号等に関する知識のうち、初学者にとって必要な、初歩的な音楽のしくみについて、順を追って理解し、ピアノを弾くことと並行して学習できるよう組み立てられています。

短い期間の中で、初学者が無理なく効果的に、音楽の基礎的なことや、ピアノを弾く、弾き歌いをする初歩的な技術が理解しやすく書かれていると思います。近年は、養成校で学ぶ学生でも、童謡や子どもの歌、わらべうたなどの、歌そのものを知らない学生も増加しています。ピアノを弾くテクニックを、子どもの歌を通して、子どもの歌を弾き、歌いながら学べることは、初学者にとっても、また経験者にとっても「保育現場での音楽表現」という観点から学習効果があると感じました。

私は不肖ながらこれまで40年余、保育者養成校での音楽教育、ピアノ指導に関わって参りました。その経験と、保育現場との関わりの中から得られたものとして、「子どもと歌う」ときに、保育者も子どもも「楽しい」と感じるためには、一定のピアノや歌を歌う技能、技術が必要である、ということです。最低限必要な1つの技能として、右手でメロディー、左手でコード伴奏を弾くことができること、が必要だと考えます。右手でメロディーが弾け、さらにコードで伴奏ができれば、歌を歌う活動だけでなく、さまざまな保育、教育活動の中に音楽を取り入れ、「表現」

の活動を発展させることができる可能性が生まれるからです。

この教材の日常の繰り返しによって、読譜力を養い、音楽を総合的に学習することができ、さらにはピアノに対する学生の意欲が向上すること、豊かな音楽性が身につくことが考えられ、またゆくゆくは音楽の「楽しさ」まで感じられるようになることと考えます。今後も教材の推敲、考察を重ね、改良を継続し、教材としての完成を目指し、完成した際には、ぜひ多くのピアノの初学者にお使いいただき、「ピアノは楽しい」と思えるように養成の現場で活用されてほしいと願います。」

両氏からは、概ね良好である、との評価を、また今後に対する期待感を含む意見を頂くことができた。

資料 3

**ピアノ入門 授業後アンケート(2018)**

学籍番号： \_\_\_\_\_ 氏名： \_\_\_\_\_

今年度四月（入学前）までのピアノの経験  
およそ \_\_\_\_\_ 年

◇4 月からを振り返り、前期のグルーブレッスンを振り返り、答え  
て下さい。

**前期の分**

ピアノ入門(グルーブレッスン)を終えての、自己評価について  
以下の各質問に対して、自分が当てはまるのを選び、○で囲  
んで下さい。

- |  |
|--|
| A よくあてはまる<br>B まあまあ あてはまる<br>C あまりあてはまらない<br>D 全然あてはまらない |
|--|

- ・授業（レッスン）に真剣に取り組んだ。  
A B C D
- ・毎日欠かさず練習をした。  
A B C D
- ・授業（レッスン）を受ける前よりは、ピアノがよく弾ける  
ようになった。  
A B C D
- ・4月から3ヶ月間で、「ピアノが上達した」と感じる。  
A B C D
- ・楽譜の音の高さ・低さに関してよく読めるようになった。  
A B C D
- ・楽譜の音の長さ・短さに関してよく読めるようになった。  
A B C D
- ・リズムを理解できるようになった。  
A B C D
- ・コードが読めて、弾けるようになった。  
A B C D
- ・簡単な曲なら、弾き歌いが出来るようになった。  
A B C D
- ・簡単な曲なら楽譜をばっとみて(初見で)弾けるようになっ  
た  
A B C D

- ・ピアノを弾くときに、姿勢に気をつけている。  
A B C D
- ・ピアノを弾くときの手指の形、使い方に気をつけている。  
A B C D
- ・ピアノを弾くときに椅子の高さに気をつけている。  
A B C D
- ・右手の指使いを理解し、気をつけて弾いている。  
A B C D
- ・左手の指使いを理解し、気をつけて弾いている。  
A B C D
- ・ハ長調の音階を正しい指使いで弾くことが出来る。  
A B C D
- ・左手のコード進行を正しい指使いで弾くことが出来る。  
A B C D
- ・前期のグルーブレッスンは分かりやすかった。  
A B C D

**前期中の平均練習回数**

- 1週間あたり、
- A. 毎日練習した
  - B. 週に5,6日は練習した
  - C. 週に3,4日は練習した
  - D. 週に1,2日は練習した

**前期中の平均練習時間**

- 1週間あたり、
- A. 5時間以上
  - B. 3時間以上5時間未満
  - C. 1時間以上3時間未満
  - D. 1時間未満

ピアノ入門グルーブレッスンについて、感想や反省、意見な  
ど、自由に記述して下さい。

ご協力ありがとうございました♪



## 第6章 結論

筆者は、自身のこれまでの保育者、小学校教員養成課程におけるピアノ指導に従事してきた経験の中で、大学に入学し初めてピアノを学習する学生が、困難を抱え苦勞しながらも、単位の履修や、実習のため、また就職試験といった将来のために、何とか目の前のピアノに関するそれぞれの課題をクリアしようと、懸命に取り組んでいる姿を見てきた。また、途中で挫けてしまったり、諦めてしまったりという学生とも少なからず関わってきた。その中で、養成校でのカリキュラムの編成や、授業の内容や指導法に目を向け、特にピアノ初学者へは、導入段階である初期の教育の重要性を感じ、また現状の養成校で用いられているピアノ教材にまだ再考の余地があるのではないか、と考えるようになり、今回教材を開発、作成しようとするに至った。

教材を作成するにあたり、保育所保育指針や幼稚園教育要領、小学校学習指導要領が改正、改訂される過渡期を過ごしている現在、今一度現場からの声に耳を傾ける必要性を感じ、その結果を教材作成への指標とすべく、作成前と、作成中にも保育者や小学校教諭への調査を行った。その結果、「ピアノはもちろんできるに越したことはないが、それよりも音楽の楽しさを子どもたちに伝えられるような保育者、教員になってほしい」という意見が多く見られた。また、ピアノの技能についても、弾けることは大切であるが、現場では片手で旋律だけでも弾けて同時に歌うことができれば、保育や教育の表現活動は可能である、という多くの声や、ピアノ単独の活用よりも弾き歌いができること、子どもたちに目を向けながらピアノを弾くことができること、などの重要性についての意見を受け取ることができた。

ただし、初学者のことを考えると、上記のピアノや歌を伴った保育、教育の活動を行うには、やはり知識と理論を身に付け、活用できるようになるまでには、基礎的、基本的なある一定の訓練的な練習も必要である。表現に至るまでの、練習への意欲や気持ちが途切れずに、将来まで継続できるような音楽経験を、養成校で経験できればどんなに素晴らしいことであろうか、と考える。

今回作成した新しい教材での、試み的に行った授業では、成績や自己評価の数値の結果には、旧教材と新教材を使った両方で明らかに大きな変化は見られなかった。これには、教育現場での調査であり、授業の期間や回数、さらに到達する目標や、学習内容、評価の観点等が同様であったこと、また前期のみと期間が比較的短く、受講する学生の人数も多くはなかったこともその一因であるとする。

しかしながら、成績と自己評価の関係について分析、考察を行ったところ、明らかな違いを見出すことができた。教員が評価した成績と、学生自身の自分への評価である自己評価との関わりでは、新教材を使用し授業を行ったグループは、旧教材を使用して授業を行ったグループよりも、成績評価と自己評価が一致している事例が多く、ほとんどの学生に一致が見られた。授業での他

者からの評価と自己の評価について自己認識が客観的に、適切になされている、と言える。教材の違いだけがこの結果の原因であるとは言えないが、少なくともこのことは、学習への意欲向上や、課題や練習への取り組みへの動機づけに、また適切な自己肯定感につながり、目標の設定や達成への適切な見通しを持ち、能力向上のための主体的な活動をするにあたって、有用な一助になり、ピアノ初学者の効果的な学びへとつながる。

学生たちが将来、子どもたちとの豊かな音楽表現活動を共有できるように、保育者、教育者の育成に貢献したい。そのためにも、今後も継続して教材の改善に取り組み、また本論の成果を活かし、教材の続編の作成を推進していきたい。

## 参考文献

### (1) 日本語文献

- アンスガー・ヤンケ, 晴美・ヤンケ 2016 『ピアノ・テクニックの科学 プロフェッサー・ヤンケのピアノ・メソッド』 東京: アルテスパブリッシング
- 飯田有抄, 前島美保 2014 『ブルグミュラー -25 の不思議-なぜこんなにも愛されるのか』 東京: 音楽之友社
- 泉谷千晶 1999 「フランスの「フォルマシオン・ミュージカル」の変遷と改革」『青森明の星短期大学研究紀要第 25 号』: 1~29
- 泉谷千晶 2000 「保育者養成課程の「音楽」の視点と総合的な授業展開の試み-フォルマシオン・ミュージカルの応用の可能性-」『青森明の星短期大学研究紀要第 26 号』: 1~19
- 泉谷千晶 2006 「初心者のためのピアノ・グループ指導の研究~保育者養成課程における実技のカリキュラムの工夫~」『青森明の星短期大学研究紀要第 32 号』: 25~40
- 泉谷千晶 2008 「ピアノグループレッスンの教授法に関する研究(1)~学生の意識調査と満足度の要因分析から~」『青森明の星短期大学研究紀要第 34 号』: 35~53
- 伊藤嘉子, 他 2006 『ピアノへのアプローチ 4 ステップス 幼稚園教諭・保育士をめざす人のためのテキスト』 東京: 音楽之友社
- 井上直幸 1998 『ピアノ奏法—音楽を表現する喜び』 東京: 春秋社
- 今井由恵 2013 「保育者・教育者養成におけるピアノ学習に対する意識変容に関する調査と分析」『北海道教育大学論集第 14 号』: 97~112
- 今川恭子他 2008 『幼稚園教諭・保育士・小学校教諭養成課程用 おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論』 東京: 教育芸術社
- 今川恭子他 2016 『音楽を学ぶということ-これから音楽を教える・学ぶ人のために-(幼稚園教諭・保育士・小学校教諭養成課程用)』 東京: 教育芸術社
- 上田泰 2016 『パリ国立音楽院とピアノ科における教育(1841~1889): 制度、レパートリー、美学』 (東京芸術大学博士論文)
- 上田泰史 2011 「身体化される「古典音楽」-F. カルクブレンナーの「手導器」と《ピアノ・メソッド》に関する一考察」『東京芸術大学大学院音楽研究科 音楽文化学論集 1』: 1~11
- 上田泰史 2017 『「チェルニー30番」の秘密 -練習曲は進化する-』 東京: 春秋社
- ウォルフ, コンラッド 1974 『シュナーベル ピアノ奏法と解釈』 千蔵八郎(訳) 東京: 音楽之友社
- 浦田真理子 2007 「ピアノ指導に関する一考察 -音と心の関係に視点をあてて-」『松本短期大学紀要第 16 号』: 125~136
- エーゲルディンゲル, ジャン=ジャック 2005 『弟子からみたショパン—そのピアノ教育法と演奏美学(増補・改定版)』 米谷治郎, 中島弘二(訳) 東京: 音楽之友社

- 大宮真琴 1994 『ピアノの歴史 楽器の変遷と音楽家のはなし』 東京：音楽之友社
- 大宮真琴, 徳丸吉彦 1985 『幼児と音楽』 東京：有斐閣
- 奥好義, 編 1890 『洋琴教則本』 国立国会図書館デジタルコレクション (PDF)  
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/855026x> (2017年9月11日閲覧)
- 小倉貴久子, 他 2013 『よくわかる ピアニスト呼吸法 呼吸を変えれば脱力できる！表現力がアップする！』 東京：ヤマハミュージックメディア
- 小倉隆一郎 2013 「幼児教育および小学校教員養成課程におけるピアノ基礎技能テキストの考察」『文教大学教育学部第47集』: 23～32
- 「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会 1984 『お茶の水女子大学百年史』 東京：「お茶の水女子大学百年史」刊行委員会
- 小野由恵 2012 「保育者・教育者養成におけるピアノ学習の実態調査に基づく学習支援の課題」『北海道教育大学論集第13号』: 83～96
- 小野亮祐, 多田純一 2015 「『バイエルピアノ教則本』 École Préliminaire de Piano 初版について-複数の初版とその版数および刷りの解明-」 『北海道教育大学紀要(教育科学編)第66巻第1号』: 195～205
- カヴァイエ, ロナルド, 西山志風 1987 『日本人の音楽教育』 東京：新潮社
- 活水学院百年史編集委員会 1980 『活水学院百年史』 長崎：活水学院
- ガート, ヨゼフ 1974 『ピアノ演奏のテクニック』 大宮真琴 (訳) 東京：音楽之友社
- 金指初恵 2009 「弾き歌いに関する一考察：教育実習事前指導の観点から」『埼玉学園大学紀要人間学部篇第9巻』: 197～206
- カラント, エリーザベト 1998 『デッペのピアノ奏法理論』 原田吉雄 (訳) 東京：全音楽譜出版社
- カン, ハンス 1987 『ピアノ演奏 おぼえがき』 城房枝 (訳) 東京：音楽之友社
- 菊本哲也, 他 2000 『ピアノ教本ムジカ』 東京：全音楽譜出版社
- 樹原涼子 2016 『プレ・ピアノランド①』 東京：音楽之友社
- 木許隆, 他 2007 『保育者のためのリズム遊び』 東京：音楽之友社
- 桐岡亜由美, 他 2014 「保育士および幼稚園・小学校教員養成課程におけるピアノ指導に関する考察：学生の実態調査を踏まえて」『京都女子大学発達教育学部紀要 (10)』: 11～19
- クーブラン, フランソワ 1976 『クラヴサン奏法』 山田貢 (訳) 東京：シンフォニア
- クーブラン, フランソワ 1977 『クラヴサン奏法』 佐藤峰雄 (訳) 東京：音楽之友社
- 倉橋惣三, 新庄よし子 1930 『日本幼稚園史』 京都：臨川書店
- クーロ, ジャン・ピエール 2008 『音楽家への第一歩 新しいソルフェージュ《フォルマシオン・ミュージカル》入門コース第1巻A』(同第1巻B, 第2巻A, 第2巻B) 船橋三十子 (訳) A・ルドユック社
- クーロ, ジャン・ピエール 2005 『音楽家への第一歩 新しいソルフェージュ《フォルマシオン・ミュージカル》基礎コース第1巻A』(同第1巻B, 第2巻A, 第2巻B) 船橋三十子 (訳) A・ルドユック社

- 呉暁, 桐山晴美 1969 『リズムの基礎』 東京: 音楽之友社
- 厚生労働省 2008 『保育所保育指針解説書』 東京: フレーベル館
- 厚生労働省 2018 『保育所保育指針解説書』 東京: フレーベル館
- 国府華子 1999 「わが国における明治初期のピアノ教育-音楽取調掛, 東京音楽学校を中心に-」『音楽教育史研究第2巻』: 25~36
- コチェヴィツキー, ジョージ 1985 『ピアノ演奏技法』 黒川武(訳) 東京: サミーミュージック
- 小林美実 1975 『こどものうた 200』 東京: チャイルド本社
- 小林美実 1996 『続こどものうた 200』 東京: チャイルド本社
- 小林美実, 井戸和秀 1982 『こどものうた 100』 チャイルド本社
- コラジジョ, ピーター 2005 『ピアノ・テクニックの基本』 坂本暁美, 坂本示洋(訳) 東京: 音楽之友社
- コルトー, アルフレッド 1994 『コルトーのピアノメソード』 八田惇(訳) 東京: 全音楽譜出版社
- 近藤久美 1995 「初心者向けピアノ教本についての研究(1)-バイエルピアノ教則本の場合-」『一宮女子短期大学紀要 34』: 176~177
- 酒井直隆 1985 『ピアニストの手 障害とピアノ奏法』 東京: 音楽之友社
- 酒井直隆 2012 『ピアノを弾く手 ピアニストの手の障害から現代奏法まで』 東京: 音楽之友社
- 坂井康子 2006 『幼稚園教諭、保育士、小学校教員をめざす人のためのピアノテキスト 歌おう! 弾こう! こどもとともに』 岡林典子, 坂井康子, 南夏世, 山崎和子(編著) 東京: ヤマハミュージックメディア
- 酒井玲子 2008 「日本におけるフレーベル教育の伝統-25周年記念 Jubiläum に寄せて-」『北星学園大学文学部北星論集第45巻2号』: 111~120
- 阪本朋子, 小西淳子, 田代恭也, 村崎愛, 西川眞美 2010 「学生の「ピアノ苦手意識」克服への取り組み」『芦屋女子短期大学研究紀要第36号』: 47~72
- 坂本麻実子 2006 「米国メソジスト派が導入したピアノ教育」『桐朋学園大学研究紀要第32集』: 51~66
- 佐藤峰雄 1996 『ピアノ入門書再考 ピアノはどう教えられてきたか』 東京: 音楽之友社
- 澤田まゆみ 2013 「保育士・幼稚園教諭に求められるピアノ・スキルとは何か」『新島学園短期大学紀要第33号』: 57~66
- 四家昌博, 菊地真知子, 岩淵摂子 2013 「本学の保育者養成課程におけるピアノ指導の課題と展望 -カリキュラムの見直しと学生のアンケートの結果から-」『仙台白百合女子大学紀要第18号』: 109~110
- ジャック=ダルクローズ, エミール 2003 『リズム・音楽・教育』 河口眞朱美(訳) 東京: 開成出版
- 初等科音楽教育研究会編 2011 『最新初等科音楽教育法[改訂版] 小学校教員養成課程用』 東京: 音楽之友社

- 初等科音楽教育研究会編 2018 『最新初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用 2017年告示「小学校学習指導要領」準拠』 東京：音楽之友社
- 全国大学音楽教育学会（編） 2013 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌 唱歌童謡140年の歩み』 東京：音楽之友社
- 全国大学音楽教育学会 九州地区学会 2014 『保育士・幼稚園教諭 小学校教諭養成のための ピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』 東京：カワイ出版
- 全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会編 2006 『歌う、弾く、表現する保育者になろう 保育士・幼稚園教諭養成テキスト』 東京：音楽之友社
- 高田美佐子 2016 『はじめてのフォルマシオン・ミュージカル 音楽力を育てる新しいソルフェージュ』 東京：ヤマハミュージックメディア
- 高御堂愛子 2011 「保育者・小学校教諭を目指す学生の読譜力とリズム感について -東海学園大学人文学部発達教育学科第2期生の実態調査より-」 『東海学園大学紀要：人文科学研究編第16号』：131～147
- 武石みどり 2009 「明治初期のピアノ-文部省購入楽器の資料と現存状況-」 『東京音楽大学研究紀要第33巻』：1～21
- 岳本恭治 2015 『ピアノ・脱力奏法ガイドブック1 《理論と練習方法》』 東京：サーベル社
- 田崎教子 2015 『音楽的活動における保育者の発信的・応答的能力の向上：クリニカル・ミュージシャンシップ援用の可能性』 （東京芸術大学博士論文）
- 多田純一 2010 「日本における『バイエルピアノ教則本』の受容と変遷」 『音楽教育史研究第13号』：53～68
- チェルニー，カール 2010 『ピアノ演奏の基礎』 Dritter Teil aus Vollständige theoretisch-practische Pianoforte-Schule Op. 500 岡田暁生（訳） 東京：春秋社
- チョクシー，ルイス，他 1994 『音楽教育メソッドの比較』 板野和彦（訳） 東京：全音楽譜出版社
- 辻浩美，鹿戸一範，田中麻衣 2017 「ピアノ初学者のための使用テキストの実態と傾向：全国の幼稚園教諭・保育士養成校のシラバスに基づいて」 『小池学園研究紀要(15)』：29～39
- ティエフリー，ジャンヌ（編） 1983 『アルフレッドコルトーピアノ演奏解釈』 店村新次（訳） 東京：ムジカノーヴァ
- テュルク，ダニエル ゴッドローブ 2000 『クラヴィーア教本』 東川清一（訳） 東京：春秋社
- 東京芸術大学音楽取調掛研究班編，浜野政雄・服部幸三監修 1976 『音楽教育成立への軌跡』 東京：音楽之友社
- 東京福祉保育専門学校編 2009 『現場で役立つ 幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』 東京：ドレミ楽譜出版社
- 東京保育専門学校五十年史編集委員会編 1979 『東京保育専門学校五十年史』 東京：聖心学園
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2015 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 東京：フレール館
- 長崎結美 2015 「保育者養成課程におけるソルフェージュ指導-フォルマシオン・ミュージカルの視点から-」 『帯広大谷短期大学紀要第52号』：31～38

- 長崎結美 2016 「「フォルマシオン・ミュージカル」教育内容の変遷に関する一考察-初級者用教材の分析を通して-」(『帯広大谷短期大学紀要第53号』:11~18)
- 永富和子 2007 『こうすればピアノは弾ける』 東京:学習研究社
- 中野研也, 河野久寿 2012 「保育現場で必要とされる音楽能力と, 幼児音楽教育の関連」『仁愛女子短期大学研究紀要(44)』:71~78
- 中山由里 2008 「ピアノ教育の導入機における授業についての一考察 -ピアノ学習初心者への講座を通して-」『九州女子大学紀要第44巻3号』:67~81
- 中村理平 1993 『洋楽導入者の軌跡-日本近代洋楽史序説-』 東京:乃水書房
- 日本保育学会 2010 『日本幼児保育史 第1巻』 東京:日本図書センター
- 野平多美 1994 「フランスの「フォルマシオン・ミュージカル」音楽家の基礎形成」の行方」『国立音楽大学研究紀要第29集』:191~201
- バスティン, ジェームズ(編) 1993 『効果的なピアノ指導法』 丸山太郎(訳) 東京:東音企画
- バッハ, カール・フィリップ・エマニュエル 2000 『正しいクラヴィーア奏法』 Versuch über die wahre Art Clavier zu spielen 東川清一(訳) 東京:音楽之友社
- 原田朋香 2010 「松野クララの経歴-先行研究の整理に基づいて-」『武庫川女子大学大学院教育学研究論集第5号』:119~128
- バーンスタイン, セイモア 1991 『ピアノ奏法20のポイント 振り付けによるレッスン』 大木裕子, 久野理恵子(訳) 東京:音楽之友社
- ピアノ・テキスト編集委員会 2008 『幼稚園教諭・小学校教諭・保育士養成課程のためのピアノテキスト -レッスン24とその応用- [改訂版]』 東京:ドレミ楽譜出版社
- フェレイラ, マリナ 2015 『ピアニストの筋肉と奏法』 八重樫克彦, 八重樫由貴子(訳) 東京:音楽之友社
- 深見友紀子, 他 2007 『保育士・幼稚園・小学校教諭を目指す人のために この一冊でわかるピアノ実技と楽典 増補版』 東京:音楽之友社
- 船橋三十子 2015 「新しいソルフェージュ - フォルマシオン・ミュージカルへの展開」『名古屋芸術大学研究紀要第36巻』:191~211
- ブランカール, ジャンヌ 1994 『初心者のためのピアノ・テクニックの基本的原理』 永富和子(訳) 東京:全音楽譜出版社
- 古市久子, 遠藤晶, 寺尾正 2001 「幼児の音楽教育における黎明期の実際とその表現的意味」『大阪教育大学紀要第IV部門第50巻第1号』:93~108
- 古屋晋一 2012 『ピアニストの脳を科学する: 超絶技巧のメカニズム』 東京:春秋社
- ペース, ロバート 2015 『未来に羽ばたくピアノ教育-ペース博士が伝えたかったこと』 神保洋子(訳) ペース・メソッド研究会
- ヘルマン, ゴフィア, 他 2012 『ショパン全書簡 1816~1831-ポーランド時代』 関口時正, 他(訳) 東京:岩波書店

保育教諭養成課程研究会 2017 『平成28年度 幼稚園教諭の養成課程モデルカリキュラムの開発に向けた調査研究 -幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える』 一般社団法人保育教諭養成課程研究会

細田敦子 1997 「保育における音楽教育の歩み-伊澤修二の音楽教育観-」『東京家政大学研究紀要第37集(1)』: 157~163

細田敦子, 他 2011 『かんたんメソッド コードで弾きうたい』 東京: カワイ出版

松藤弘之 2016 「ブルクミュラー「ピアノのためのやさしく段階的な25の練習曲 Op. 100」の考察(2)」『佐賀女子短期大学研究紀要第50集』: 49~60

三沢大樹 2014 「保育者養成課程の学生の音楽能力に関する基礎調査」『全国大学音楽教育学会研究紀要(25)』: 41~46

三沢大樹 2016 「保育者養成課程における学生の音楽能力と音楽リメディアル教育に関する報告」『全国大学音楽教育学会研究紀要第27号』: 1~10

三善晃 2008 『Miyoshi ピアノ・メソッド volume1(改定版)』 東京: カワイ出版

村上玲子, 三島瑞穂 2017 保育者養成校における教科目「保育表現技術」の捉え方と課題 -音楽担当者の立場からの考察- 『人間生活科学研究第53巻』: 21~31

望月勝久他 2001 『イラストでわかる障害児のリトミック指導』 愛知: 黎明書房

モルゼン, ウリ (編) 1986 『文献に見るピアノ演奏の歴史』 芹澤尚子 (訳) 東京: シンフォニア

諸井サチヨ 2016 「保育者養成校での『弾き歌い』指導に関する一考察~学生のピアノ技能に関する実態調査を中心に~」 『淑徳大学短期大学部研究紀要第55号』: 81~90

文部科学省 2008 『幼稚園教育要領解説 平成20年10月』 東京: フレーベル館

文部科学省 2018 『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』 東京: フレーベル館

文部科学省 2018 『小学校学習指導要領解説 音楽編 平成29年7月』 東京: 東洋館出版社

安田寛 1993 「唱歌導入の起源について」『山口芸術短期大学研究紀要第25巻』: 13~24

安田寛 1996 「晩年のトゥルジェーと日本の洋楽」『山口芸術短期大学研究紀要第28巻』: 1~5

安田寛 2012 『バイエルの謎 日本文化になったピアノ教則本』 東京: 音楽之友社

安田寛 (監修) 2016 『「バイエル」原典探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』 小野亮祐, 多田純一, 尾智絵 (著) 東京: 音楽之友社

山本美芽 2005 『21世紀へのチェルニー—訓練と楽しさと—』 東京: ショパン

山本美芽 2017 『ピアノ教本ガイドブック~生徒を生かすレッスンのために~』 東京: 音楽之友社

吉井妙子 2015 『音楽は心と脳を育てていた ヤマハ音楽教室の謎に迫る』 東京: 日経BP社



## (2) 欧文文献

Beyer, Ferdinand.

(出版年不明) *Elementary instruction book for piano. (Vorschule im Klavierspiel.)* Boston : Carl Prufer  
[[全訳バイエルピアノ教則本] 2008 東京 : 全音楽譜出版社]

Hofmeister: *Musikalisch-literarischer Monatsbericht.*

[ホフマイスター社出版カタログデータベース]

<http://www.hofmeister.rhul.ac.uk/2008/content/database/search.html> (2017年9月20日閲覧)

Hofmeister: *Musikalisch-literarischer Monatsbericht. Band: 1878*

[ホフマイスター社音楽月報 1878年版 デジタルカタログ]

Österreichische Nationalbibliothek [オーストリア国立国会図書館]

<http://anno.onb.ac.at/cgi-content/anno-buch?apm=0&aid=1000001&bd=0001878&teil=0203&seite=00000165&zoom=1> (2017年9月20日閲覧)

Merrick, Frank.

1958. *Practicing the Piano.* UK: Barrie & Jenkins

Plaidy, Louis.

1852. *Technische Studien für das Pianofortespiel.* Leipzig: Breitkopf & Härtel

[[プレディーア ピアノ教本] 1975 東京 : 全音楽譜出版社]

*Richardson, Nathan, 1827-1859. Nathan Richardson papers, 1849-1859: Guide. Biographical / Historical*

Harvard University Library (OASIS: Online Archival Search Information System)

<http://oasis.lib.harvard.edu/oasis/deliver/~hou01899> (2017年9月11日閲覧)

*Richardson's new method for the piano-forte*

: an improvement upon all other instruction books in progressive arrangement, adaptation and simplicity : founded upon a new and original plan, and illustrated by a series of plates, showing the position of the hands and fingers : to which is added rudiments of harmony and thorough-bass / [printed music]] (PDF)  
A collection for internal support at University of North Carolina at Chapel Hill. (Internet Archive)  
<https://archive.org/details/richardsonsnewme00rich> (2017年9月5日閲覧)

*The New England Conservatory Method For The Piano-Forte* (PDF)

Collection at Boston public library. (Internet Archive)

<https://archive.org/details/newenglandconser00tour> (2017年10月11日閲覧)

Urbach, Karl .

1886. *Prize piano school awarded the prize offered for competition.* Boston: Oliver Ditson

## 謝辞

本論文は筆者が日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程在学中に執筆したものです。

同大学の楊(蛭子)麗貞教授には、ピアノの演奏指導から論文指導まで、綿密にまた暖かくご指導を賜り、また本論の主軸である教材作成への多大なご助言を賜りました。遠方からの通学や、社会人として勤務しながらも在学中にリサイタルを開催できましたのも、先生の励ましによるものです。心より感謝申し上げます。

また同大学の平野昭先生には、音楽学的な観点や、様々な視点からの多様なアプローチでご指導、ご助言を賜りました。土野研治教授には、音楽療法や音楽教育学からの視点だけでなく、声楽やピアノの演奏法に関しても興味深いご指導を賜りました。田代幸弘教授からは、ピアノ教育、ピアノ指導法の観点からの貴重なご意見を賜りました。心から感謝の意を表します。

本論のための調査に協力して下さった保育者、小学校教員の皆様、また養成校でのピアノ指導担当教員の皆様にも、心より感謝申し上げます。データの収集に快く協力してくれた学生の皆さん、教材を使用した授業を担当して下さった聖和学園短期大学の岩淵摂子准教授、教材への評価とご助言を下された同大学松村万里子特任教授にも、感謝の意を表します。

勤務校の皆様には、社会人として勤務しながらの研究、執筆に配慮を頂きました。ここに御礼申し上げます。この他にも、多くの方々からご指導や励ましのお言葉を頂きました。研究生生活を支えて下さった全ての方々に、深く御礼申し上げます。